

市民意見リーダー

結果調査報告書

(2025年度)



郡山市

< 目 次 >

I 調査概要

1. 調査の目的	1
2. 調査の項目	1
3. 調査の設計	1
4. 集計・分析にあたって.....	2
5. グラフの種類	2
6. 回収率	2
7. 回答者の属性	3
(1) 性別	3
(2) 年代別	3
(3) 回答方法別.....	3
(4) 職業別	3
(5) 居住年数別.....	3
(6) 居住形態別.....	3
(7) 地域	4
(8) 現住所の直前の居住地別.....	5
(9) 現居住地の選定理由別《転入・転居者》(複数回答)	5
8. 回答者の属性《地域別集計》.....	6
9. 回答者の属性《年代別集計》.....	12

II 調査結果

1. 幸福度の現状について.....	13
(1) 幸福度	13
(2) 幸福度の判断の際に重視した事項(複数回答)	15
(3) ウェルビーイングの認知度.....	19
2. 郡山市の住みやすさについて.....	21
(1) 住みやすさへの評価.....	21
(2) 今後の居住意向.....	24
3. 郡山市まちづくり基本指針施策の満足度重要度.....	27
(1) まちづくりへの満足度結果一覧.....	27
(2) これからの取組み重要度結果一覧.....	31
(3) 施策の優先度《満足度と重要度の関係》.....	34
(4) 分野別属性別満足度結果.....	36
(5) 分野別属性別重要度結果(複数回答)	49

4. 行政センターの利用状況について.....	51
(1) 行政センターの利用頻度.....	51
(2) 直近の利用状況.....	53
(3) 市役所本庁と行政センターの利用頻度の差.....	55
(4) 行政センターを利用する目的.....	57
(5) 施設や駐車場の使いやすさ.....	59
(6) 利用したことがある対面以外の手続き方法.....	61
(7) 利用したい手続き方法.....	63
(8) 行政センターと連絡所の設置数.....	65
(9) 行政センターについての意見等.....	67
5. 市への意見や要望など.....	68
【分野Ⅰ】産業・仕事の未来.....	68
【分野Ⅱ】交流・観光の未来.....	68
【分野Ⅲ】学び育む子どもたちの未来.....	69
【分野Ⅳ】誰もが地域で輝く未来.....	69
【分野Ⅴ】暮らしやすいまちの未来.....	70
【分野Ⅵ】基盤的取組.....	71
(付) 調査票様式	
調査票	73

I 調 査 概 要

1. 調査の目的

時代とともに変化する市民意見の動向と現在の多様なニーズを把握し、今後の本市施策、事業の検討、推進、評価等の基礎データとして活用するために実施しました。

2. 調査の項目

- (1) 幸福度の現状について… 3 問
- (2) 住みやすさについて… 2 問
- (3) まちづくりについて（郡山市まちづくり基本指針に掲げる施策を基本とした 6 分野 45 項目についての満足度）… 45 問
- (4) これからの取組について（郡山市まちづくり基本指針に掲げる施策を基本とした 6 分野 45 項目についての重要度）… 1 問
- (5) 行政センターの利用状況について… 9 問
- (6) 対象者の基本属性について… 8 問
- (7) 市への意見や要望など（自由記載）… 1 問

3. 調査の設計

- (1) 調査地域：郡山市全域
- (2) 調査対象：郡山市内に在住する満 18 歳以上の者
- (3) 標 本 数：1,500 人（男性 752 人、女性 748 人）

<内訳>

		標 本 数	性別		年代別						
			男	女	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代 以上
全 体		1,500	752	748	33	191	220	269	274	262	251
地 区 別	旧市内	570	280	290	14	73	83	100	110	103	87
	富田	125	61	64	3	18	21	24	22	19	18
	大槻	150	74	76	3	17	22	27	28	26	27
	安積	156	79	77	4	20	23	30	27	24	28
	三穂田	19	10	9	0	2	2	3	4	4	4
	逢瀬	18	10	8	0	2	2	3	3	4	4
	片平	28	14	14	0	3	4	5	4	6	6
	喜久田	57	28	29	2	8	8	12	10	8	9
	日和田	48	24	24	2	6	8	9	8	7	8
	富久山	177	89	88	4	27	31	31	32	28	24
	湖南	13	7	6	0	0	1	2	2	4	4
	熱海	22	12	10	0	2	2	3	4	5	6
	田村	79	42	37	1	9	10	14	13	15	17
	西田	19	10	9	0	2	2	3	4	4	4
	中田	19	12	7	0	2	1	3	3	5	5

- (4) 抽出方法：住民基本台帳（令和 7 年 5 月 1 日現在）からの年代、地域を考慮した無作為抽出
- (5) 調査方法：郵送による調査票の配布・回収、インターネットでの返信
- (6) 調査期間：2025（令和 7）年 5 月 28 日～6 月 13 日（17 日間）
- (7) そ の 他：これまで「市民意識調査」として 2009 年度から実施。アンケートの回答は市民の皆さまの意見としていただくものであることから、2018 年度から「市民意見レーダー」と名称を変更。

4. 集計・分析にあたって

- (1) 図表中の「n」とは回答者総数（または該当者質問での該当者数）のことで、100%が何人の回答に相当するかを示す比率算出の基数です。
- (2) 数値（%）は単位未満を四捨五入しているため、総数と内訳の計が一致しないこともあります。
例：回答者総数 3 人で、「はい」：1 人（33.3%）、「いいえ」1 人（33.3%）、「無回答」：1 人（33.3%）の場合等、合計しても必ずしも 100%とはならない。
- (3) 図表中の数値（%）の合計と分析文中の数値（%）の合計は、数値（%）を単位未満四捨五入している影響により一致しないことがあります。
- (4) 複数回答の場合、回答者総数に対する割合を表示しているため、構成比の合計が 100%を超えることがあります。
- (5) 本文及び図表中、意味をそこなわない範囲で簡略化した選択肢があります。

5. グラフの種類

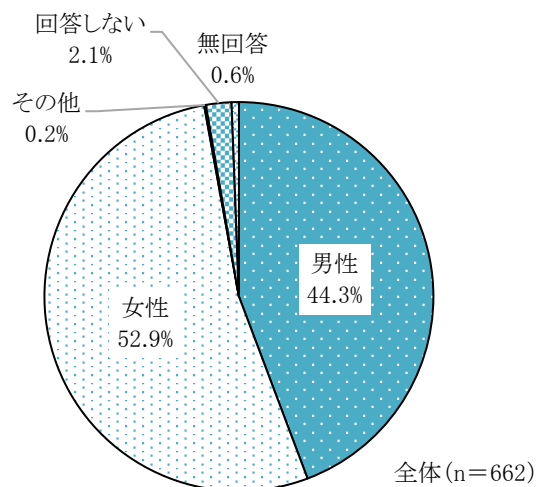
- (1) 棒 グ ラ フ：棒の長短で数量の大小を比較します。
- (2) 折れ線グラフ：時間経過に沿って数量の変化や傾向を示します。
- (3) 円 グ ラ フ：全体に対する各項目の構成比を示す際に使います。
- (4) 帯 グ ラ フ：全体に対する各項目の構成比を示す際に使います。異なる帯グラフを並べることで、項目の構成比の変化を捉えることができます。
- (5) 散 布 図：2 つの変量の相関関係を示します。横軸と縦軸にそれぞれ別の量を取り、データが当てはまる場所に点を打って示すグラフです。

6. 回収率

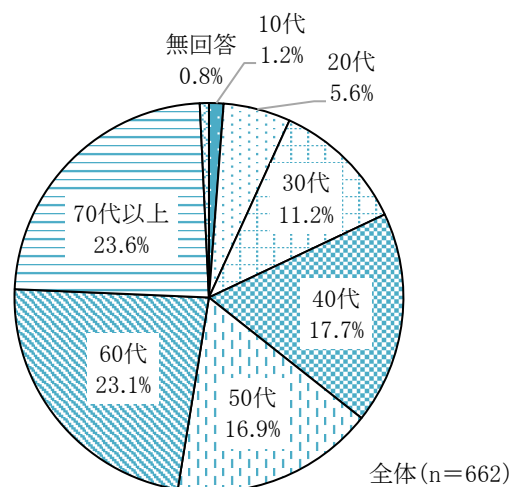
- (1) 有効回答数：662 件
- (2) 有効回答率：44.1%（対前年比 -0.4 ポイント）

7. 回答者の属性

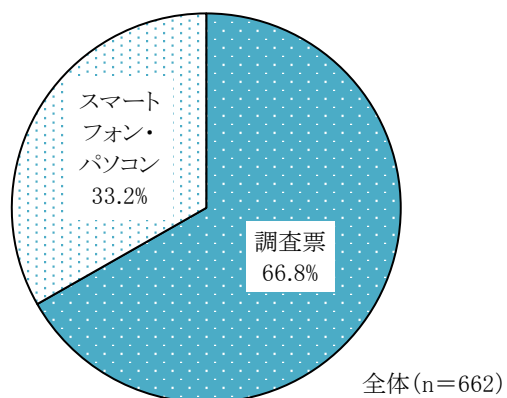
(1) 性別



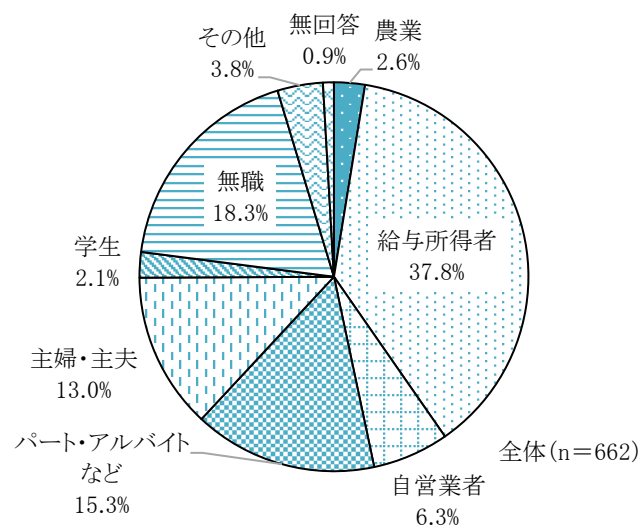
(2) 年代別



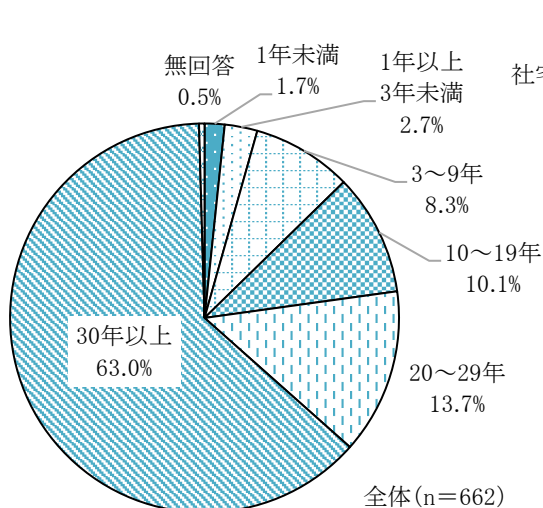
(3) 回答方法別



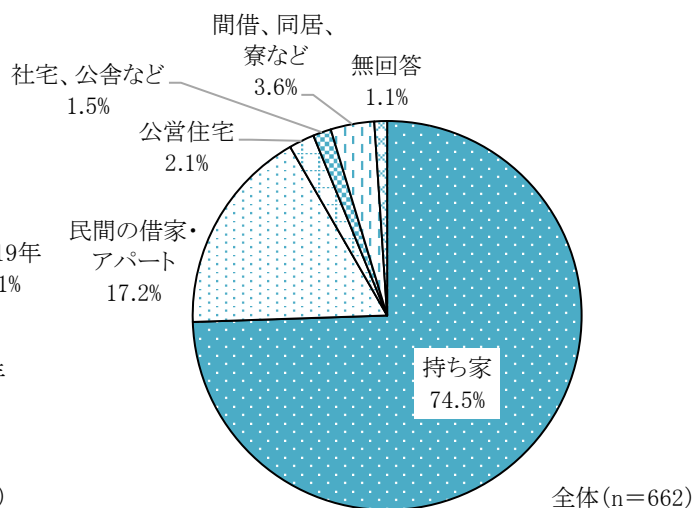
(4) 職業別



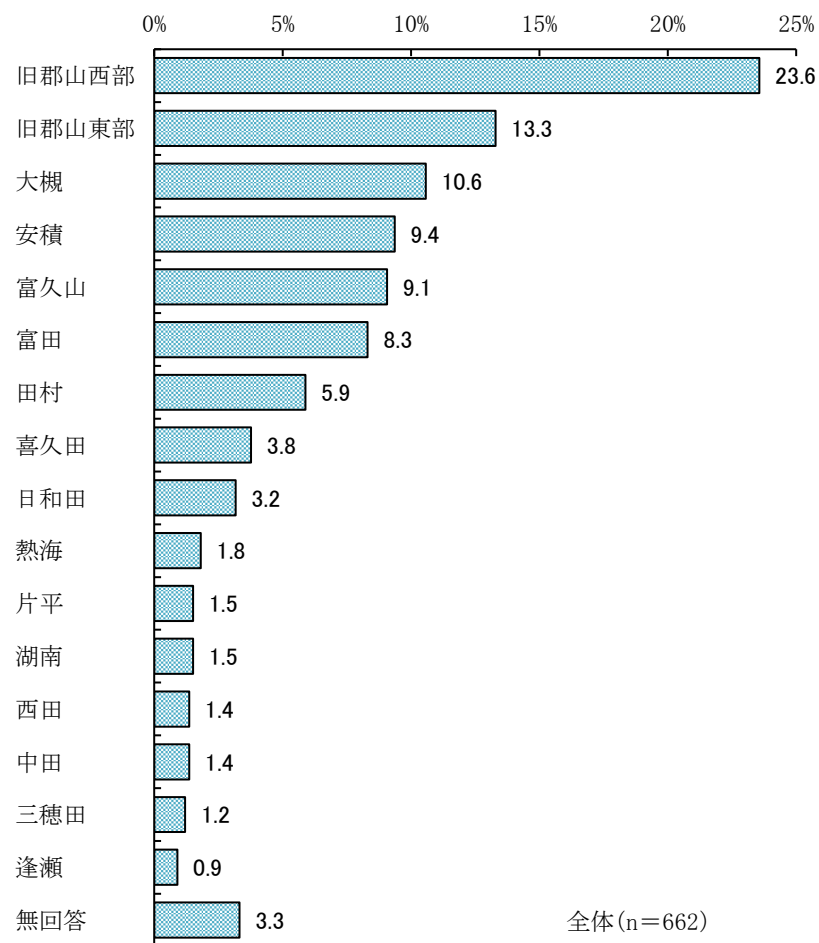
(5) 居住年数別



(6) 居住形態別



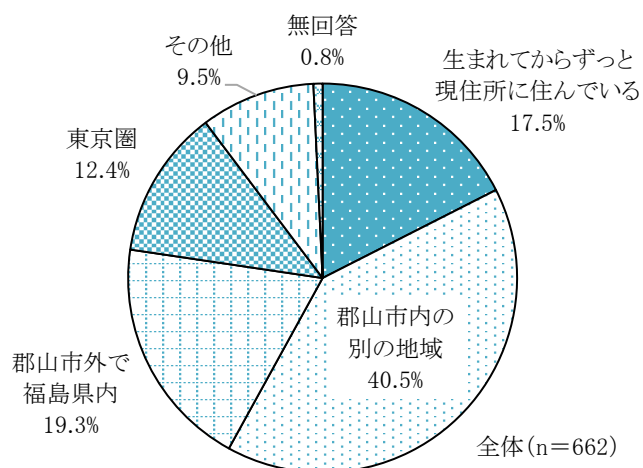
(7) 地域別



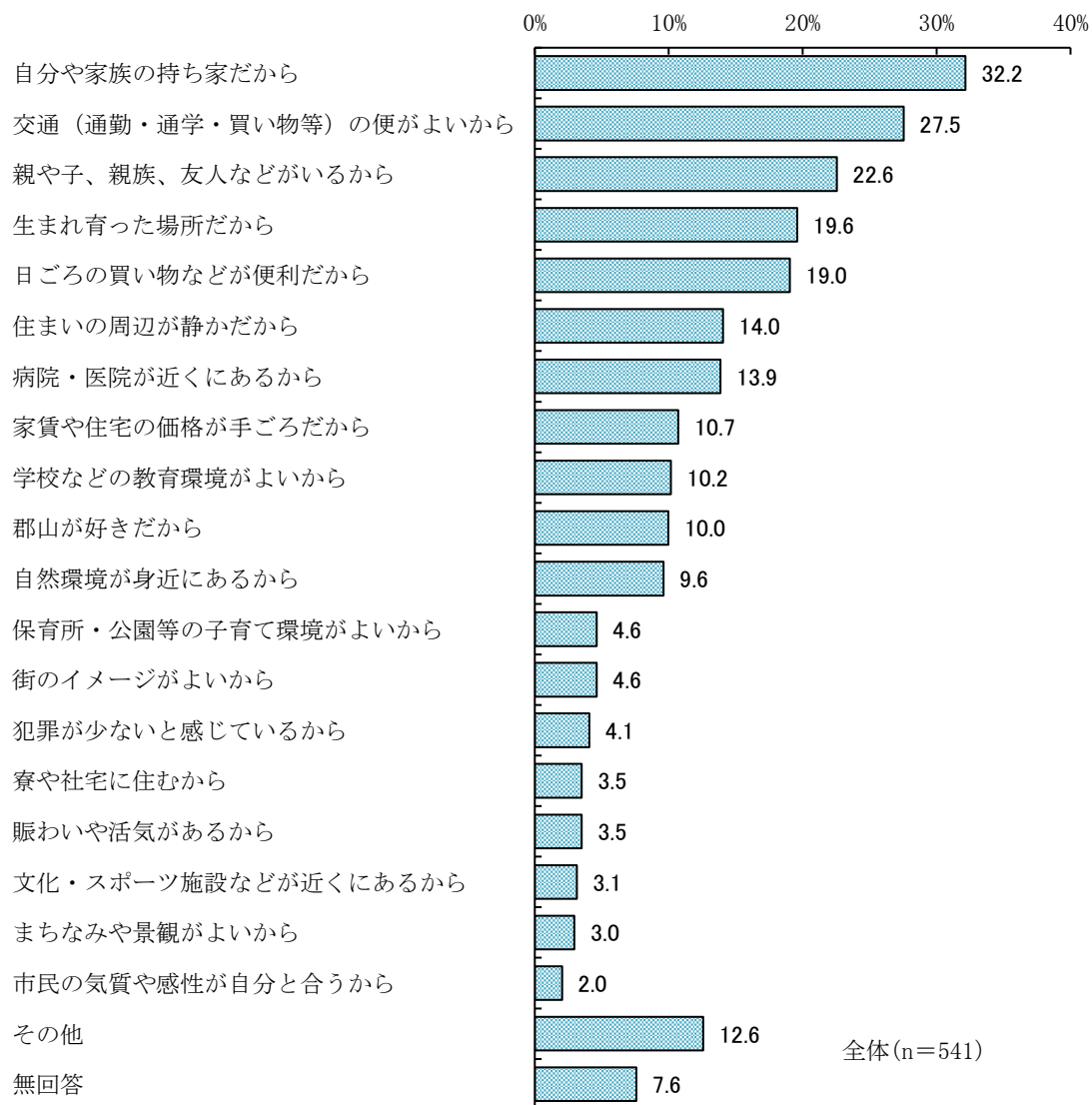
※ 旧郡山東部・・・芳賀・小原田・緑ヶ丘・東部地区など

※ 旧郡山西部・・・駅前・大島・久留米・菜根・開成・小山田地区など上記地区以外

(8) 現住所の直前の居住地別

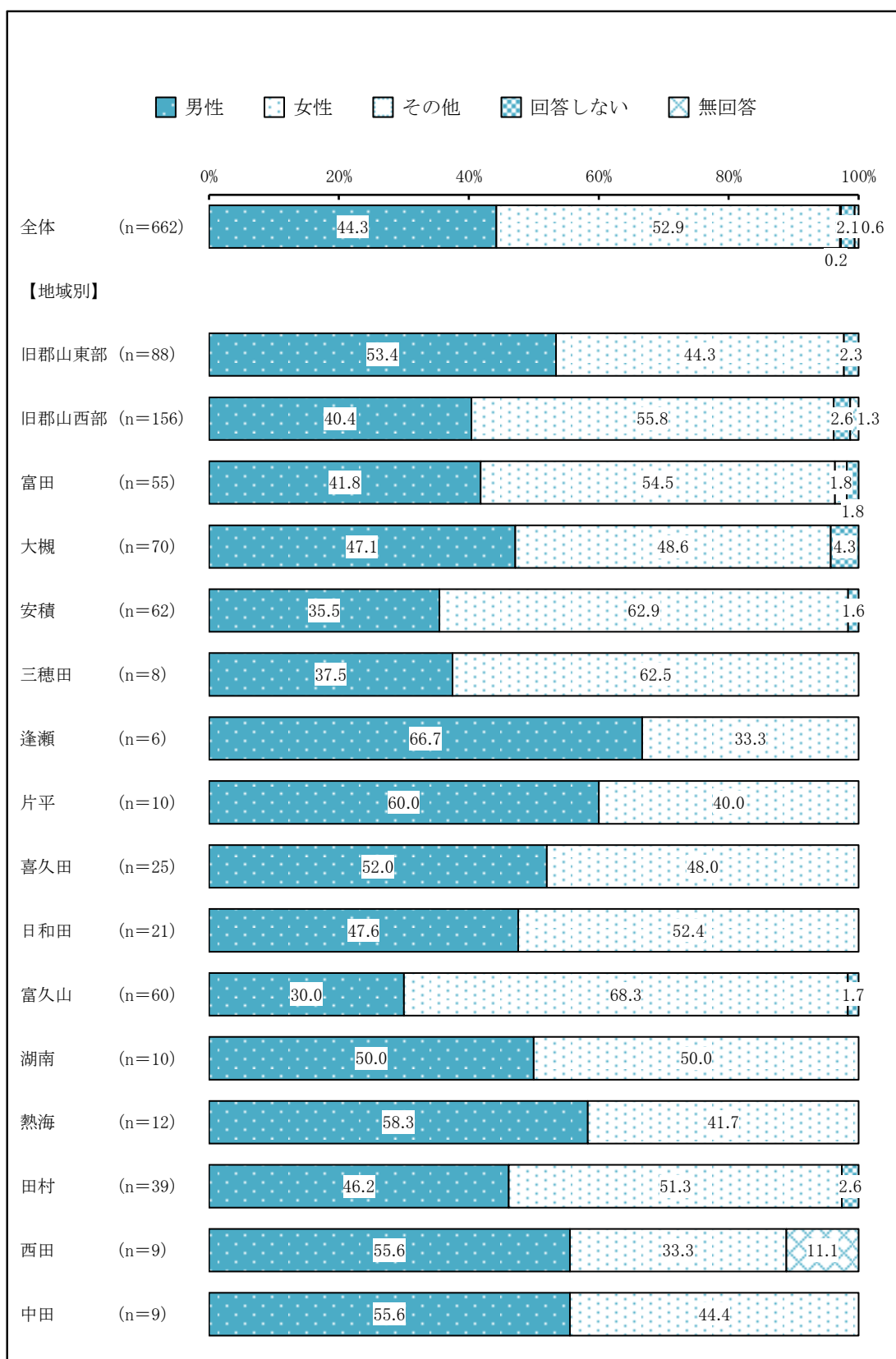


(9) 現居住地の選定理由別《転入・転居者》(複数回答)

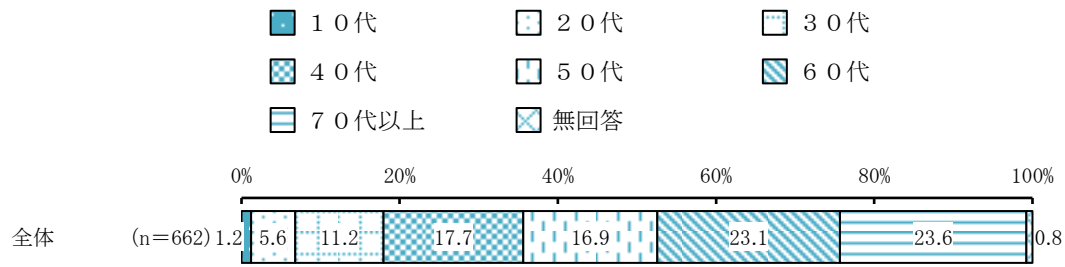


8. 回答者の属性《地域別集計》

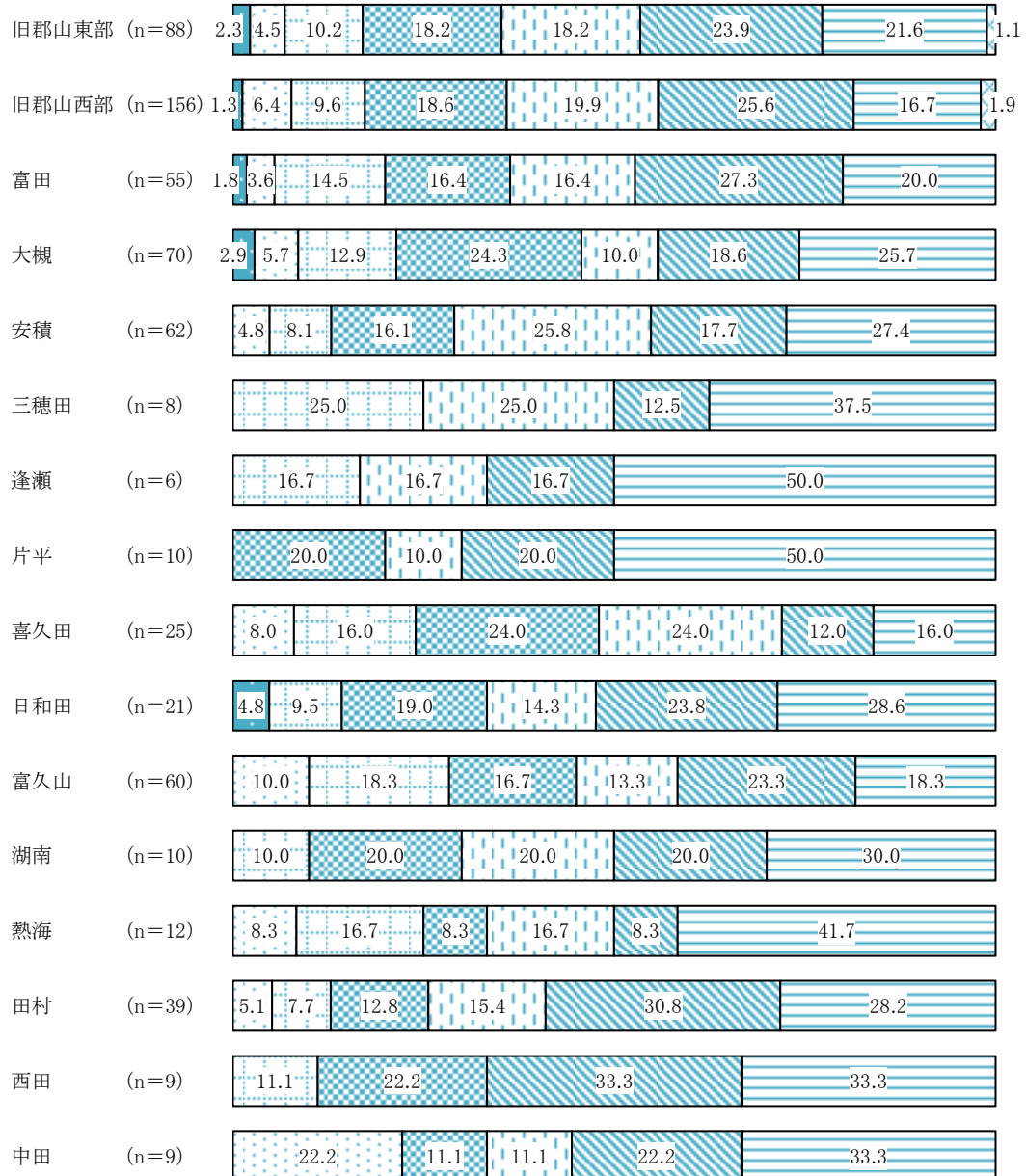
【性別】



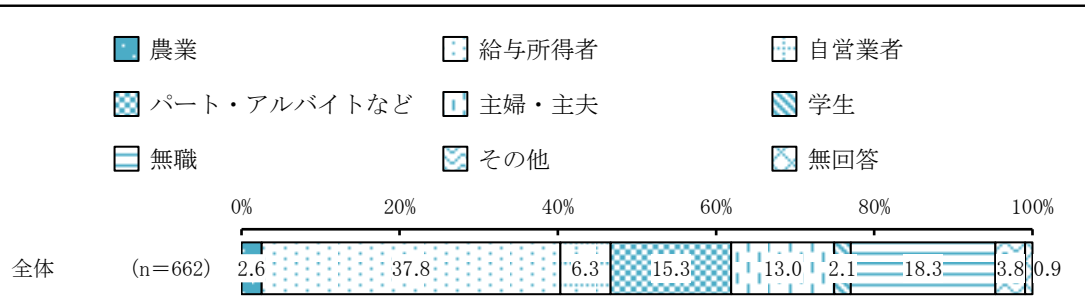
【年代別】



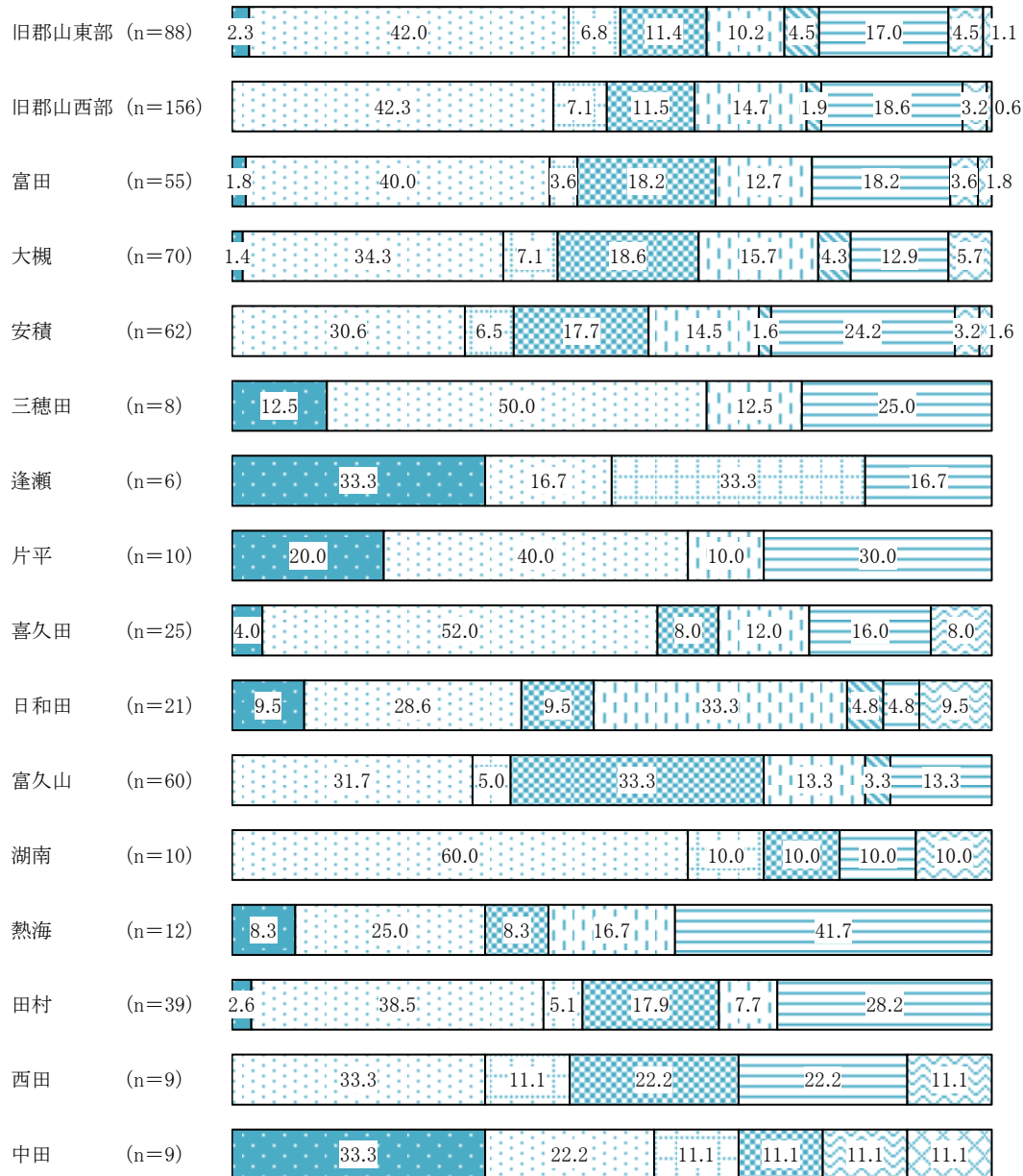
【地域別】



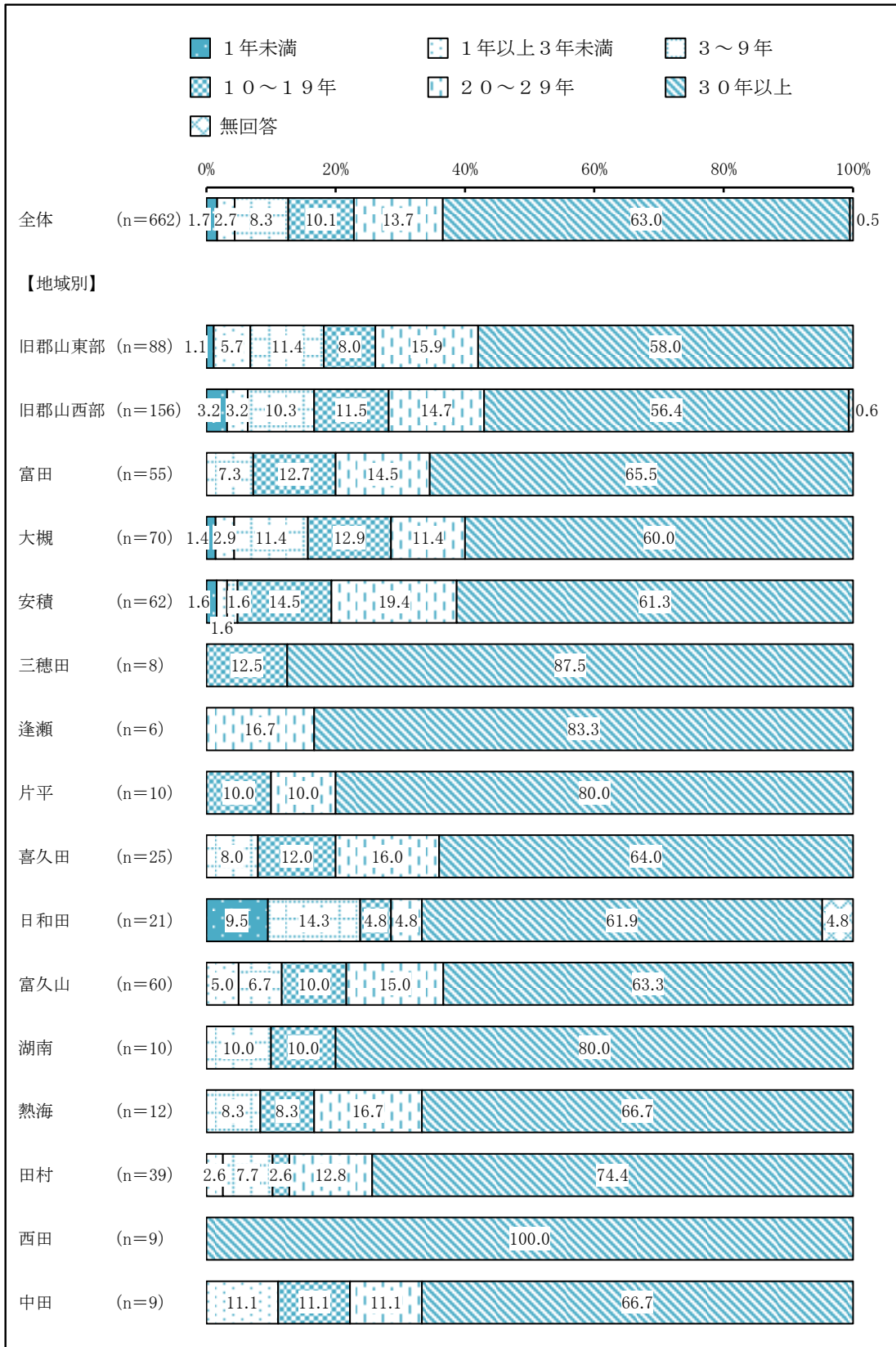
【職業別】



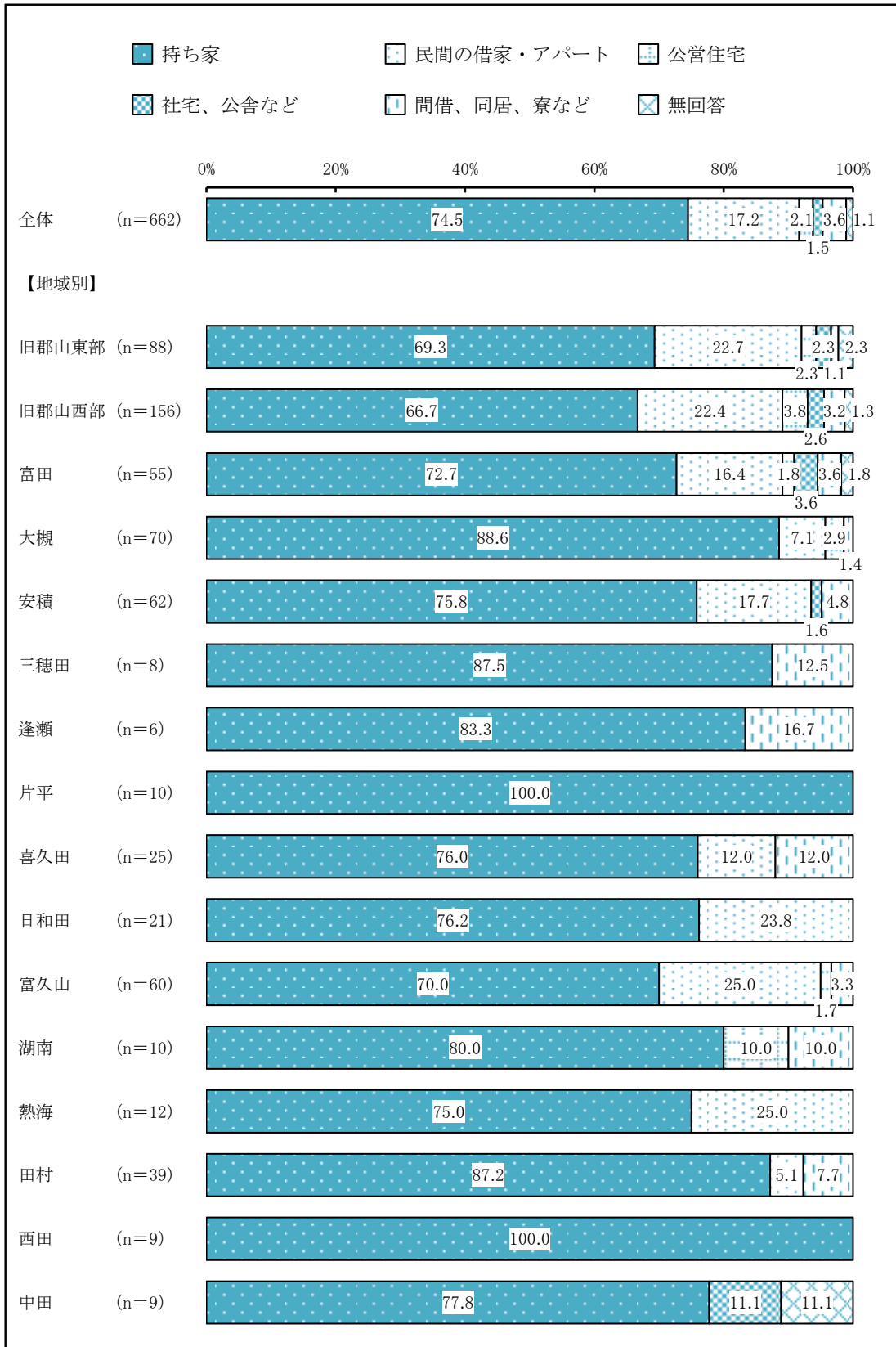
【地域別】



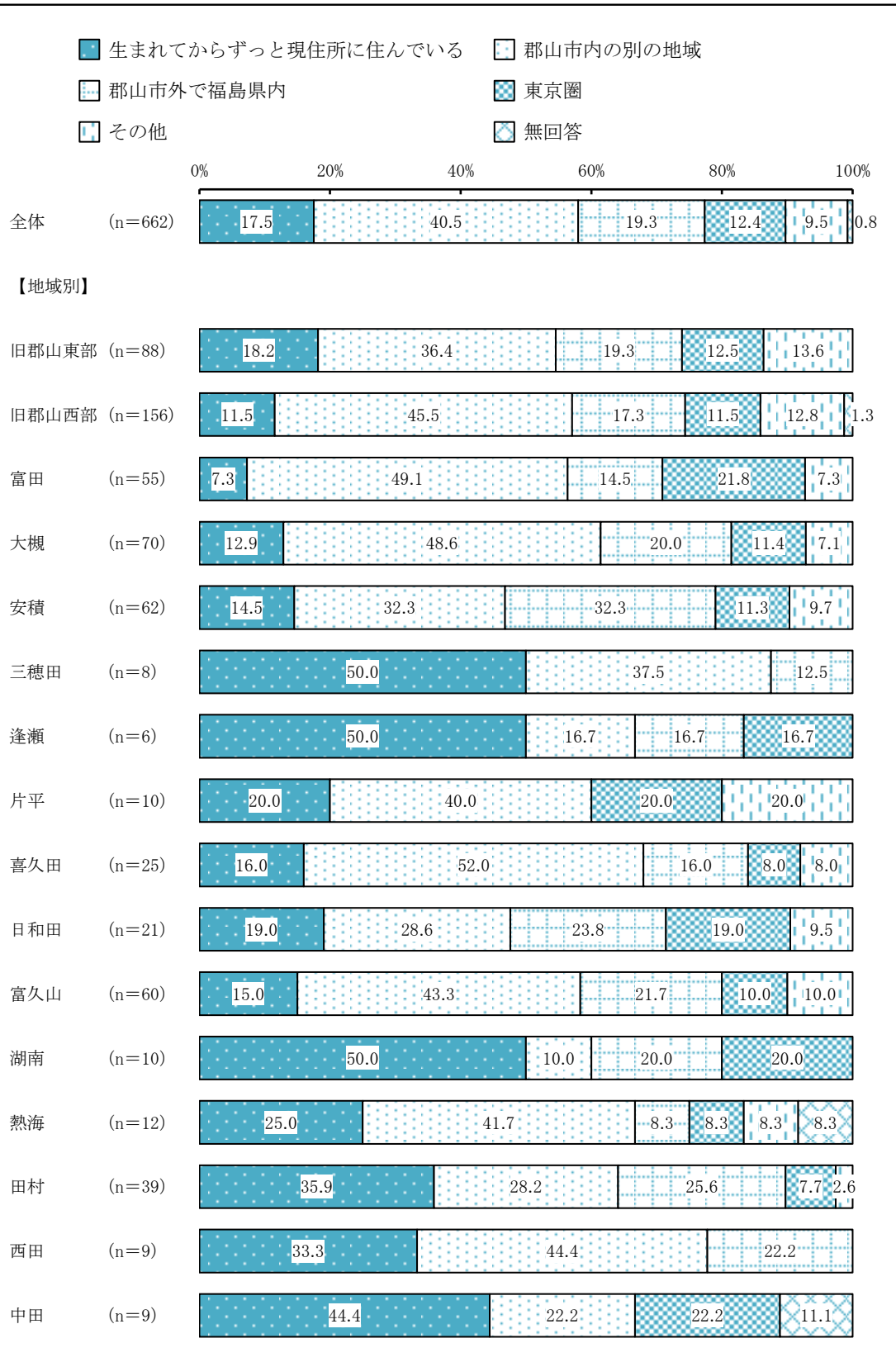
【居住年数別】



【居住形態別】

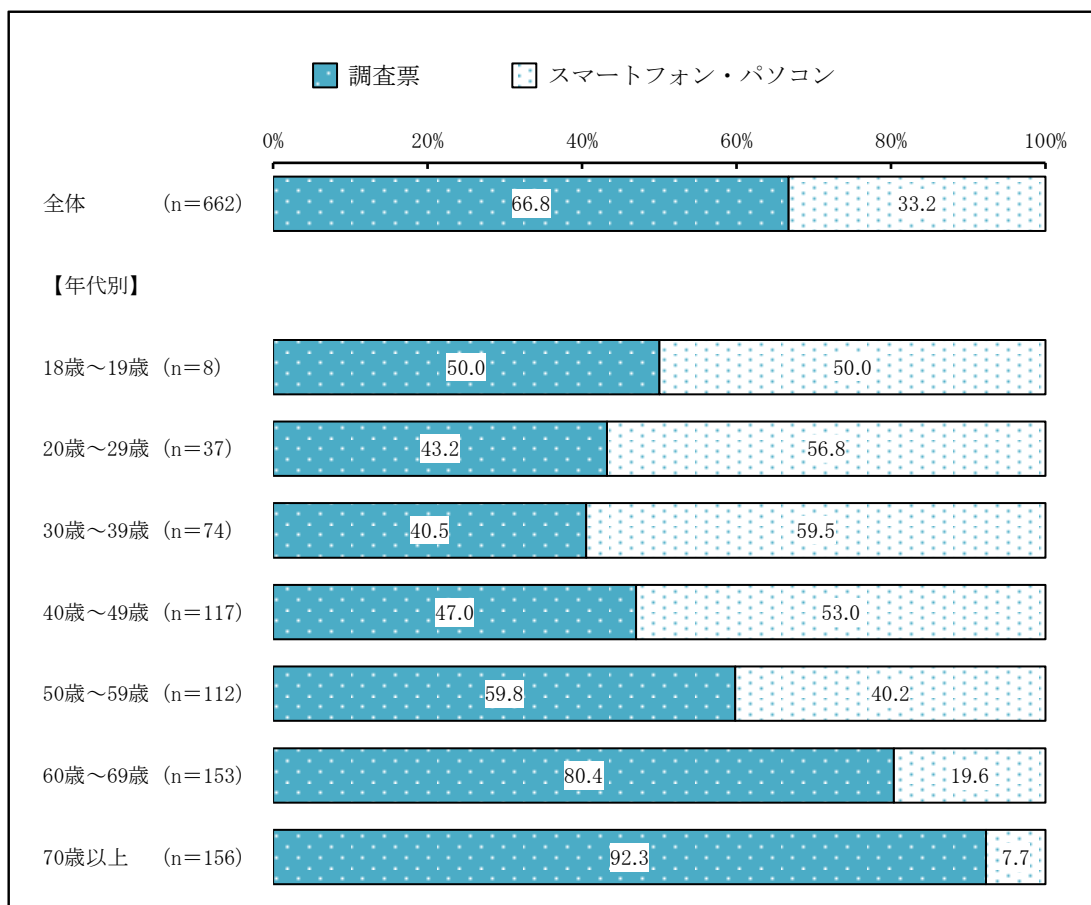


【直前の居住地別】



9. 回答者の属性《年代別集計》

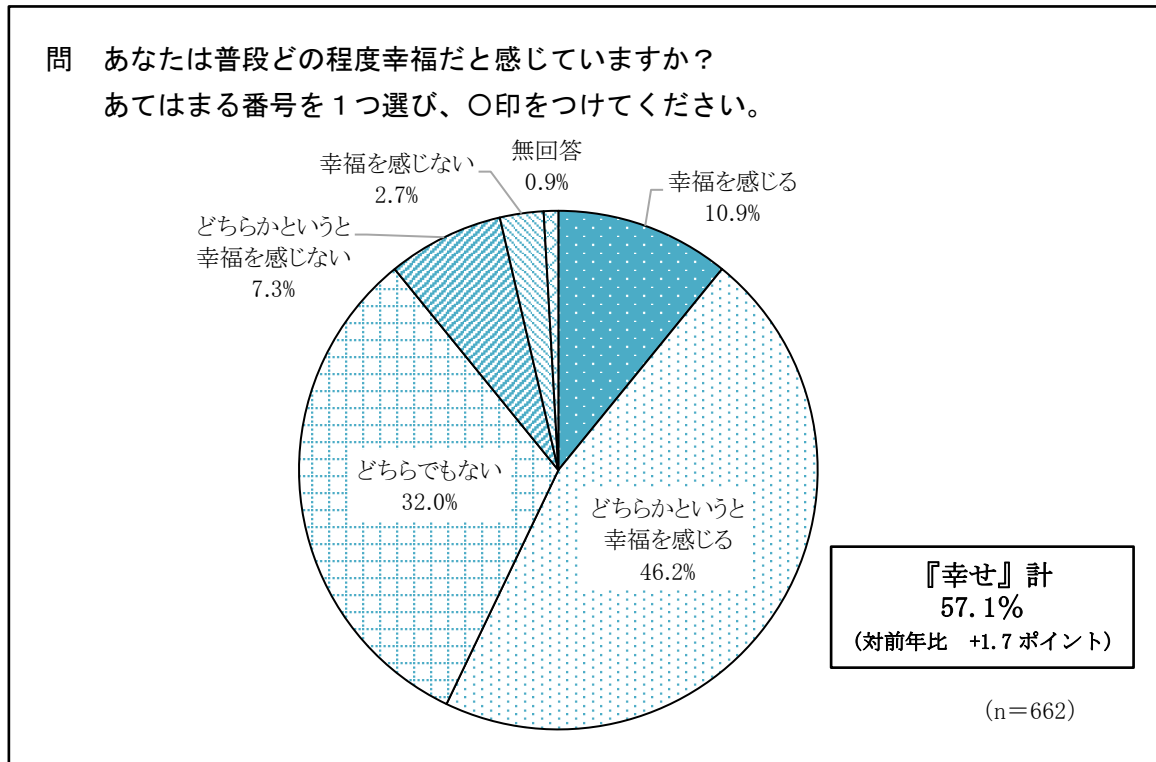
【回答方法別】



Ⅱ 調 査 結 果

1. 幸福度の現状について

(1) 幸福度



————— 6割弱の市民は幸せと感じています —————

【全体結果】

「幸福を感じる（とても幸せ）」（10.9%）と「どちらかという和幸福を感じる（どちらかという和幸福）」（46.2%）の両者を合計すると『幸せ』（57.1%）となっています。

一方、「どちらかという和幸福を感じない（どちらかという和幸福）」（7.3%）と「幸福を感じない（不幸せ）」（2.7%）を合計すると『不幸せ』（10.0%）となっています。

【属性別結果】（図 1-1 参照）

①性別

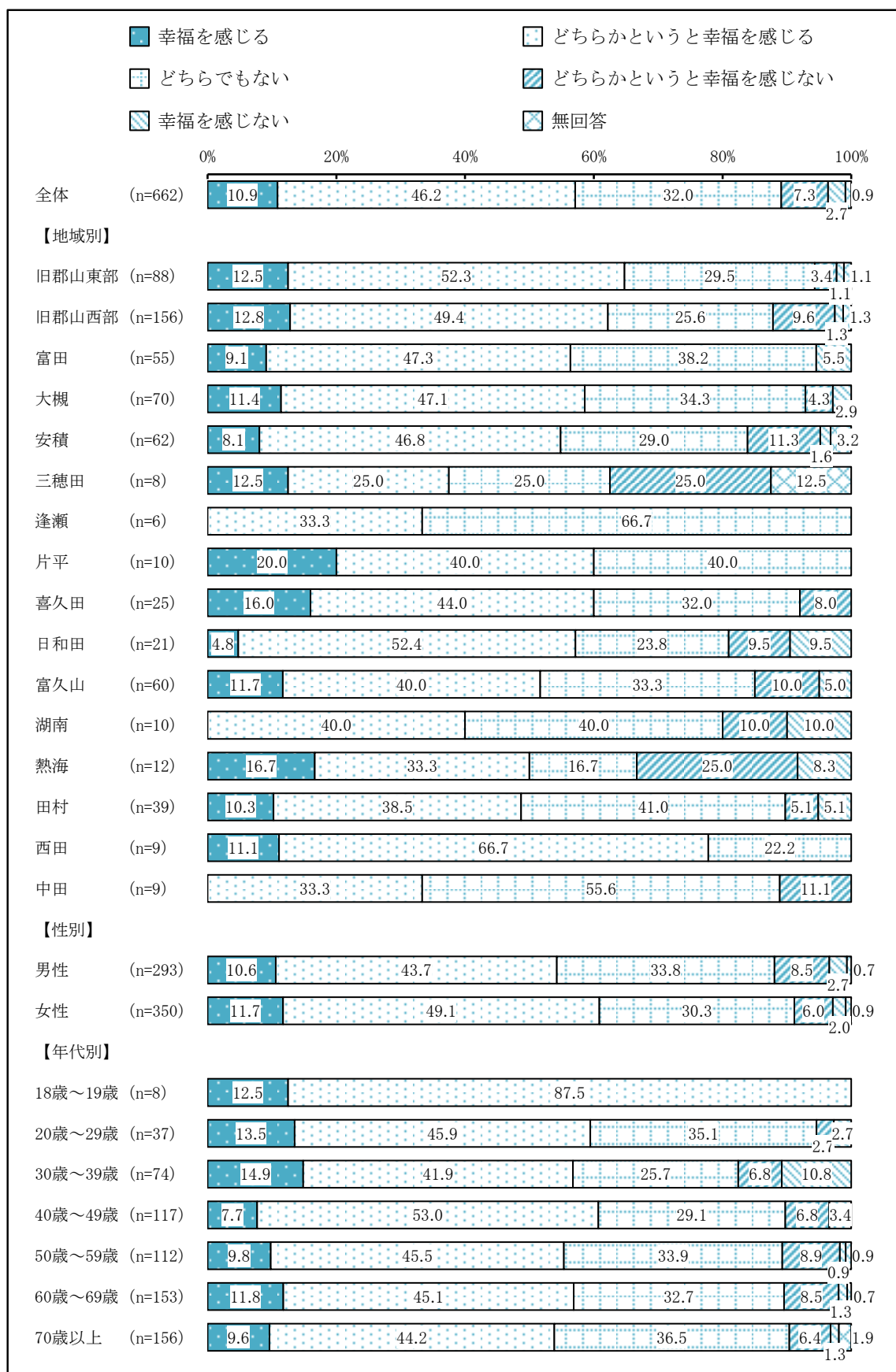
『幸せ』の割合は、女性（60.9%）の方が男性（54.3%）よりも高くなっています。

②年代別

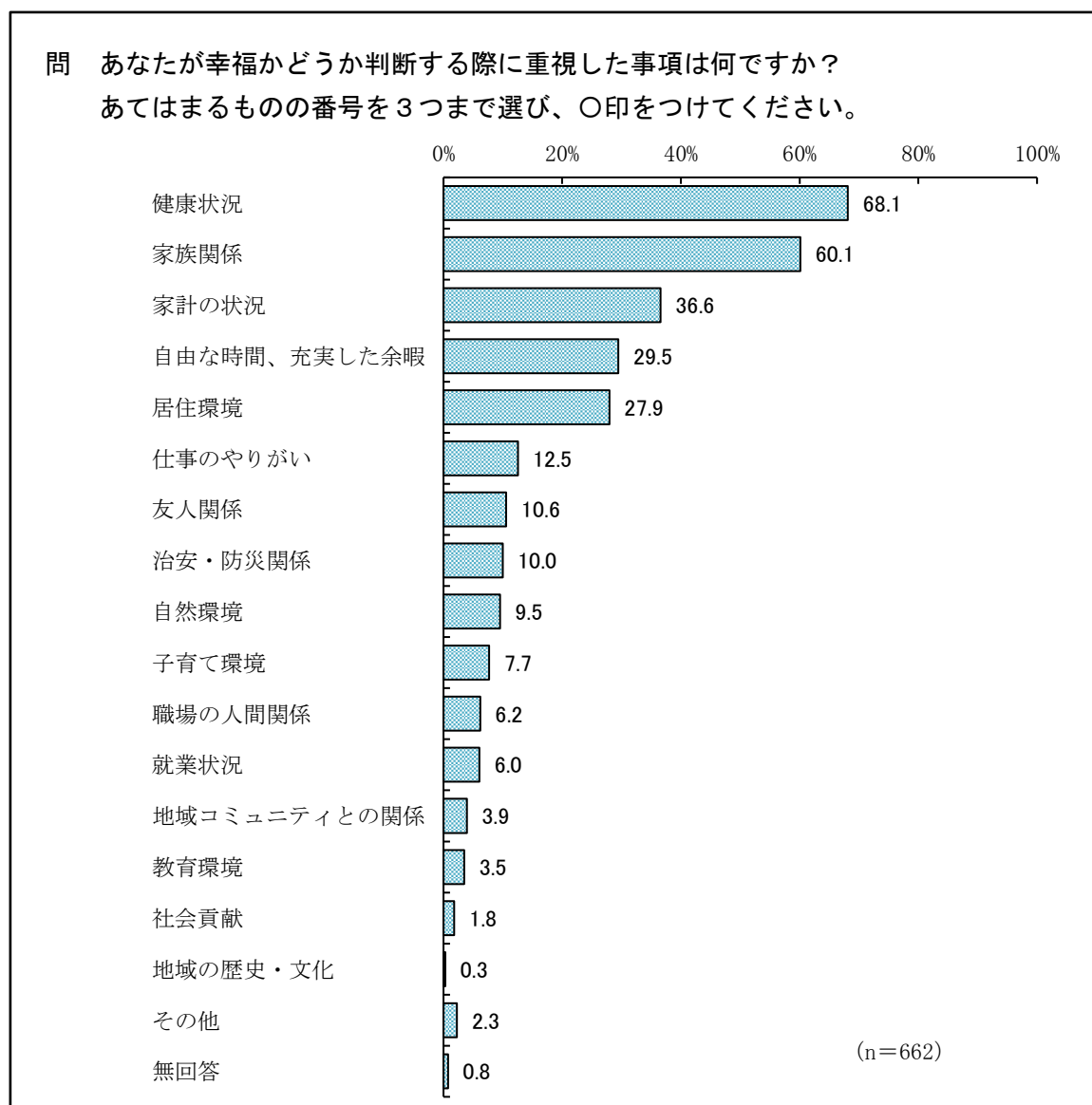
『幸せ』の割合は、40代（60.7%）で最も高くなっています。

なお、10代については回答数が少ないため、参考として数値のみ掲載します（以降同様）。

図 1-1 幸福度（地域別／性別／年齢別）



(2) 幸福度の判断の際に重視した事項（複数回答）



——— 幸福度の判断には「健康状況」、「家族関係」を重視 ———

【全体結果】

幸福かどうか判断する際には「健康状況」（68.1%）、「家族関係」（60.1%）が特に重視されており、以下、「家計の状況」（36.6%）、「自由な時間、充実した余暇」（29.5%）、「居住環境」（27.9%）の順に続いています。

【属性別結果】（図 1-2 参照）

①性別

「家族関係」（男性：55.3%、女性：65.4%）や「家計の状況」（男性：32.4%、女性：39.1%）については、女性の方が男性より高い割合で重視しているのに対して、「居住環境」（男性：31.7%、女性：25.1%）に関しては、男性の方が女性より高くなっています。

②年代別

50 代以上で特に「健康状況」を重視する傾向にあります。30～40 代では特に「家族関係」や「家計の状況」を重視しています。

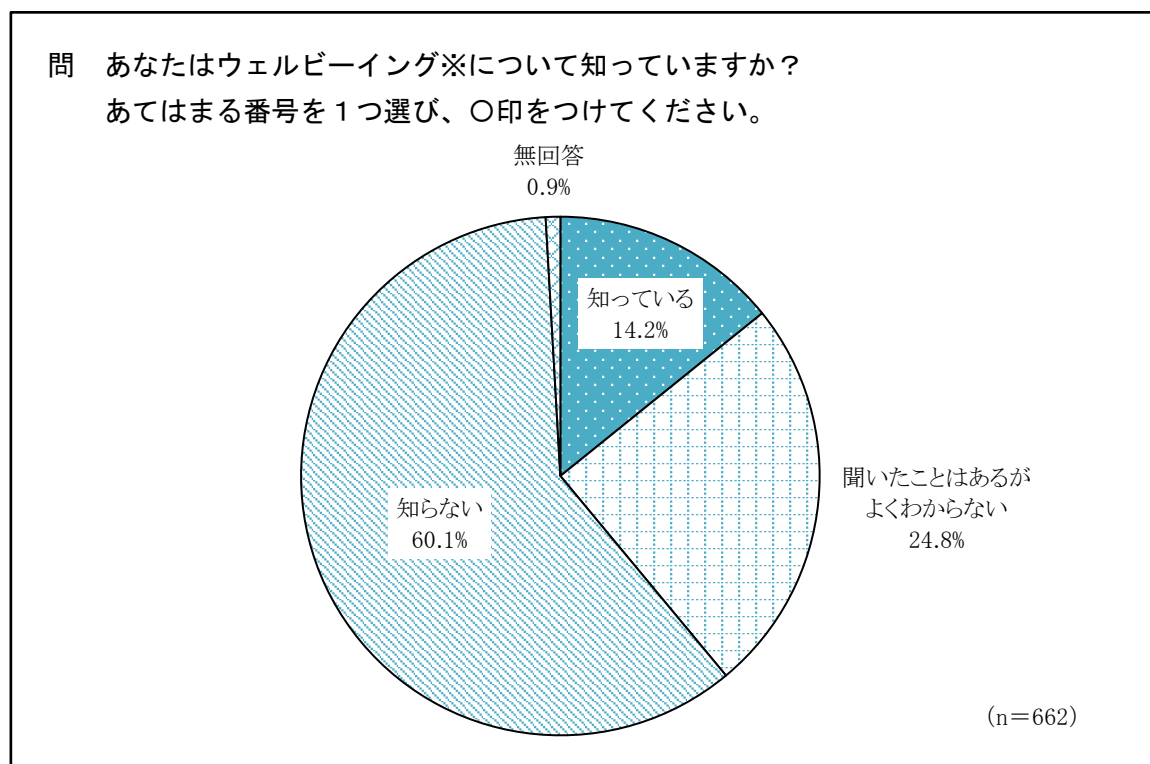
図1-2 幸福度の判断の際に重視した事項（地域別／性別／年齢別）1/2

割合（％）	健康 状況 (n=451)	家族 関係 (n=398)	家計 の状 況 (n=242)	余自 暇由 な時 間、 充実 した (n=195)	居住 環境 (n=185)	仕事 のや りが い (n=83)	友人 関係 (n=70)	治安 ・防 災関 係 (n=66)	自然 環境 (n=63)
全体 (n=662)	68.1	60.1	36.6	29.5	27.9	12.5	10.6	10.0	9.5
【地域別】									
旧郡山東部 (n=88)	75.0	62.5	34.1	27.3	31.8	15.9	11.4	6.8	9.1
旧郡山西部 (n=156)	72.4	58.3	34.6	28.2	26.9	13.5	10.3	10.9	5.8
富田 (n=55)	61.8	54.5	40.0	36.4	34.5	10.9	12.7	16.4	10.9
大槻 (n=70)	71.4	61.4	42.9	34.3	32.9	7.1	14.3	7.1	11.4
安積 (n=62)	58.1	54.8	25.8	37.1	21.0	11.3	4.8	17.7	9.7
三穂田 (n=8)	75.0	37.5	37.5	25.0	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0
逢瀬 (n=6)	50.0	50.0	0.0	16.7	33.3	16.7	0.0	16.7	50.0
片平 (n=10)	80.0	70.0	10.0	10.0	20.0	30.0	10.0	20.0	30.0
喜久田 (n=25)	52.0	80.0	32.0	40.0	28.0	16.0	4.0	8.0	4.0
日和田 (n=21)	81.0	66.7	66.7	23.8	19.0	14.3	14.3	4.8	9.5
富久山 (n=60)	66.7	66.7	48.3	30.0	28.3	13.3	8.3	3.3	6.7
湖南 (n=10)	70.0	40.0	40.0	10.0	20.0	10.0	20.0	20.0	20.0
熱海 (n=12)	16.7	58.3	33.3	41.7	16.7	8.3	0.0	8.3	33.3
田村 (n=39)	71.8	66.7	30.8	23.1	28.2	12.8	17.9	10.3	7.7
西田 (n=9)	66.7	55.6	33.3	33.3	44.4	0.0	0.0	0.0	11.1
中田 (n=9)	77.8	44.4	44.4	11.1	22.2	0.0	22.2	11.1	22.2
【性別】									
男性 (n=293)	68.6	55.3	32.4	29.7	31.7	14.7	8.9	13.7	11.3
女性 (n=350)	68.3	65.4	39.1	29.1	25.1	10.6	12.3	7.1	8.3
【年代別】									
18歳～19歳 (n=8)	75.0	37.5	12.5	25.0	25.0	0.0	87.5	0.0	12.5
20歳～29歳 (n=37)	54.1	51.4	29.7	40.5	37.8	8.1	24.3	2.7	8.1
30歳～39歳 (n=74)	48.6	62.2	45.9	35.1	25.7	24.3	9.5	8.1	8.1
40歳～49歳 (n=117)	63.2	65.8	45.3	30.8	26.5	12.0	7.7	12.8	6.8
50歳～59歳 (n=112)	73.2	67.9	33.9	33.0	27.7	12.5	8.0	9.8	9.8
60歳～69歳 (n=153)	77.8	62.7	43.1	21.6	27.5	13.1	8.5	5.2	5.9
70歳以上 (n=156)	71.2	50.6	25.0	29.5	28.8	8.3	10.3	16.0	16.0

図 1 - 2 幸福度の判断の際に重視した事項（地域別／性別／年齢別） 2/2

割合 (%)	子育て環境 (n=51)	職場の人間関係 (n=41)	就業状況 (n=40)	地域コミュニティとの関係 (n=26)	教育環境 (n=23)	社会貢献 (n=12)	地域の歴史・文化 (n=2)	その他 (n=15)
全体 (n=662)	7.7	6.2	6.0	3.9	3.5	1.8	0.3	2.3
【地域別】								
旧郡山東部 (n=88)	8.0	3.4	3.4	5.7	2.3	1.1	1.1	2.3
旧郡山西部 (n=156)	7.1	5.8	3.8	2.6	2.6	1.9	0.0	3.8
富田 (n=55)	5.5	7.3	1.8	1.8	3.6	1.8	0.0	1.8
大槻 (n=70)	11.4	10.0	10.0	5.7	2.9	2.9	1.4	1.4
安積 (n=62)	6.5	11.3	12.9	1.6	9.7	3.2	0.0	1.6
三穂田 (n=8)	25.0	12.5	0.0	0.0	12.5	12.5	0.0	0.0
逢瀬 (n=6)	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
片平 (n=10)	10.0	0.0	10.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0
喜久田 (n=25)	8.0	12.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0
日和田 (n=21)	4.8	4.8	4.8	4.8	9.5	4.8	0.0	0.0
富久山 (n=60)	13.3	0.0	6.7	5.0	1.7	0.0	0.0	0.0
湖南 (n=10)	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
熱海 (n=12)	0.0	0.0	8.3	25.0	0.0	0.0	0.0	8.3
田村 (n=39)	2.6	10.3	2.6	2.6	0.0	2.6	0.0	0.0
西田 (n=9)	11.1	11.1	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0
中田 (n=9)	0.0	0.0	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
【性別】								
男性 (n=293)	7.8	5.8	6.5	5.1	4.4	1.7	0.3	2.7
女性 (n=350)	7.7	6.6	4.9	2.9	2.6	2.0	0.3	1.4
【年代別】								
18歳～19歳 (n=8)	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0
20歳～29歳 (n=37)	10.8	13.5	10.8	0.0	2.7	0.0	0.0	2.7
30歳～39歳 (n=74)	24.3	9.5	6.8	0.0	8.1	0.0	1.4	0.0
40歳～49歳 (n=117)	17.1	8.5	4.3	1.7	4.3	0.9	0.0	0.9
50歳～59歳 (n=112)	3.6	10.7	9.8	2.7	2.7	5.4	0.9	2.7
60歳～69歳 (n=153)	1.3	4.6	7.2	3.3	1.3	1.3	0.0	3.3
70歳以上 (n=156)	1.3	0.0	1.9	10.3	1.3	1.9	0.0	2.6

(3) ウェルビーイングの認知度



※「ウェルビーイング」…身体的、精神的、社会的に良好な状態にあること。

——— 約6割の市民はウェルビーイングについて「知らない」 ———

【全体結果】

ウェルビーイングについて「知っている」と回答した方は14.2%、「聞いたことはあるがよくわからない」が24.8%、「知らない」が60.1%となっています。

※WHO憲章では「健康とは、病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも精神的にも、そして社会的にも、すべてにおいて満たされた状態（well-being）にあることをいう」と定義されています。

【属性別結果】（図 1-3 参照）

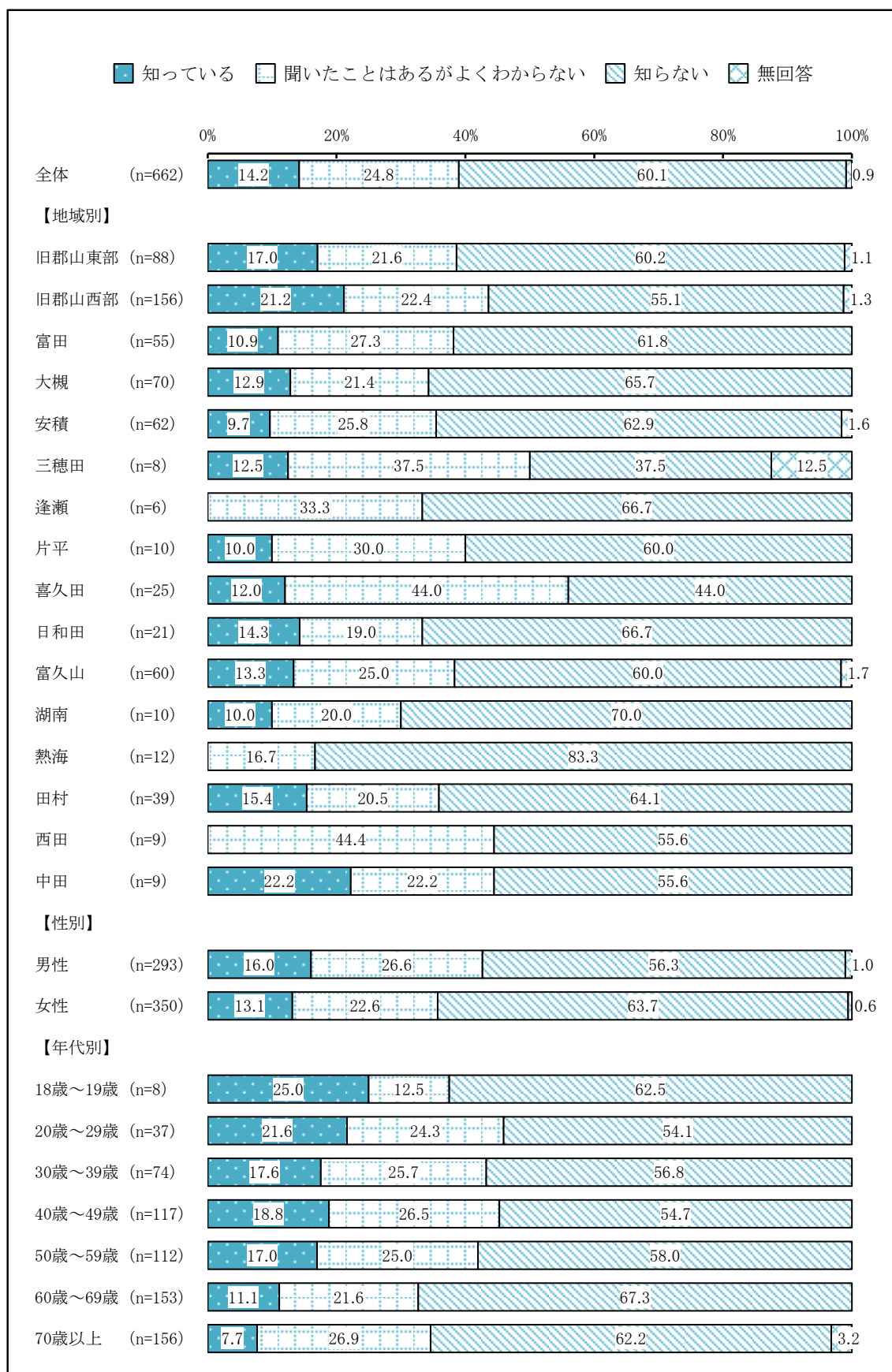
①性別

「知っている」の割合は、男性（16.0%）の方が女性（13.1%）よりも高くなっています。

②年代別

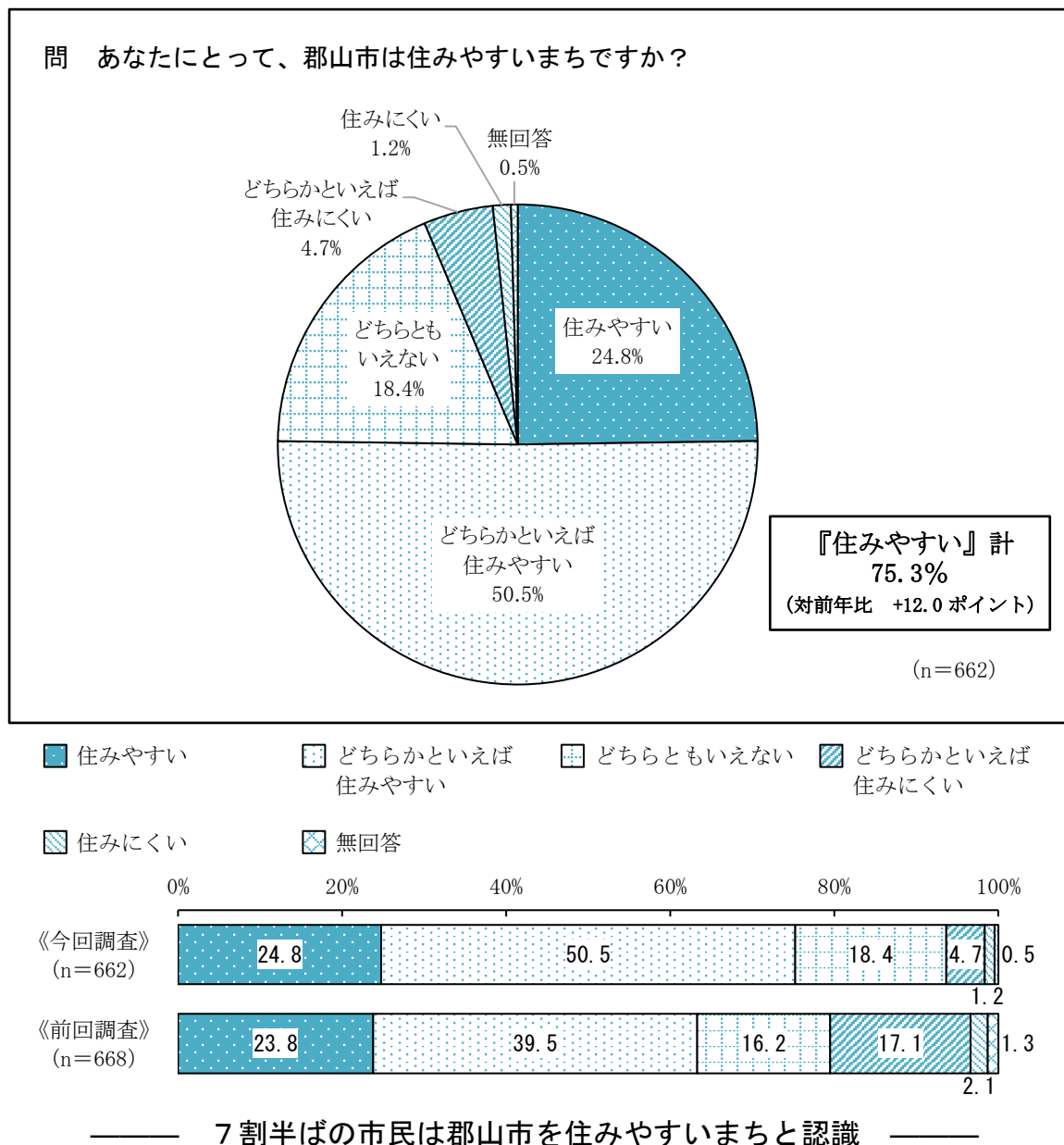
「知っている」の割合は、年齢が高くなるにつれ割合が低下していく傾向が見られ、60代以上では1割程度となっています。

図 1-3 ウェルビーイングの認知度（地域別／性別／年齢別）



2. 郡山市の住みやすさについて

(1) 住みやすさへの評価



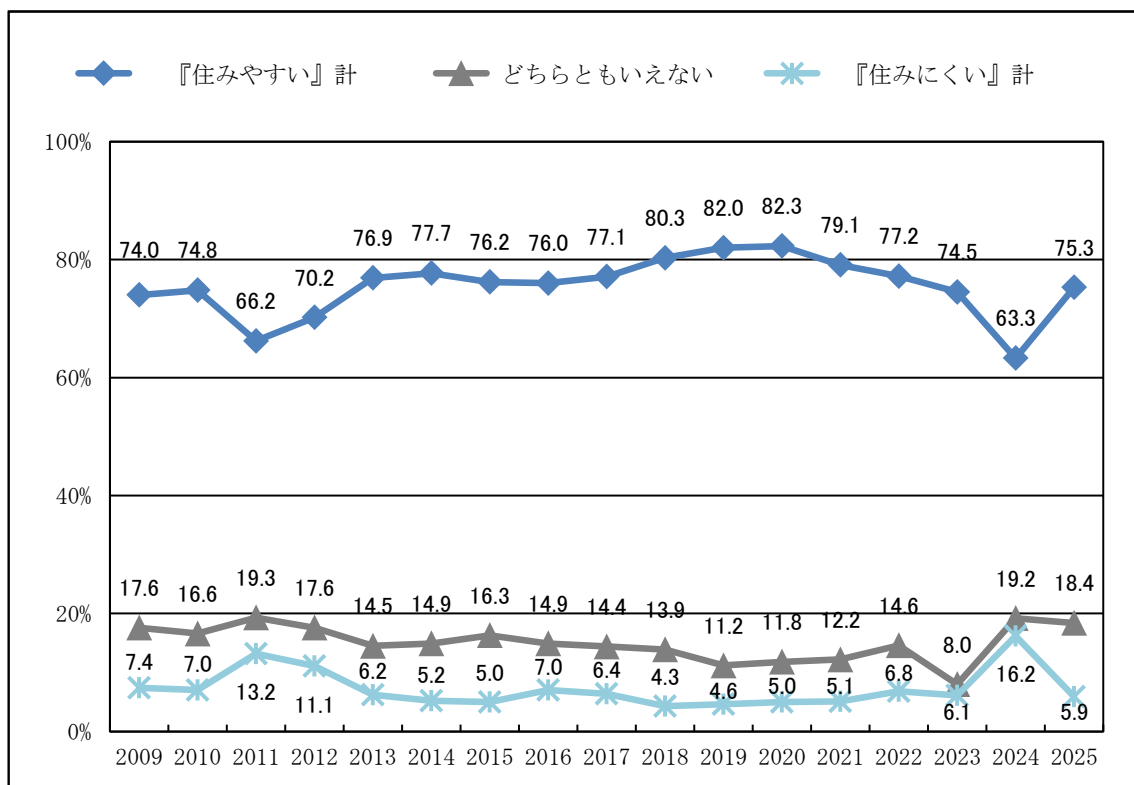
【全体結果】

郡山市が住みやすいまちであるかどうかについては、「住みやすい」(24.8%)と「どちらかといえば住みやすい」(50.5%)の両者を合計すると『住みやすい』(75.3%)となっています。

一方、「どちらかといえば住みにくい」(4.7%)と「住みにくい」(1.2%)を合計すると『住みにくい』(5.9%)となっています。

前年度調査に比べて、『住みやすい』の合計ポイントは12.0ポイント増加しています。また、過去の調査結果との比較では、2020年度をピークに減少が続いていましたが、今回一昨年度を上回りました(図2-1参照)。

図 2－1 住みやすさへの評価（過去調査結果との比較）



【属性別結果】（図 2-2 参照）

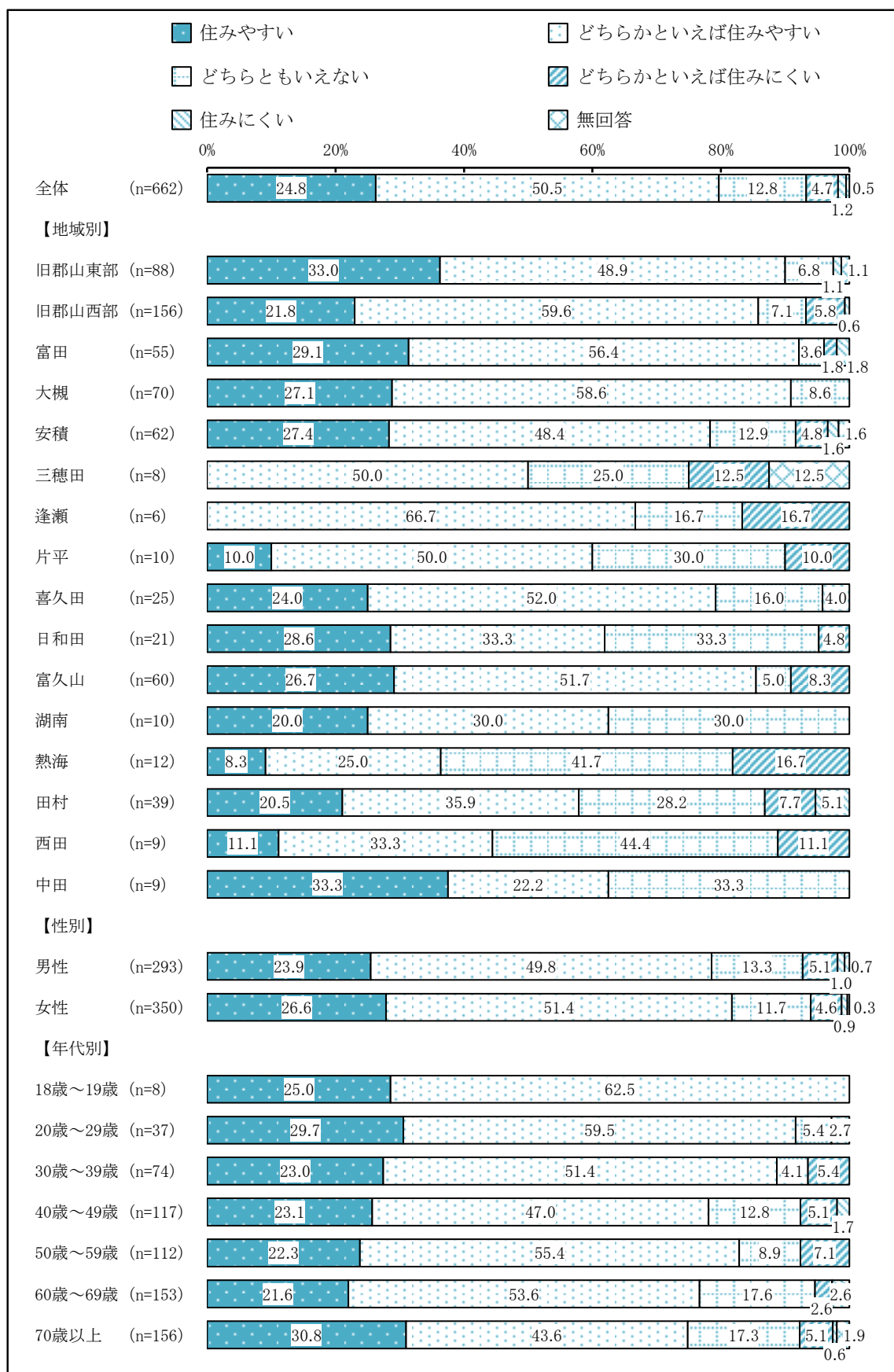
①性別

『住みやすい』の割合は、女性（78.0%）の方が男性（73.7%）よりも高くなっています。

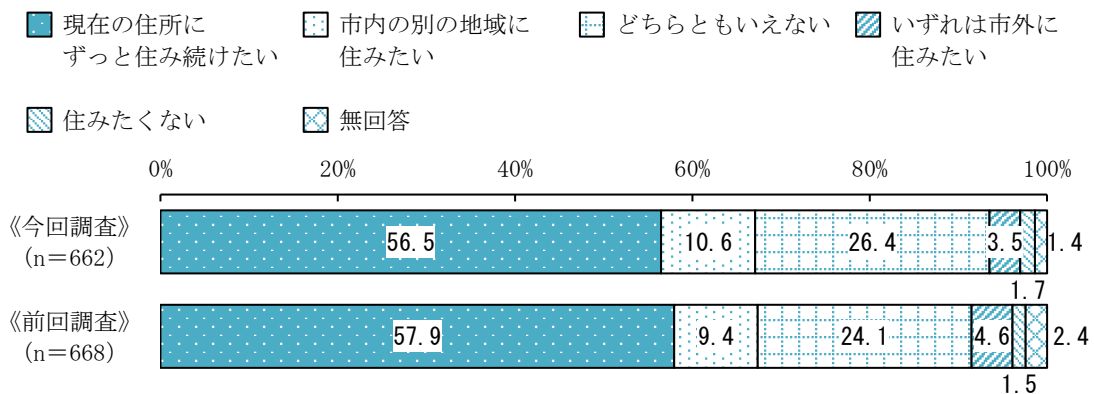
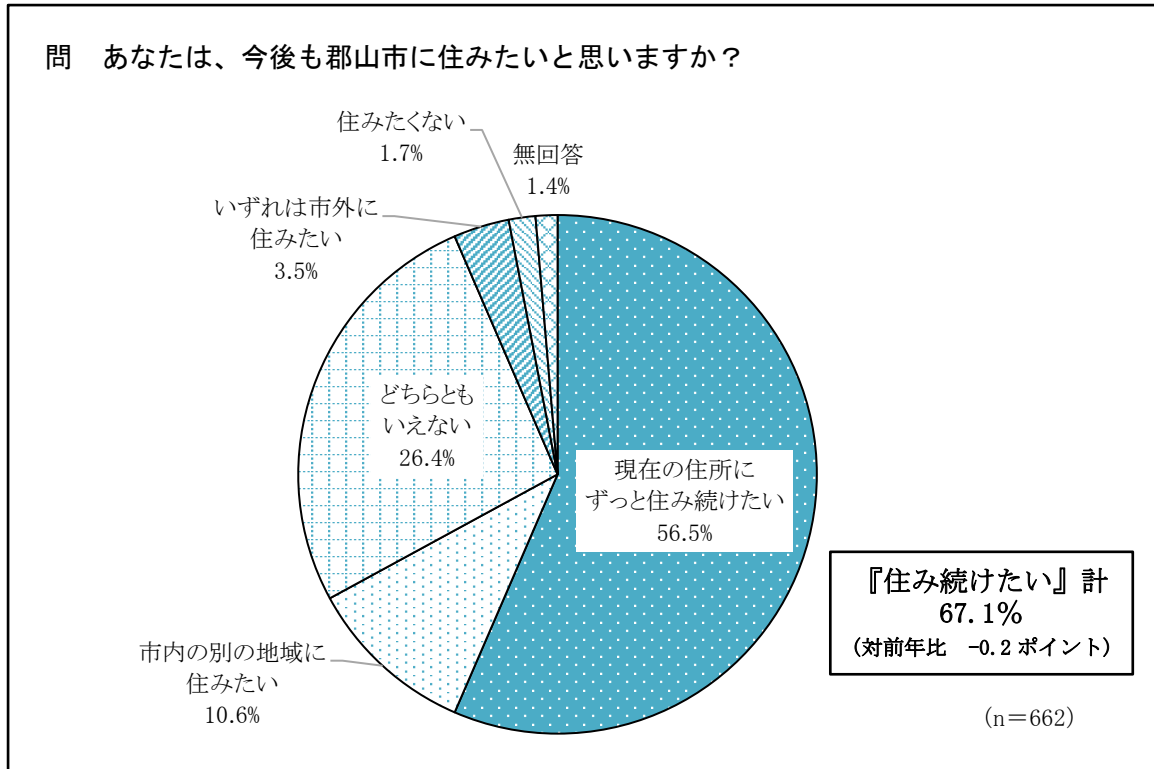
②年代別

『住みやすい』の割合は、20代（89.2%）で最も高くなっています。年齢が高くなるにつれ、割合が低下していく傾向が見られます。

図2-2 住みやすさへの評価（地域別／性別／年齢別）



(2) 今後の居住意向



—— 7 割弱の市民は今後も郡山市内に住み続けたいとしています ——

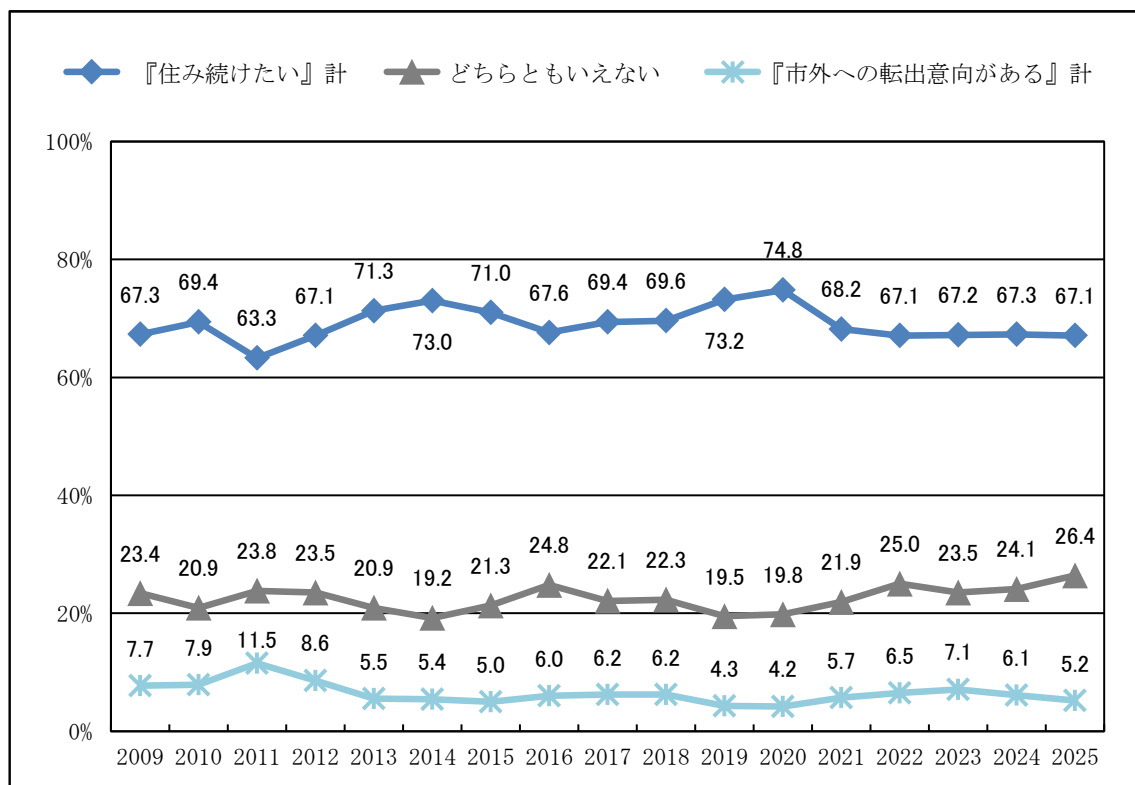
【全体結果】

今後も郡山市に住み続けたいかどうかについては「現在の住所にずっと住み続けたい」(56.5%)と「市内の別の地域に住みたい」(10.6%)の両者を合計すると『住み続けたい』(67.1%)となっています。

一方、「いずれは市外に住みたい」(3.5%)と「住みたくない」(1.7%)を合計すると『市外への転出意向がある』(5.2%)となっています。

なお、過去の調査結果との推移で比較すると、前項の〈住みやすさへの評価〉と同様、東日本大震災直後『住み続けたい』の合計は低下したものの、2013年度以降、概ね7割前後で推移しています。また、『市外への転出意向がある』の合計は2020年度から上昇傾向でしたが、2023年度をピークに減少が続いています(図2-3参照)。

図 2-3 今後の居留意向（過去調査結果との比較）



【属性別結果】（図 2-4 参照）

①性別

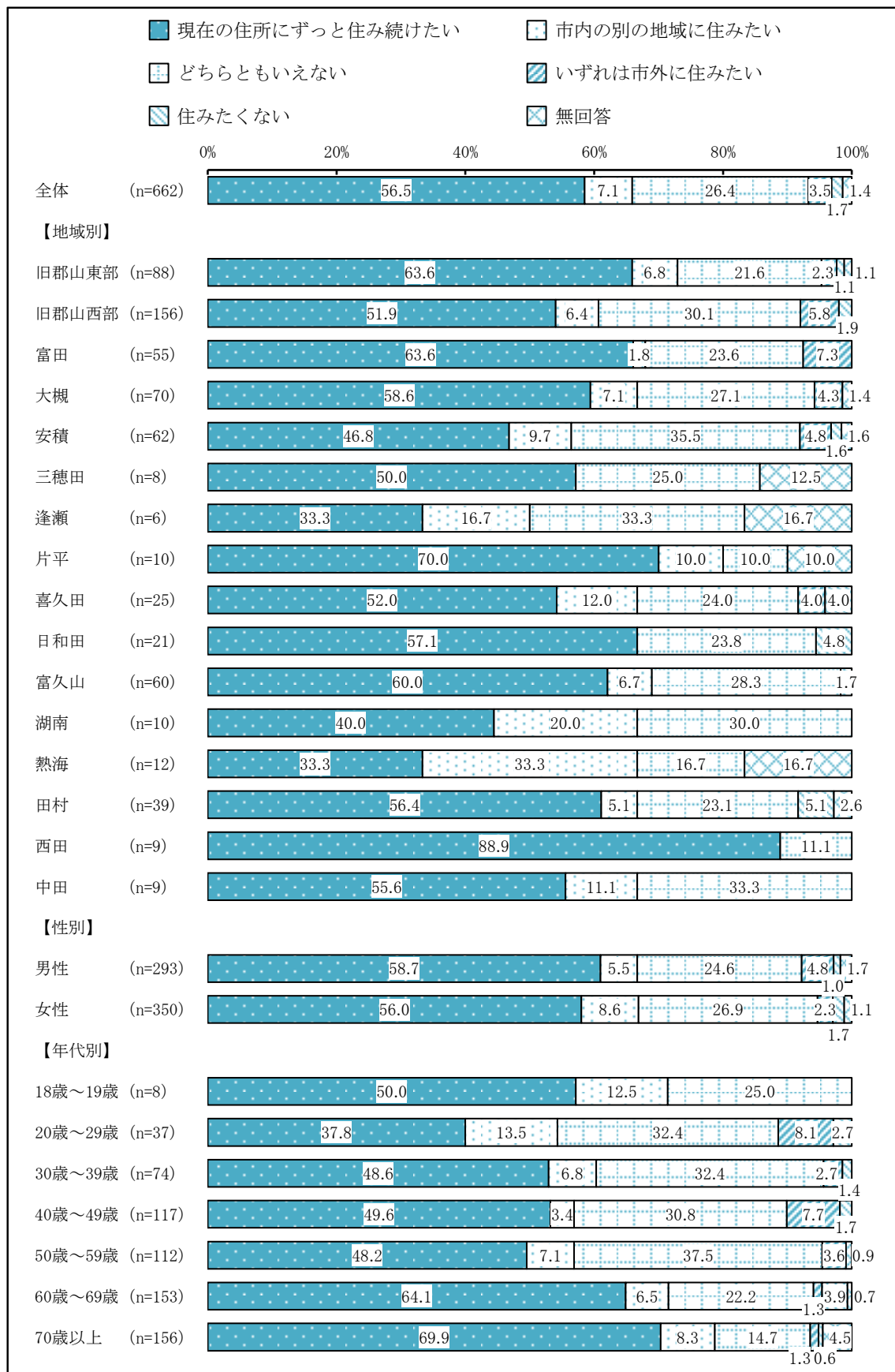
『住み続けたい』の割合は、性別による大きな差はみられません。

②年代別

『住み続けたい』の割合は、70代以上（78.2%）で最も高く、次いで60代（70.6%）が続き、高齢層で割合が高くなっています。

一方、『市外への転出意向がある』の割合は、20代（10.8%）、次いで40代（9.4%）の順に高くなっています。

図2-4 今後の居留意向（地域別／性別／年齢別）



3. 郡山市まちづくり基本指針施策の満足度重要度

(1) まちづくりへの満足度結果一覧

まちづくり（取組み）における45項目（施策）の満足度平均得点をランキング化した。

表3-1 45項目（施策）の満足度ランキング

平均得点69.7点					
順位	前年度 順位	分 野	項 目	満足度 (点)	順位の変動
1位	(1位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	音楽のまちづくり	77.6	→
2位	(9位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	広聴広報	76.1	→
3位	(2位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	医療	76.0	→
4位	(3位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	自然環境	74.8	→
5位	(6位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	スポーツ・文化・芸術	74.3	→
6位	(4位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	防災	73.7	→
6位	(5位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	健康づくり	73.7	→
8位	(13位)	基盤的取組	D×推進	73.4	→
9位	(13位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	歴史・文化遺産	73.3	→
10位	(8位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	子育て	72.9	→
11位	(7位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	住環境	71.9	→
12位	(10位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	青少年健全育成	71.7	→
13位	(11位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	乳幼児教育・家庭教育	71.4	→
14位	(24位)	基盤的取組	復興、創生の更なる推進	70.9	↑
15位	(16位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	地域学習	70.8	→
15位	(20位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	都市間交流・国際交流	70.8	→
17位	(12位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	男女共同参画	70.4	→
18位	(28位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	産業創出・企業誘致	70.2	↑
18位	(19位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	防犯・交通安全・消費者対策	70.2	→
18位	(29位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	地域産業	70.2	→
21位	(17位)	基盤的取組	セーフコミュニティ	69.9	→
22位	(30位)	基盤的取組	行政経営	69.8	→
22位	(21位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	5R(資源の有効利用)	69.8	→
24位	(18位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	学校教育	69.7	→
25位	(22位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	生涯学習	69.4	→
26位	(26位)	基盤的取組	SDGs	69.3	→
27位	(15位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	地域コミュニティ	69.2	↓
28位	(24位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	市民協働	69.1	→
29位	(26位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	特産品ブランド化	68.5	→
30位	-	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	多文化共生	67.9	-
30位	(38位)	基盤的取組	連携中枢都市圏構想	67.9	→
32位	(34位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	ユニバーサルデザイン	67.7	→
33位	(31位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	エネルギー	67.6	→
34位	(33位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	地域福祉	67.5	→
35位	(23位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	創業・起業支援	67.4	↓
36位	(35位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	障がい者福祉	67.2	→
37位	(31位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	高齢者福祉	66.8	→
38位	(39位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	環境活動	66.3	→
39位	(37位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	雇用・就労	65.7	→
40位	(40位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	計画的な都市づくり	65.6	→
40位	(41位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	観光	65.6	→
42位	-	Ⅰ. 産業・仕事の未来	輸出・販路拡大	65.3	-
43位	(36位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	交通・道路	64.7	→
44位	(42位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	シティプロモーション・関係人口	63.1	→
45位	(43位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	農林業	59.6	→

平均より高い

平均より低い

【よい】の回答者に100点、【どちらかといえばよい】に80点、【どちらかといえば不満】に60点、【不満】に40点、【わからない】に0点を与え、各項目の平均得点を算出した結果を掲載しました（表3-1参照）。

平均得点が高いほど、「満足」との評価が高い施策・事業です。

平均得点の算出式、算出例を以下に掲載しました。

※1：平均得点の算出式

$$\begin{aligned} & \left(\left[\text{【よい】} \times 100 + \left[\text{【どちらかといえばよい】} \times 80 + \right. \right. \right. \\ & \quad \left. \left[\text{【どちらかといえば不満】} \times 60 + \left[\text{【不満】} \times 40 + \left[\text{【わからない】} \times 0 \right) \right. \right. \\ & \quad \left. \left. \left. \div \text{「わからない」と無回答者を除いた} n \text{ 数} \right. \right. \right. \end{aligned}$$

※2：平均得点の算出例

例えば、「よい」126人、「どちらかといえばよい」283人、
「どちらかといえば不満」91人、「不満」51人、「わからない」106人ですと、

$$\frac{126 \text{ 人} \times 100 \text{ 点} + 283 \text{ 人} \times 80 \text{ 点} + 91 \text{ 人} \times 60 \text{ 点} + 51 \text{ 人} \times 40 \text{ 点} + 106 \text{ 人} \times 0 \text{ 点}}{551 \text{ 人}}$$

≒77.6 ※平均得点 77.6 点となります。

※2019年度から「普通」評価をなくした4段階評価とし、配点も変更しました。

【全体結果】

現在のまちづくりに対する満足度については、「音楽のまちづくり」「広聴広報」「医療」が上位となっています。

「10年間の満足度上位3項目」において、「音楽のまちづくり」は「音楽都市こおりやま」（2017年度以前の項目名）を含めると、2016年度以降は毎年上位3項目に含まれ、「医療」は2017年度以外、毎年度上位3項目に含まれており、継続して満足度の上位にある施策です（表3-2参照）。

「音楽のまちづくり」については、「音楽都市宣言」から17年経過し、市民の認知度が高いこと、「医療」については、病床数が全国平均を大きく上回るなど、市民のニーズを満たす医療を提供していることなどが、満足度につながっていると考えられます。

また、前年度調査に比べて「復興、創生の更なる推進」「産業創出・企業誘致」が大きく順位を上げました。

これらの項目に関連する本市の主な取組みは、次のとおりです。

「復興、創生の更なる推進」では、東日本大震災からの復興及び原子力災害からの生活環境の回復、復興の先を見据えた地方創生の取り組みを推進してきました。

本市産品等の販路拡大、風評の払拭を図るため、市内の外、首都圏等での販売促進キャンペーン活動に継続して取り組むとともに、ECサイトによる購入機会の創出、震災以降、販路が途絶えていた沖縄県への郡山市産米「あさか舞」の販路開拓、市内や首都圏等での販売促進などを行っています。

また、こおりやま産業博や海外販路開拓支援事業等を通し、国内外に向けて多様な商談機会を創出しています。

「産業創出・企業誘致」では、産総研福島再生可能エネルギー研究所やふくしま医療機器開発支援センター等の専門機関と連携した新事業展開や、チャレンジ新製品認定事業・オープンファクトリーKORIAYMAなどの市内製造業への活発的な支援のほか、製造業を中心とした県市外企業への誘致活動や、その企業の受け皿として郡山西部第一工業団地の造成を進めています。

6分野の満足度を比較すると、最も満足度が高かった分野は「学び育む子どもたちの未来」の71.3点、次いで「誰もが地域で輝く未来」の70.6点、「基盤的取組」の70.2点となっています（表3-3参照）。

表3-2 10年間の満足度上位3項目

順位 年度	1 位	2 位	3 位
2025	音楽のまちづくり	広聴広報	医療
2024	音楽のまちづくり	医療	自然環境
2023	医療	音楽のまちづくり	自然環境
2022	医療	音楽のまちづくり	自然環境
2021	医療	除去土壌等の搬出	音楽のまちづくり
2020	医療	音楽のまちづくり	自然環境
2019	音楽のまちづくり	自然環境	医療
2018	音楽のまちづくり	医療	自然環境
2017	広聴広報	音楽都市こおりやま	除染
2016	広聴広報	音楽都市こおりやま	医療

表3-3 6分野の満足度ランキング

順位	分野	満足度 (点)
1 位	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来 (子育て・教育・地域学習分野)	71.3
2 位	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来 (市民協働・生涯学習・保健福祉・男女共同参画分野)	70.6
3 位	基盤的取組 (行政経営・セーフコミュニティ・連携中枢都市圏・SDGs・DX推進・復興、創生の更なる推進)	70.2
4 位	Ⅱ. 交流・観光の未来 (交流・文化・観光・シティプロモーション分野)	70.1
5 位	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来 (環境・防災・市民安全・生活インフラ分野)	69.2
6 位	Ⅰ. 産業・仕事の未来 (商業・工業・雇用・農林業分野)	66.7

(2) これからの取組み重要度結果一覧

まちづくり（取組み）における 45 項目（施策）の重要度の平均割合（回答率）をランキング化しました。

表 3-4 45 項目（施策）の重要度ランキング

平均割合 11.5%						
順位	前年度 順位	分 野	項 目	重要度 (%)	順位の変動	10位以上の 変動
1 位	(1位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	子育て	39.7	⇒	
2 位	(3位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	雇用・就労	37.9	⇒	
3 位	(2位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	高齢者福祉	34.4	⇒	
4 位	(4位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	交通・道路	27.9	⇒	
5 位	(7位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	医療	25.1	⇒	
6 位	(6位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	学校教育	24.3	⇒	
7 位	(5位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	防犯・交通安全・消費者対策	21.3	⇒	
8 位	(9位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	計画的な都市づくり	18.7	⇒	
9 位	(11位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	地域産業	18.1	⇒	
10 位	(10位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	産業創出・企業誘致	18.0	⇒	
11 位	(8位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	防災	16.5	⇒	
12 位	(12位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	観光	16.3	⇒	
13 位	(21位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	農林業	14.2	⇒	
14 位	(13位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	音楽のまちづくり	12.5	⇒	
15 位	(20位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	乳幼児教育・家庭教育	12.4	⇒	
16 位	(19位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	住環境	11.3	⇒	
17 位	(14位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	特産品ブランド化	11.2	⇒	
18 位	(15位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	健康づくり	10.9	⇒	
19 位	(16位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	青少年健全育成	10.1	⇒	
20 位	(23位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	障がい者福祉	10.1	⇒	
21 位	(22位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	自然環境	9.4	⇒	
22 位	(18位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	スポーツ・文化・芸術	8.0	⇒	
23 位	(26位)	基盤的取組	行政経営	8.0	⇒	
24 位	(28位)	基盤的取組	復興・創生の更なる推進	7.7	⇒	
25 位	(32位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	歴史・文化遺産	7.6	⇒	
26 位	(27位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	地域福祉	7.4	⇒	
27 位	(23位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	地域コミュニティ	6.9	⇒	
28 位	(25位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	5 R (資源の有効利用)	6.9	⇒	
29 位	(29位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	創業・起業支援	6.5	⇒	
30 位	(34位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	シティプロモーション・関係人口	6.5	⇒	
31 位	(16位)	基盤的取組	S D G s	6.0	↓	▼
32 位	(31位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	都市間交流・国際交流	5.9	⇒	
33 位	(30位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	環境活動	5.9	⇒	
34 位	(33位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	地域学習	5.3	⇒	
35 位	(36位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	生涯学習	4.5	⇒	
36 位	(36位)	基盤的取組	連携中枢都市圏構想	3.6	⇒	
37 位	(35位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	エネルギー	2.9	⇒	
38 位	(41位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	市民協働	2.7	⇒	
39 位	-	Ⅰ. 産業・仕事の未来	輸出・販路拡大	2.6	-	
40 位	(40位)	基盤的取組	D X 推進	2.4	⇒	
41 位	(43位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	広聴広報	1.8	⇒	
42 位	(42位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	男女共同参画	1.8	⇒	
43 位	(38位)	基盤的取組	セーフコミュニティ	1.8	⇒	
44 位	-	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	多文化共生	1.7	-	
45 位	(39位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	ユニバーサルデザイン	1.7	⇒	

平均より高い

平均より低い

平均割合（回答率）が高いほど、「重要度」が高い施策・事業です。

平均割合（回答率）の算出式、算出例を以下に掲載しました。

※１：平均割合（回答率）の算出式

$(\text{回答数}) \div n \text{ 数} \times 100\%$

※２：平均割合（回答率）の算出例

例えば、「子育て」263人ですと、

$263 \text{ 人} \div 662 \text{ 人} \times 100\% \approx 39.7$

※平均割合（回答率）＝39.7％となります。

— 重要度の上位３つは、「子育て」「雇用・就労」「高齢者福祉」 —

【全体結果】

現在のまちづくりに対する重要度については、「子育て」「雇用・就労」「高齢者福祉」が上位となっています（表 3-4 参照）。

「子育て」については、急速に進む少子化や人口減少などへの関心の高まりに加え、本市は2022年7月に「全力で子育て応援中！」と活動宣言し、「子どもが安心して生まれ、育つまち郡山」を目指して、「ベビーファースト」運動を推進していることなどから、各種団体や事業者など地域ぐるみでの子育て支援の取組みが広がったこともあり、重要度が高まっていると考えられます。

また、「10年間の重要度上位３項目」において、「雇用・就労」は2018年度から、「高齢者福祉」は2016年度から、ほぼ毎年度上位３項目に含まれており、継続して重要度の高い施策です（表 3-5 参照）。

また、上位10位内では、「雇用・就労」「医療」「計画的な都市づくり」「地域産業」が前年度調査に比べて順位を上げています。

「雇用・就労」「地域産業」では、若者の市外への流出問題、後継者問題等から、若者が定着できる環境づくりが重視され、今まで以上に地域産業の活性化の重要性が高まっていると考えられます。

また、6分野の重要度を比較すると、最も重要度が高かった分野は「学び育む子どもたちの未来」が18.4%で最も高くなっています。次いで、「産業・仕事の未来」の15.5%と続いています（表 3-6 参照）。

表 3－5 10 年間の重要度上位 3 項目

順位 年度	1 位	2 位	3 位
2025	子育て	雇用・就労	高齢者福祉
2024	子育て	高齢者福祉	雇用・就労
2023	子育て	雇用・就労	高齢者福祉
2022	雇用・就労	子育て	高齢者福祉
2021	子育て	雇用・就労	高齢者福祉
2020	雇用・就労	防災	学校教育
2019	雇用・就労	子育て	高齢者福祉
2018	雇用・就労	子育て	高齢者福祉
2017	高齢者福祉	子育て	学校教育
2016	高齢者福祉	学校教育	子育て

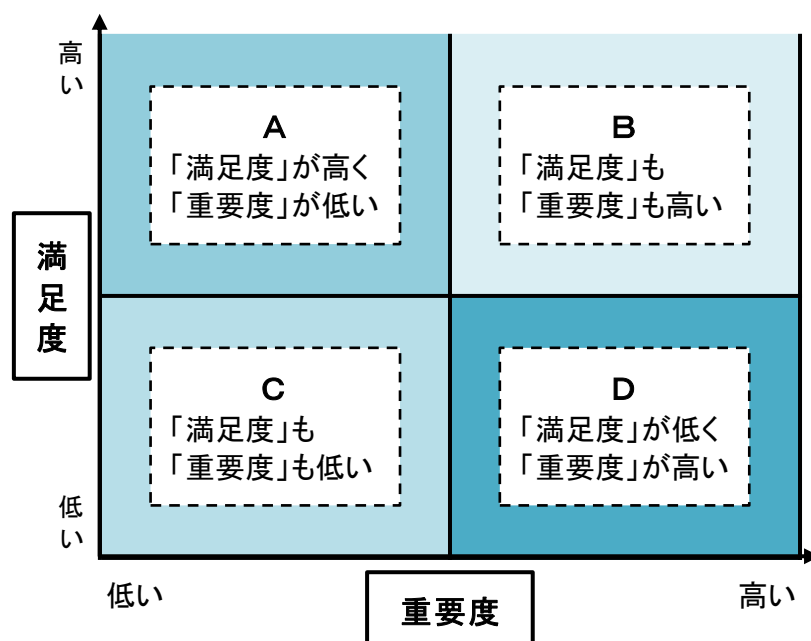
表 3－6 6 分野別の重要度ランキング

順 位	分 野	重要度 (%)
1 位	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来 (子育て・教育・地域学習分野)	18.4
2 位	Ⅰ. 産業・仕事の未来 (商業・工業・雇用・農林業分野)	15.5
3 位	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来 (環境・防災・市民安全・生活インフラ分野)	12.3
4 位	Ⅱ. 交流・観光の未来 (交流・文化・観光・シティプロモーション分野)	9.8
5 位	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来 (市民協働・生涯学習・保健福祉・男女共同参画分野)	9.6
6 位	基盤的取組 (行政経営・セーフコミュニティ・連携中枢都市圏・ SDGs・DX推進・復興、創生の更なる推進)	4.9

（３）施策の優先度《満足度と重要度の関係》

まちづくり（取組み）における 45 項目（施策）の優先度を整理するため、「満足度」を縦軸、「重要度」を横軸にとり、各項目の「満足度」「重要度」の結果を散布図として示しました（図 3-1 参照）。満足度平均得点の算出方法につきましては前出 28 頁を、重要度平均割合の算出方法につきましては前出 32 頁を参照ください。

なお、「満足度」「重要度」の関係を表す領域線は、それぞれの平均値となります。



A：維持領域

重要度は低いが満足度が高い取組みは、現状を維持していく項目（施策）です。

B：重要維持領域

重要度が高く満足度も高いため、引き続き重点的に維持していく項目（施策）です。

C：要検討領域

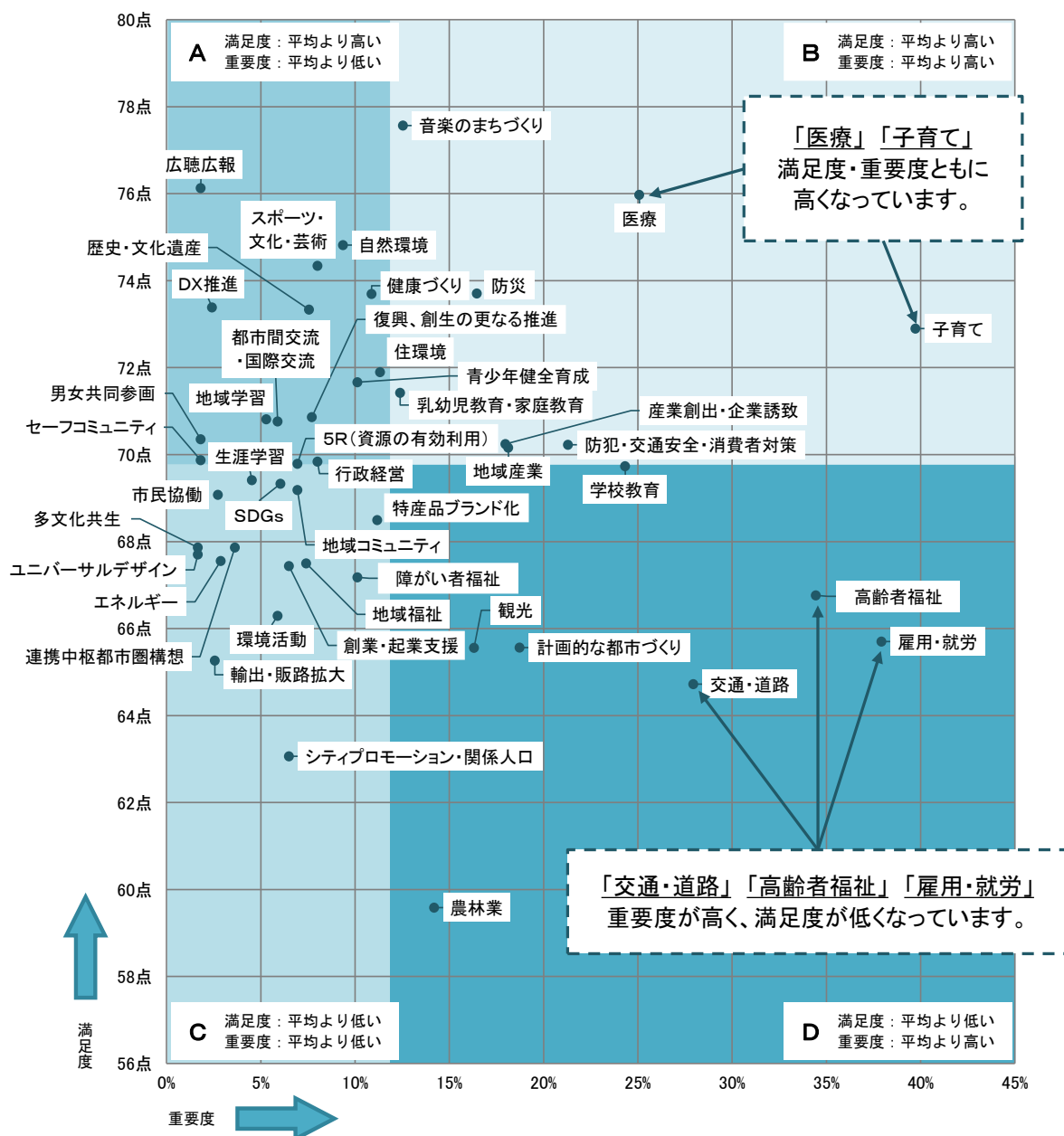
重要度も満足度も低い取組みは、市民ニーズを再認識し、必要があれば大きく改善する必要がある項目（施策）です。

D：重要取組領域

重要度が高いが満足度が低いため、重点的に取組みを進める必要がある項目（施策）です。

※上記のそれぞれの領域に該当した項目（施策）の満足度や重要度の高低については、全体の平均値と比較した相対的判断となっています。

図3-1 施策の優先度（満足度と重要度の関係散布図）

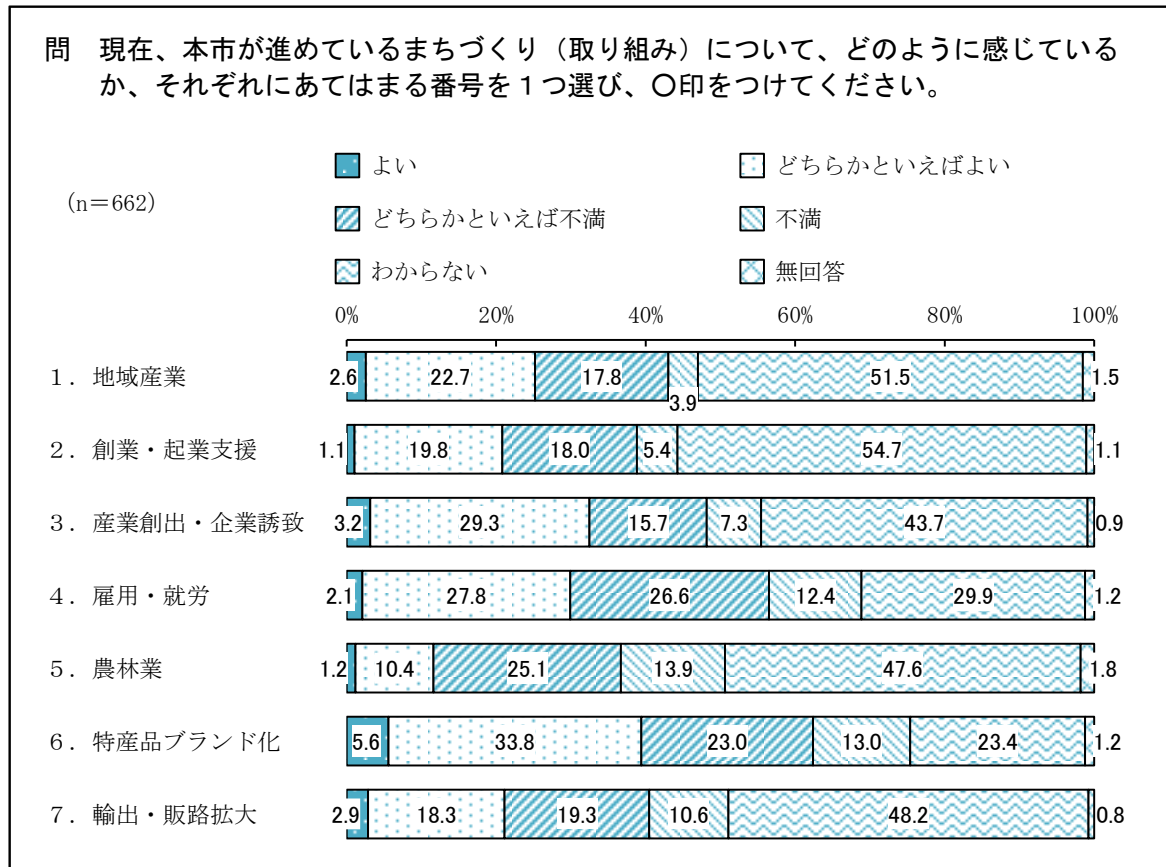


—— 「交通・道路」「高齢者福祉」「雇用・就労」に関して
優先的な施策の改善が求められています ——

現在の満足度が低く、今後の重要性が高い領域「D」にある施策は市民ニーズが高いと考えられます。この領域は市民生活に密接な関係のある施策が多く、とりわけ「交通・道路」「高齢者福祉」「雇用・就労」は市民ニーズの高いポイントとなっています。

(4) 分野別属性別満足度結果

①産業・仕事の未来（商業・工業・雇用・農林業分野）への満足度



—— 産業・仕事の未来において「満足」と思う人が最も多いのは

『特産品ブランド化』 ——

【全体結果】

《産業・仕事の未来》における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が最も高いのは『6. 特産品ブランド化』（39.4%）となり、次いで『3. 産業創出・企業誘致』（32.5%）も3割台が続いています。

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのは『4. 雇用・就労』および『5. 農林業』（39.0%）でした。『6. 特産品ブランド化』については、評価が分かれる結果となっています（満足：39.4%、不満：36.0%）。

また、「わからない」の割合が『2. 創業・起業支援』（54.7%）と『1. 地域産業』（51.5%）で5割を超えています。事業、施策の推進など、今後もさらに周知していく必要があります。

各項目の平均得点を算出した結果を次頁に掲載しました（図 3-2 参照）。

平均得点をみると、『1. 地域産業』および『3. 産業創出・企業誘致』が70.2点で最も高くなっています。

一方で、最も低かったのは『5. 農林業』(59.6点)でした。

なお、性別、年代別平均得点の上位3つを以下に掲載しました(表3-7参照)。

図3-2 産業・仕事の未来への満足度＜平均得点＞（全体）

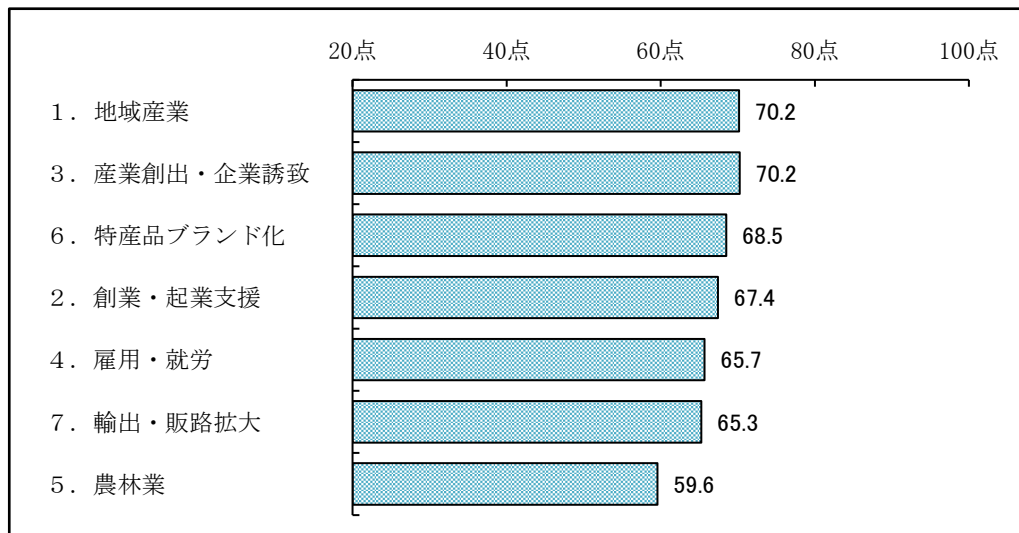


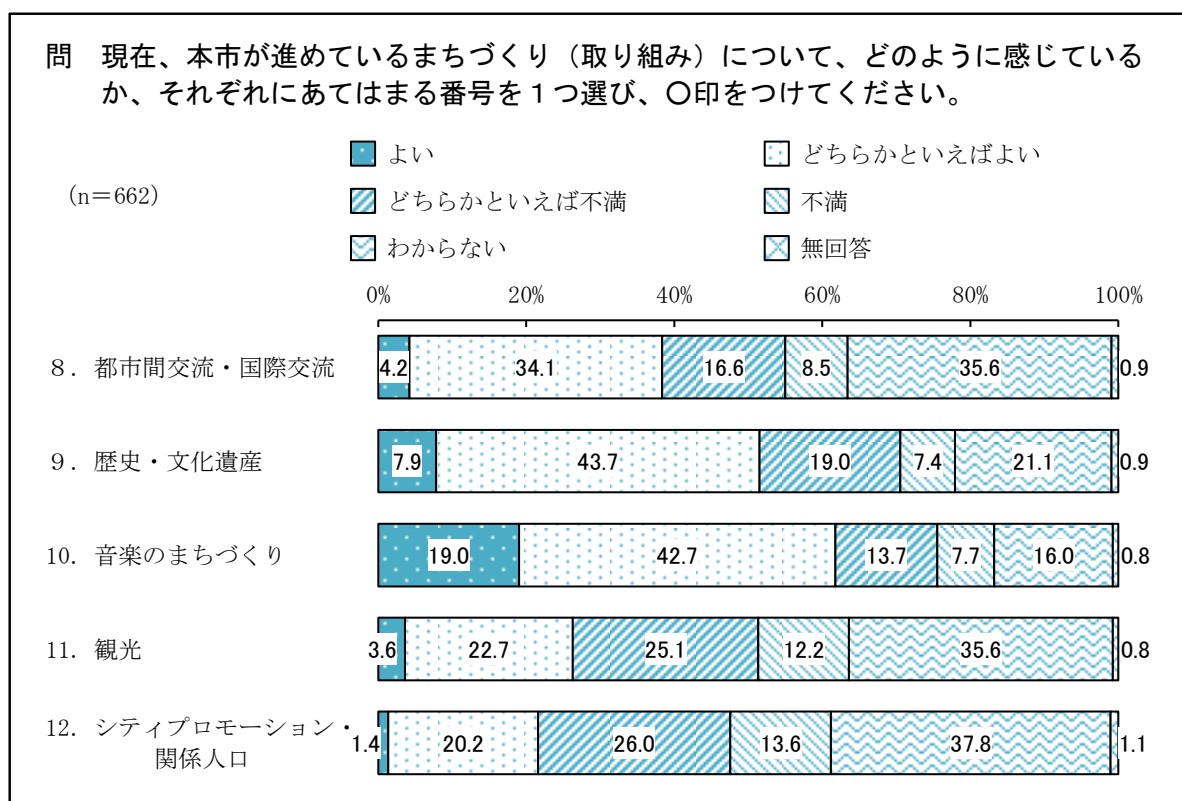
表3-7 産業・仕事の未来への満足度＜性別、年代別平均得点の上位3つ＞

	男 性	女 性
1位	地域産業 (70.3点)	産業創出・ 企業誘致 (72.9点)
2位	産業創出・ 企業誘致 (68.3点)	特産品 ブランド化 (71.3点)
3位	雇用・就労 (67.0点)	地域産業 (70.6点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	特産品 ブランド化 (85.7点)	産業創出・ 企業誘致 (78.0点)	特産品 ブランド化 (71.0点)	産業創出・ 企業誘致 (71.2点)	産業創出・ 企業誘致 (71.8点)	地域産業 (70.1点)	産業創出・ 企業誘致 (70.6点)
2位	雇用・就労 (83.3点)	地域産業 (74.7点)	地域産業 (69.7点)	特産品 ブランド化 (70.9点)	地域産業 (69.7点)	産業創出・ 企業誘致 (66.1点)	地域産業 (70.0点)
3位	地域産業 産業創出・ 企業誘致 農林業 輸出・ 販路拡大 (80.0点)	創業・ 起業支援 (71.8点)	産業創出・ 企業誘致 (67.8点)	地域産業 (68.7点)	特産品 ブランド化 (67.9点)	創業・ 起業支援 特産品 ブランド化 (66.0点)	創業・ 起業支援 (69.1点)

②交流・観光の未来

(交流・文化・観光・シティプロモーション分野) への満足度



—— 交流・観光の未来において「満足」と思う人が最も多いのは『音楽のまちづくり』 ——

【全体結果】

《交流・観光の未来》における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が最も高いのは『10. 音楽のまちづくり』（61.7%）でした。以下、『9. 歴史・文化遺産』（51.6%）と続き、上位を構成しています。

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのは『12. シティプロモーション・関係人口』（39.6%）で、次点で『11. 観光』（37.3%）となっています。

各項目の平均得点を算出した結果を次頁に掲載しました（図 3-3 参照）。

平均得点をみると、『10. 音楽のまちづくり』が77.6点で最も高くなっています。

一方で、最も低かったのは『12. シティプロモーション・関係人口』（63.1点）でした。

なお、性別、年代別平均得点の上位3つを次頁に掲載しました（表 3-8 参照）。

図 3－3 交流・観光の未来への満足度＜平均得点＞（全体）

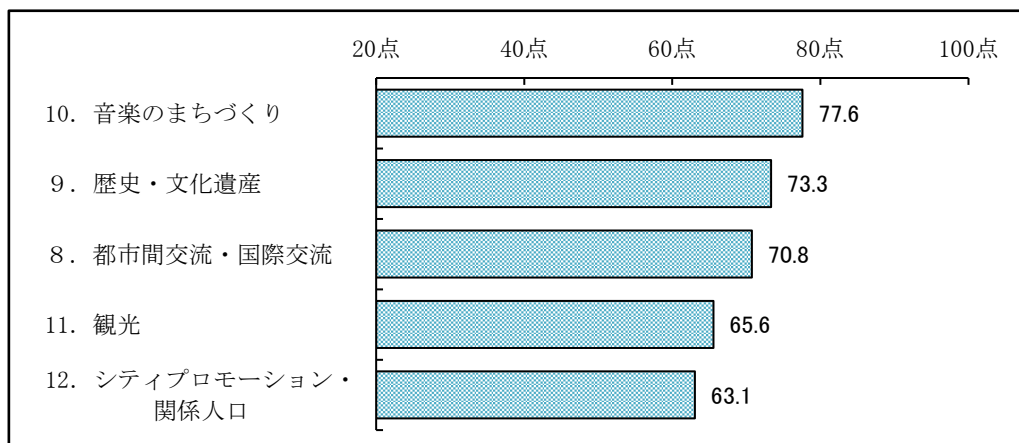
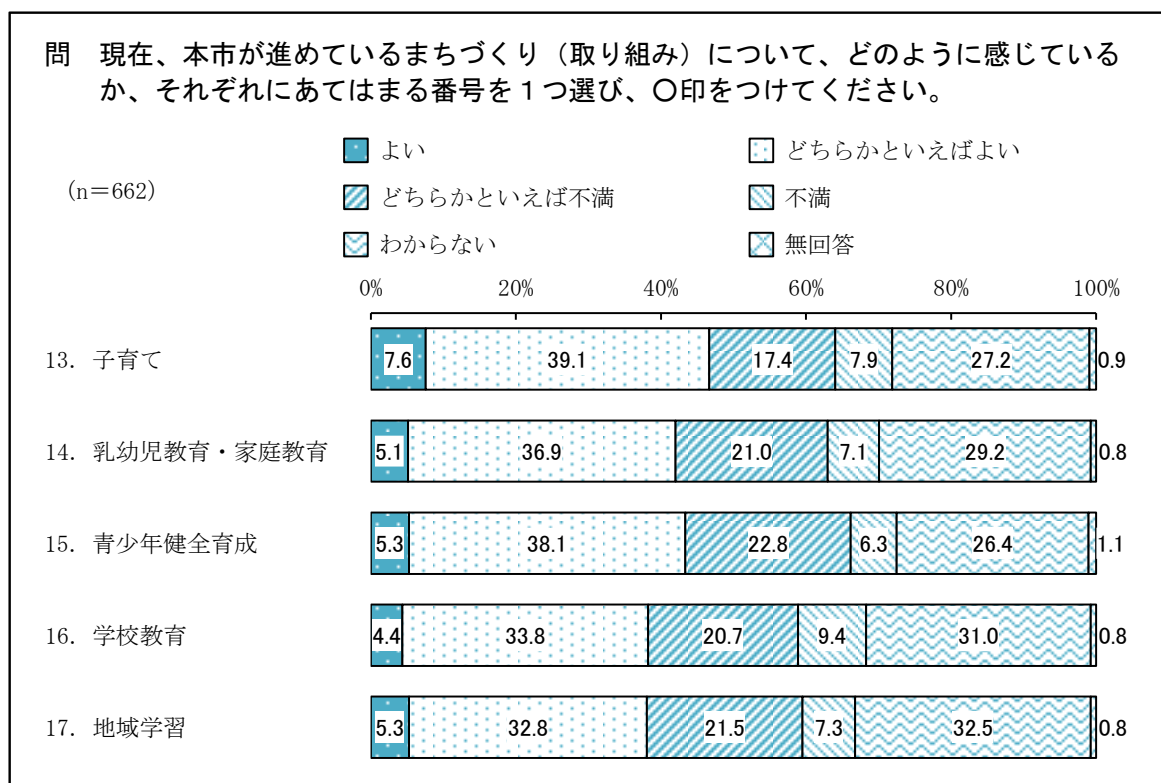


表 3－8 交流・観光の未来への満足度＜性別、年代別平均得点の上位 3 つ＞

	男 性	女 性
1位	音楽のまちづくり (75.3点)	音楽のまちづくり (80.1点)
2位	歴史・文化遺産 (71.3点)	歴史・文化遺産 (75.8点)
3位	都市間交流・国際交流 (69.1点)	都市間交流・国際交流 (72.6点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	歴史・文化遺産 (85.0点)	歴史・文化遺産 (77.8点)	音楽のまちづくり (77.3点)	音楽のまちづくり (75.1点)	音楽のまちづくり (77.6点)	音楽のまちづくり (78.6点)	音楽のまちづくり (78.7点)
2位	都市間交流・国際交流 (77.1点)	音楽のまちづくり (77.3点)	歴史・文化遺産 (74.0点)	歴史・文化遺産 (71.4点)	歴史・文化遺産 (73.3点)	歴史・文化遺産 (73.5点)	歴史・文化遺産 (73.1点)
3位	音楽のまちづくり (75.0点)	都市間交流・国際交流 (74.2点)	都市間交流・国際交流 (68.3点)	都市間交流・国際交流 (68.1点)	都市間交流・国際交流 (71.0点)	都市間交流・国際交流 (72.7点)	都市間交流・国際交流 (70.9点)

③学び育む子どもたちの未来（子育て・教育・地域学習分野）への満足度



—— 学び育む子どもたちの未来において

「満足」と思う人が最も多いのは『子育て』 ——

【全体結果】

《学び育む子どもたちの未来》における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が最も高いのは『13. 子育て』（46.7%）となり、次いで『15. 青少年健全育成』（43.4%）、『14. 乳幼児教育・家庭教育』（42.0%）も4割台で続いています。特に『13. 子育て』に関しては、安心して産み育てる環境において、子育てしやすい環境づくりに努めるなど、今後特に重点的な維持が期待されています。

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのは『16. 学校教育』（30.1%）となっています。

各項目の平均得点を算出した結果を次頁に掲載しました（図 3-4 参照）。

平均得点をみると、『13. 子育て』が72.9点で最も高くなっています。

一方で、最も低かったのは『16. 学校教育』（69.7点）でした。

なお、性別、年代別平均得点の上位3つを次頁に掲載しました（表 3-9 参照）。

図 3－4 学び育む子どもたちの未来への満足度＜平均得点＞（全体）

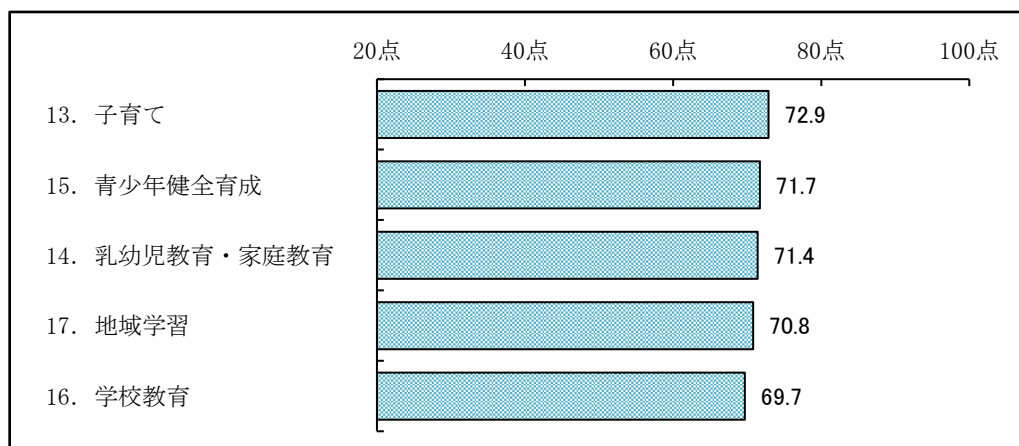


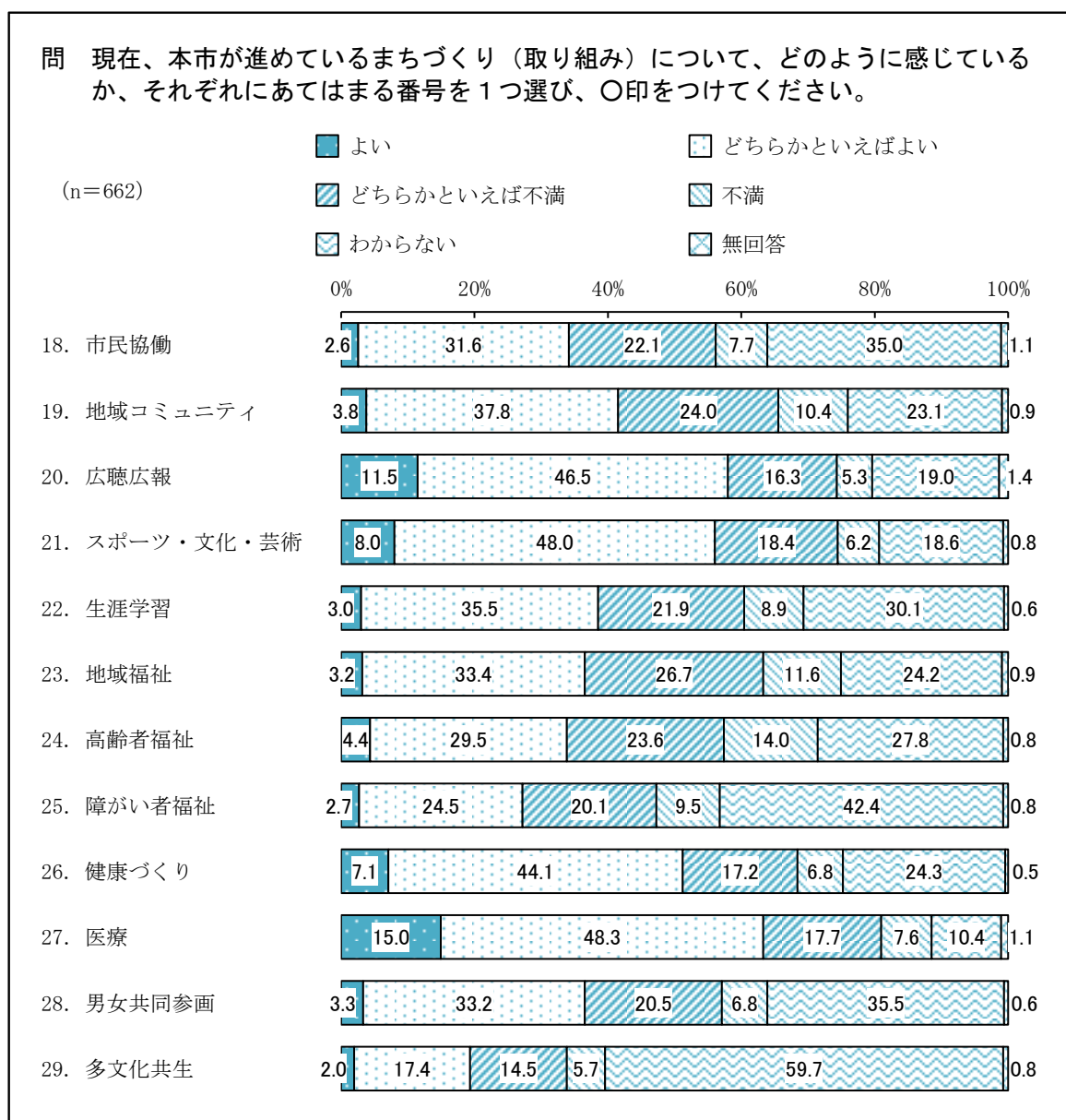
表 3－9 学び育む子どもたちの未来への満足度＜性別、年代別平均得点の上位 3 つ＞

	男 性	女 性
1位	子育て (72.4点)	子育て 地域学習 (73.8点)
2位	乳幼児教育・ 家庭教育 (70.5点)	
3位	青少年 健全育成 (70.4点)	青少年 健全育成 (73.1点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	青少年 健全育成 (84.0点)	地域学習 (74.4点)	子育て (70.3点)	子育て (75.1点)	子育て (75.8点)	子育て 学校教育 (70.1点)	青少年 健全育成 (72.7点)
2位	子育て 乳幼児教育・ 家庭教育 (80.0点)	子育て (74.1点)	乳幼児教育・ 家庭教育 (68.3点)	地域学習 (74.3点)	青少年 健全育成 (75.2点)		子育て (72.4点)
3位		青少年 健全育成 (73.8点)	地域学習 (67.9点)	乳幼児教育・ 家庭教育 (72.8点)	乳幼児教育・ 家庭教育 (72.7点)	乳幼児教育・ 家庭教育 (69.9点)	乳幼児教育・ 家庭教育 (72.3点)

④誰もが地域で輝く未来

（市民協働・生涯学習・保健福祉・男女共同参画分野）への満足度



—— 誰もが地域で輝く未来において

「満足」と思う人が最も多いのは『医療』

——

【全体結果】

《誰もが地域で輝く未来》における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が最も高いのは『27. 医療』（63.3%）でした。以下、『20. 広聴広報』（58.0%）、『21. スポーツ・文化・芸術』（56.0%）、『26. 健康づくり』（51.2%）が5割台で続き、上位を構成しています。

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのは『23. 地域福祉』（38.3%）で、次点で『24. 高齢者福祉』（37.6%）となっています。

各項目の平均得点を算出した結果を以下に掲載しました（図 3-5 参照）。

平均得点をみると、『20. 広聴広報』が 76.1 点で最も高く、次いで『27. 医療』（76.0 点）となっています。

一方で、最も低かったのは『24. 高齢者福祉』（66.8 点）でした。

なお、性別、年代別平均得点の上位 3 つを次頁に掲載しました（表 3-10 参照）。

図 3－5 誰もが地域で輝く未来への満足度＜平均得点＞（全体）

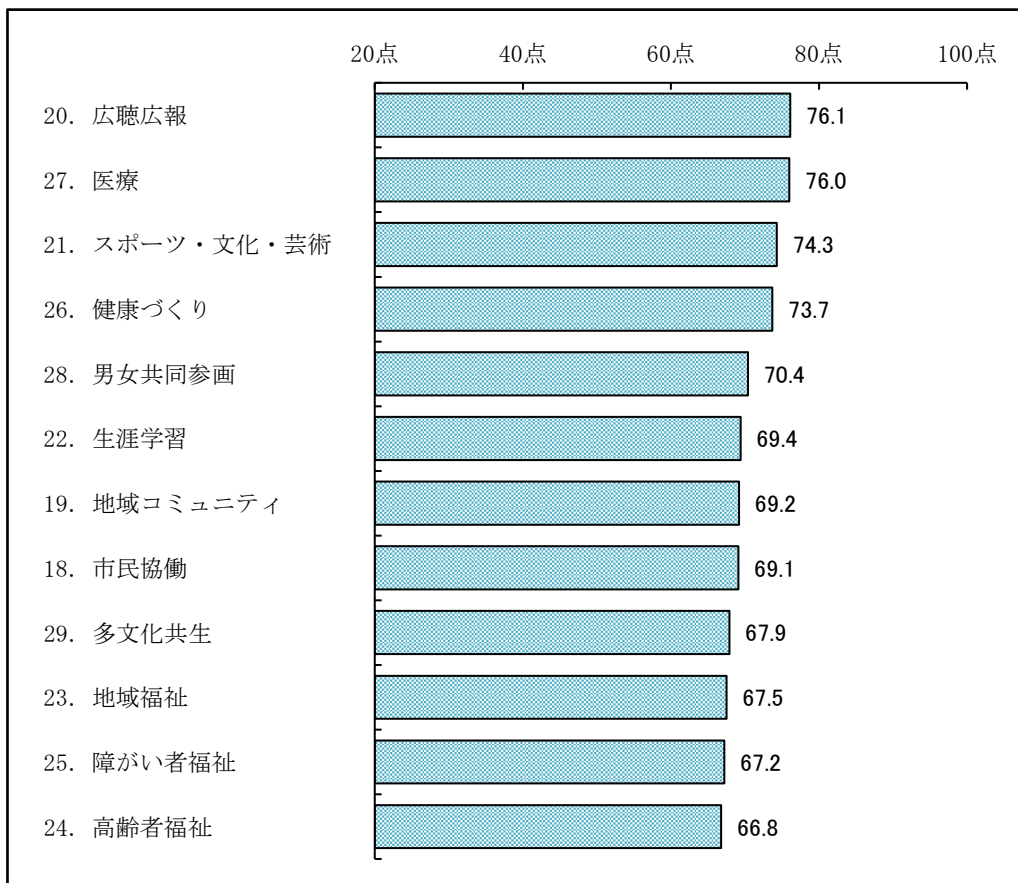


表 3－10 誰もが地域で輝く未来への満足度＜性別、年代別平均得点の上位3つ＞

	男 性	女 性
1位	医療 (76.7点)	広聴広報 (78.3点)
2位	広聴広報 (74.0点)	スポーツ・ 文化・芸術 (76.5点)
3位	スポーツ・ 文化・芸術 健康づくり (72.1点)	医療 (76.1点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	障がい者福祉 (90.0点)	医療 (82.5点)	医療 (72.9点)	医療 (76.3点)	広聴広報 (78.0点)	医療 (74.7点)	広聴広報 (79.0点)
2位	医療 (82.5点)	広聴広報 (82.1点)	スポーツ・ 文化・芸術 (72.8点)	広聴広報 (74.9点)	スポーツ・ 文化・芸術 (75.9点)	スポーツ・ 文化・芸術 (73.4点)	医療 (77.0点)
3位	市民協働 広聴広報 健康づくり (80.0点)	スポーツ・ 文化・芸術 (78.1点)	広聴広報 (72.1点)	健康づくり (74.5点)	医療 (74.9点)	広聴広報 (73.3点)	健康づくり (75.3点)

(環境・防災・市民安全・生活インフラ分野) への満足度

(n=662)

0. 環境活動

1. 5 R（資源の有効利用）

2. エネルギー

3. 自然環境

4. 防災

5. 防犯・交通安全・消費者対策

6. ユニバーサルデザイン

7. 交通・道路

8. 計画的な都市づくり

9. 住環境

0% 20% 40% 60% 80% 100%

よい どちらかといえばよい どちらかといえば不満 不満 わからない 無回答

項目	よい	どちらかといえばよい	どちらかといえば不満	不満	わからない	無回答
0. 環境活動	2.1	21.9	20.5	9.2	45.0	1.2
1. 5 R（資源の有効利用）	4.8	39.3	24.2	10.4	20.1	1.2
2. エネルギー	2.0	25.8	20.7	8.3	42.4	0.8
3. 自然環境	8.5	48.2	15.3	6.8	20.8	0.5
4. 防災	6.6	46.8	18.3	6.5	20.8	0.9
5. 防犯・交通安全・消費者対策	5.0	40.3	25.8	9.2	18.7	0.9
6. ユニバーサルデザイン	2.0	28.1	22.7	8.5	37.9	0.9
7. 交通・道路	6.2	31.1	30.7	22.2	8.8	1.1
8. 計画的な都市づくり	4.2	29.2	29.6	15.7	19.9	1.4
9. 住環境	10.1	44.0	20.2	12.5	12.2	0.9

「満足」と思う人が最も多いのは『自然環境』——

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのは『37. 交通・道路』（52.9%）となっています。

45

平均得点をみると、『33. 自然環境』が74.8点で最も高くなっています。
一方で、最も低かったのは『37. 交通・道路』(64.7点)でした。
なお、性別、年代別平均得点の上位3つを以下に掲載しました(表3-11参照)。

図3-6 暮らしやすいまちの未来への満足度＜平均得点＞(全体)

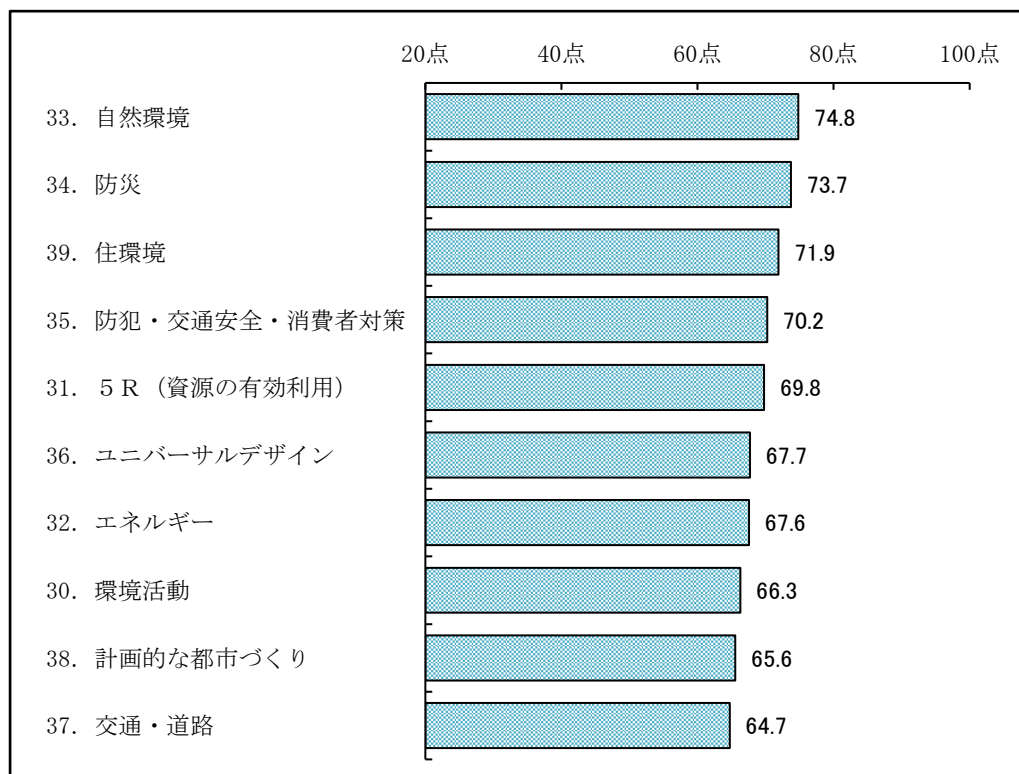


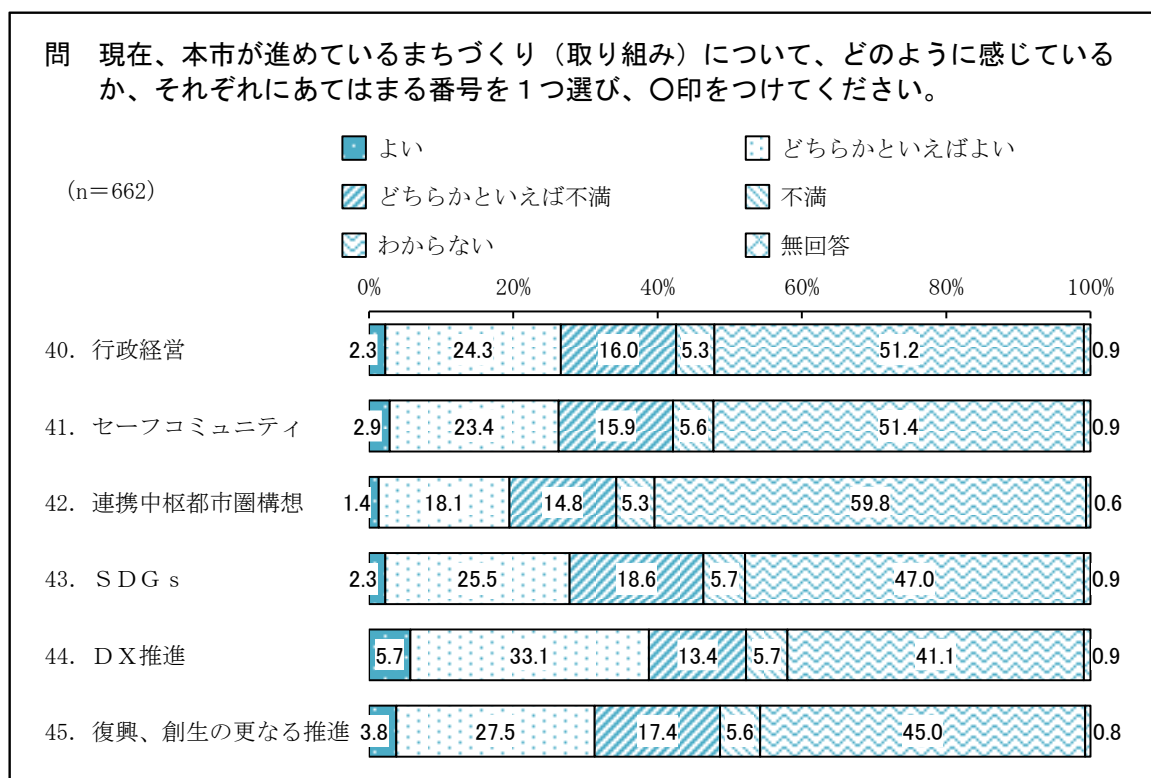
表3-11 暮らしやすいまちの未来への満足度＜性別、年代別平均得点の上位3つ＞

	男 性	女 性
1位	防災 (73.5点)	自然環境 (76.8点)
2位	自然環境 (73.3点)	防災 (74.6点)
3位	住環境 (71.7点)	住環境 (72.7点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	環境活動	住環境 (78.5点)	自然環境 (77.4点)	防災 (73.7点)	自然環境 (77.0点)	自然環境 (73.4点)	防災 (75.0点)
2位	防災	防災 (77.3点)	防災 (72.1点)	自然環境 (73.3点)	防災 (73.7点)	防災 (72.0点)	自然環境 (74.6点)
3位	防犯・交通安全 ・消費者対策 (80.0点)	防犯・交通安全 ・消費者対策 (76.3点)	5R(資源の 有効利用) (69.4点)	住環境 (72.5点)	住環境 (73.2点)	住環境 (70.1点)	住環境 (72.7点)

⑥基盤的取組

（行政経営・セーフコミュニティ・連携中枢都市圏・SDGs・DX推進・復興、創生の更なる推進）への満足度



— 基盤的取組において「満足」と思う人が最も多いのは『DX推進』 —

【全体結果】

《基盤的取組》における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が最も高いのは『44. DX推進』（38.8%）となり、次いで『45. 復興、創生の更なる推進』（31.3%）も3割台で続いています。

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのは『43. SDGs』（24.3%）となっています。

また、すべての項目において「わからない」の割合が最も高くなっています。事業、施策の推進など、今後もさらに周知していく必要があります。

各項目の平均得点を算出した結果を次頁に掲載しました（図 3-7 参照）。

平均得点をみると、『44. DX推進』が73.4点で最も高くなっています。

一方で、最も低かったのは『42. 連携中枢都市圏構想』（67.9点）でした。

なお、性別、年代別平均得点の上位3つを以下に掲載しました（表 3-12 参照）。

図 3 - 7 基盤的取組への満足度＜平均得点＞（全体）

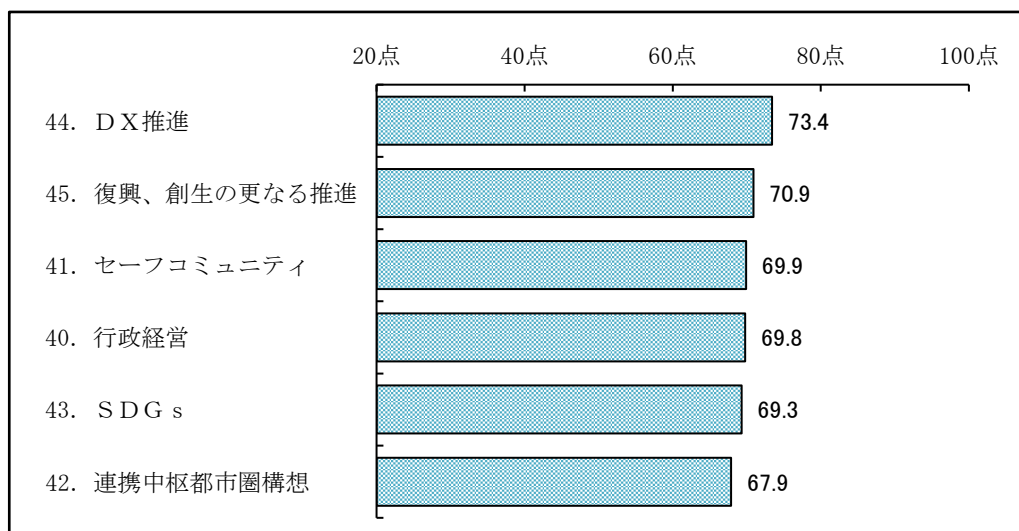


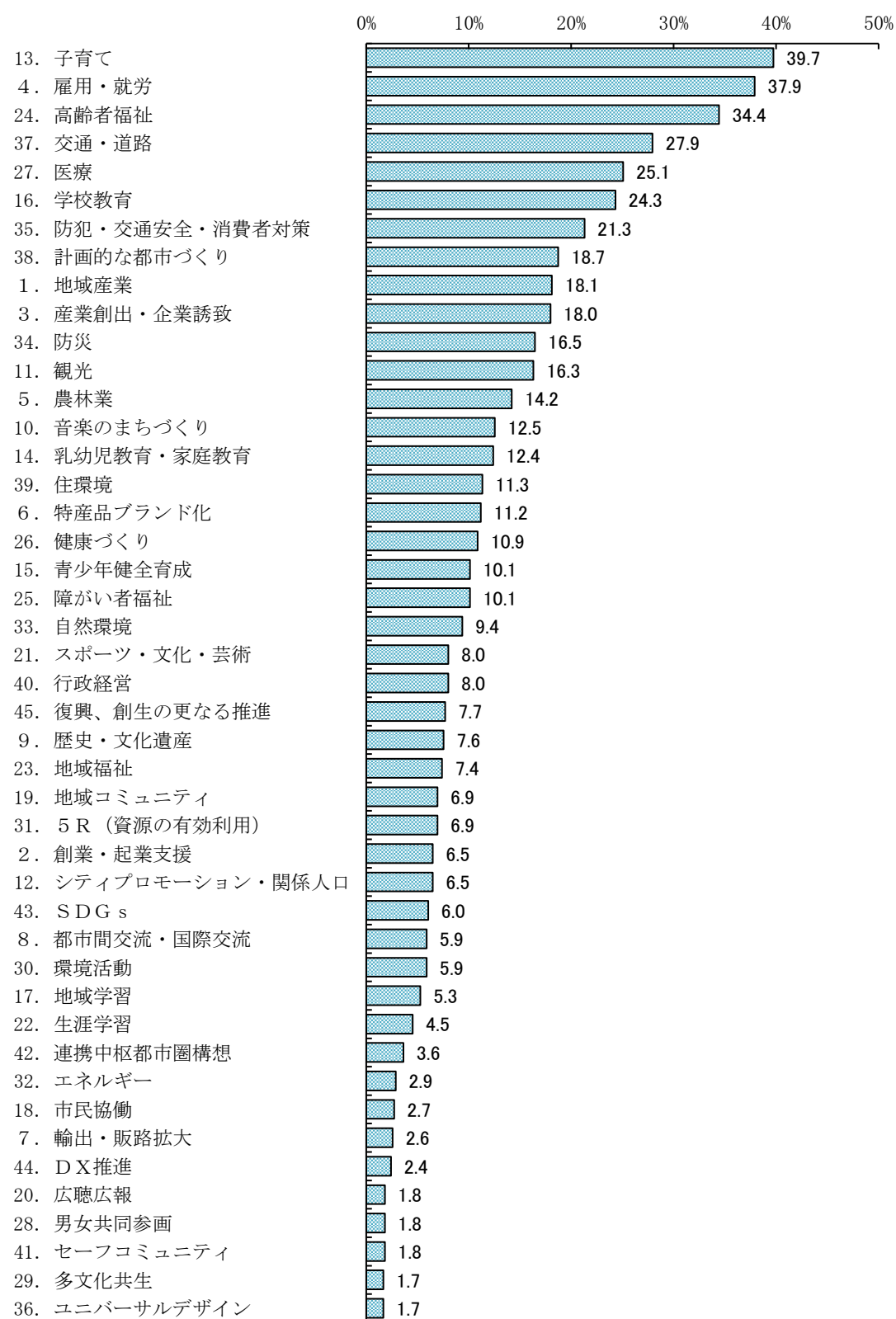
表 3 - 1 2 基盤的取組への満足度＜性別、年代別平均得点の上位 3 つ＞

	男 性	女 性
1位	DX推進 (71.2点)	DX推進 (76.0点)
2位	復興、創生の 更なる推進 (69.1点)	復興、創生の 更なる推進 (73.2点)
3位	セーフ コミュニティ (68.5点)	行政経営 (72.4点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	DX推進 (80.0点)	DX推進 (80.9点)	DX推進 (72.8点)	DX推進 (76.1点)	DX推進 行政経営 (72.3点)	DX推進 (72.5点)	復興、創生の 更なる推進 (70.3点)
2位	復興、創生の 更なる推進 (76.0点)	セーフ コミュニティ (80.0点)	復興、創生の 更なる推進 (69.8点)	復興、創生の 更なる推進 (72.7点)	復興、創生の 更なる推進 (71.8点)	セーフ コミュニティ (68.9点)	行政経営 (70.0点)
3位	行政経営 セーフ コミュニティ (72.0点)	復興、創生の 更なる推進 (75.2点)	行政経営 (69.4点)	SDGs (71.1点)	SDGs (71.1点)	復興、創生の 更なる推進 (68.4点)	DX推進 (69.9点)

(5) 分野別属性別重要度結果（複数回答）

問 現在、本市が進めているまちづくり（取り組み）について、以下の1～45の項目の中から特に重要と思われるものを5つ選び、その番号に○印をつけてください。



——— 最も重要視されている施策・事業は「子育て」 ———

【全体結果】

『13. 子育て』(39.7%)の割合が最も高くなっています。以下、『4. 雇用・就労』(37.9%)、『24. 高齢者福祉』(34.4%)、『37. 交通・道路』(27.9%)、『27. 医療』(25.1%)の順で続いています。

なお、性別、年代別の上位5つを以下に掲載しました(表3-13参照)。

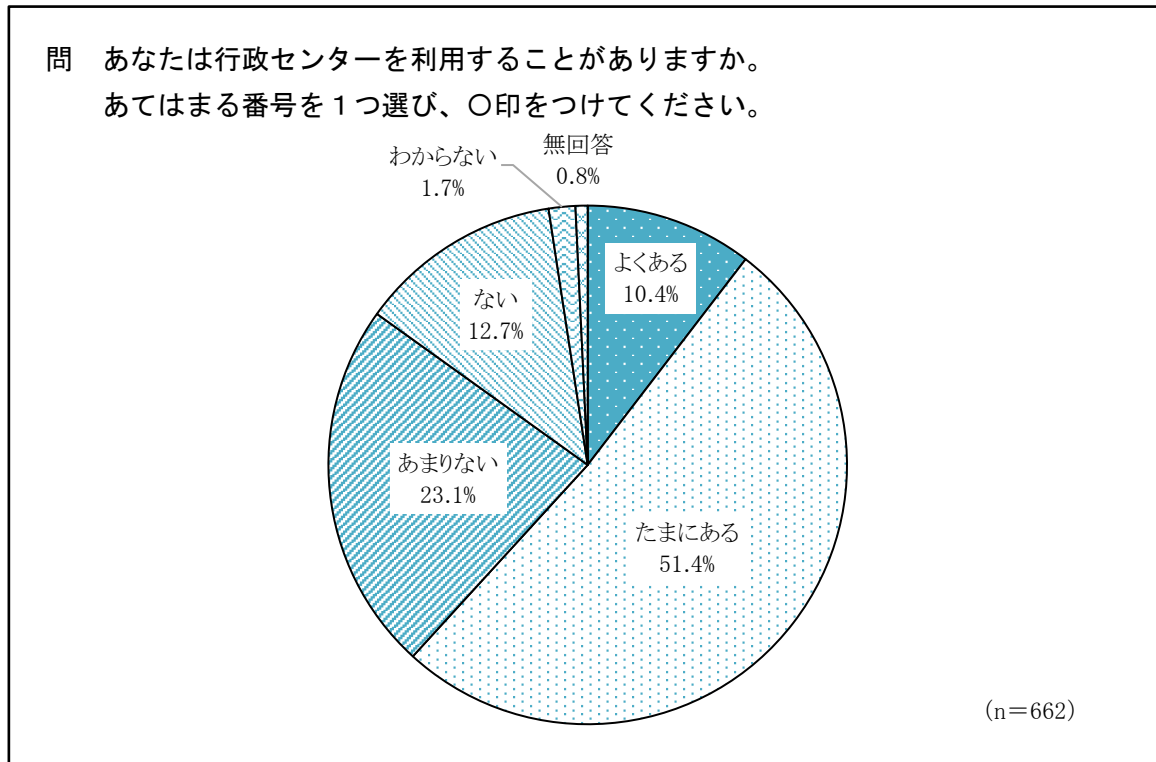
表3-13 これからの取組みについての重要度＜性別、年代別の上位5つ＞

	男 性	女 性
1位	子育て (38.6点)	子育て (41.4点)
2位	雇用・就労 (35.2点)	雇用・就労 (39.7点)
3位	高齢者福祉 (29.0点)	高齢者福祉 (39.4点)
4位	交通・道路 (28.0点)	交通・道路 (28.0点)
5位	地域産業 学校教育 (23.2点)	医療 (27.1点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	観光	子育て (48.6点)	子育て (60.8点)	雇用・就労	高齢者福祉 (39.3点)	高齢者福祉 (40.5点)	高齢者福祉 (48.1点)
2位	子育て (50.0点)	雇用・就労 (35.1点)	雇用・就労 (51.4点)	子育て (44.4点)	子育て (33.9点)	雇用・就労 (38.6点)	子育て (34.6点)
3位	学校教育 防災	交通・道路 (29.7点)	学校教育 (37.8点)	学校教育 (34.2点)	雇用・就労 (33.0点)	子育て (32.7点)	雇用・就労 (31.4点)
4位	(37.5点)	医療 (27.0点)	医療 (28.4点)	交通・道路 (29.1点)	交通・道路 (31.3点)	交通・道路 (30.7点)	交通・道路 (25.6点)
5位	高齢者福祉 雇用・就労 計画的な 都市づくり 行政経営 SDGs 男女共同参画 ユニバーサル デザイン (25.0点)	農林業 乳幼児教育・ 家庭教育 (24.3点)	地域産業 (25.7点)	防災 (26.5点)	計画的な 都市づくり (30.4点)	防犯・ 交通安全・ 消費者対策 (24.8点)	防犯・ 交通安全・ 消費者対策 (25.0点)

4. 行政センターの利用状況について

(1) 行政センターの利用頻度



————— 6割以上の市民が行政センターを利用しています —————

【全体結果】

行政センターを利用することが「よくある」または「たまにある」と回答した方は、61.8%となっています。

【属性別結果】(図 4-1 参照)

①地域別

「旧郡山東部」、「旧郡山西部」を除く、行政センターが設置されている地域に住む方が高い割合で「よくある」、「たまにある」と回答しています。

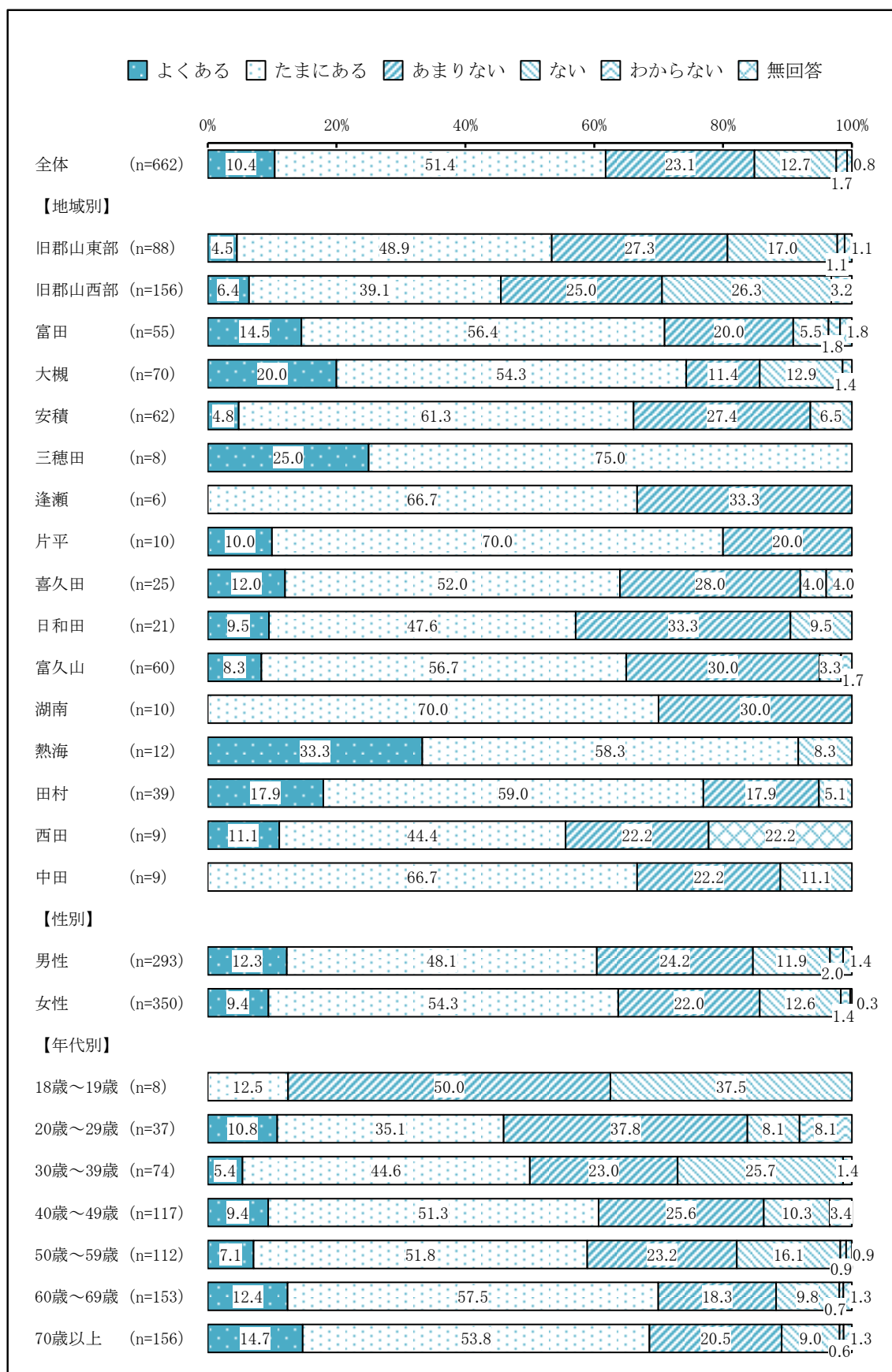
②性別

「よくある」または「たまにある」と回答した方は、女性（63.7%）の方が男性（60.4%）よりもやや高くなっています。

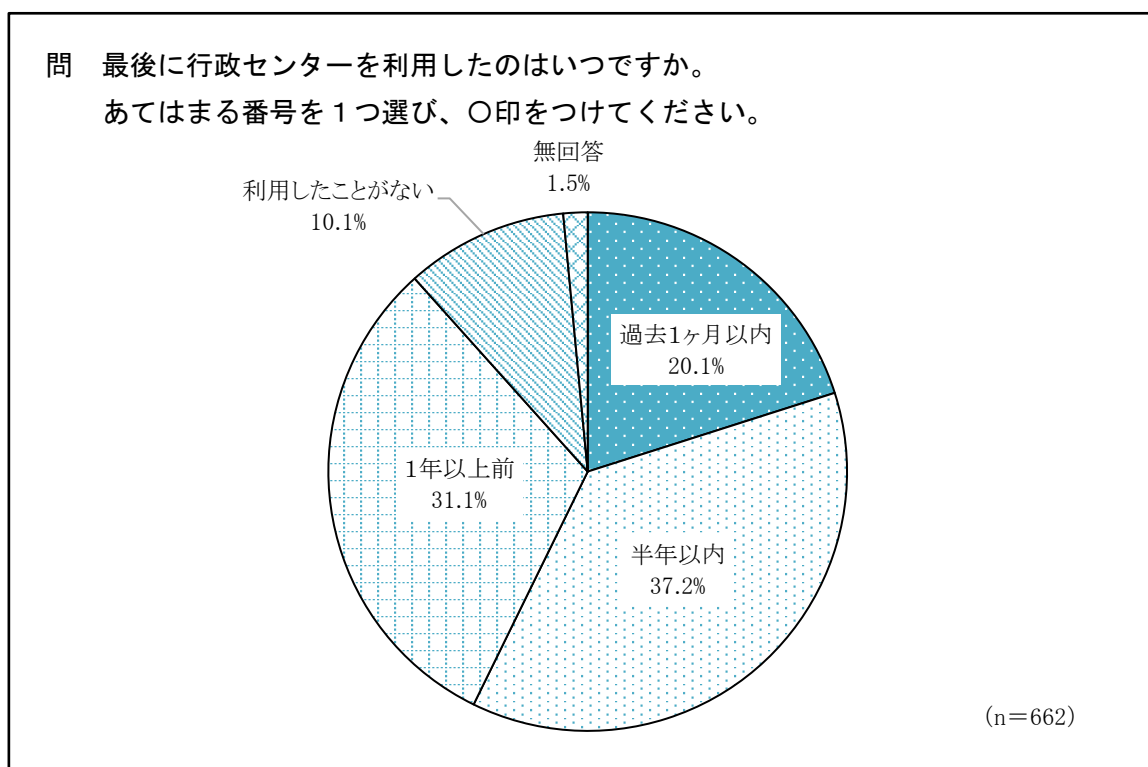
③年代別

高齢層ほど高い割合で「よくある」または「たまにある」と回答しています。特に60代以上で利用頻度が高くなっています。

図 4-1 行政センターの利用頻度（地域別／性別／年齢別）



(2) 直近の利用状況



————— 6割弱の市民が半年以内に利用しています —————

【全体結果】

最後に行政センターを利用したのは「過去1ヶ月以内」または「半年以内」と回答した方は、57.3%となっています。

【属性別結果】(図4-2参照)

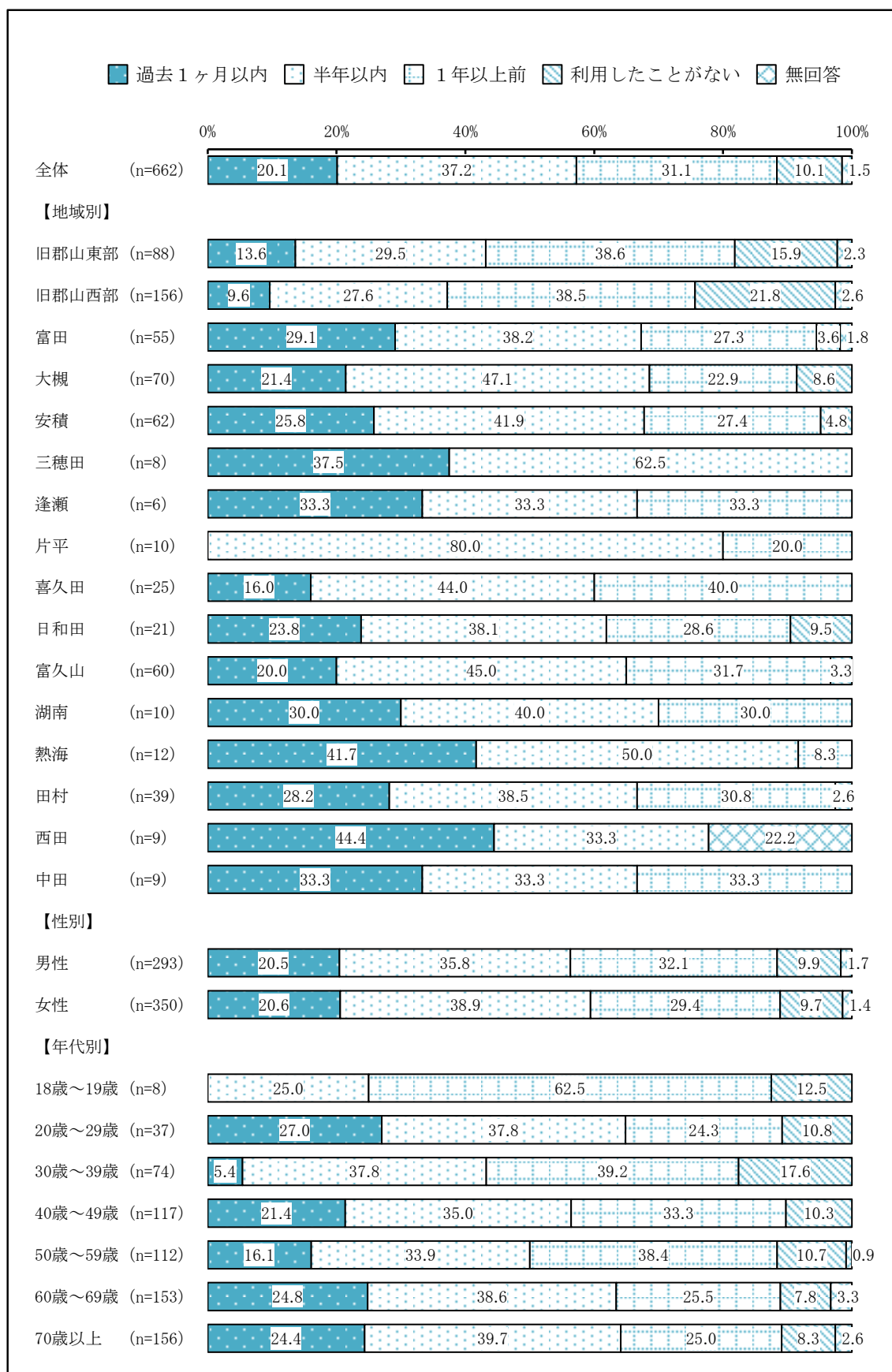
①性別

「過去1ヶ月以内」または「半年以内」と回答した方は、女性(59.5%)の方が男性(56.3%)よりもやや高くなっています。

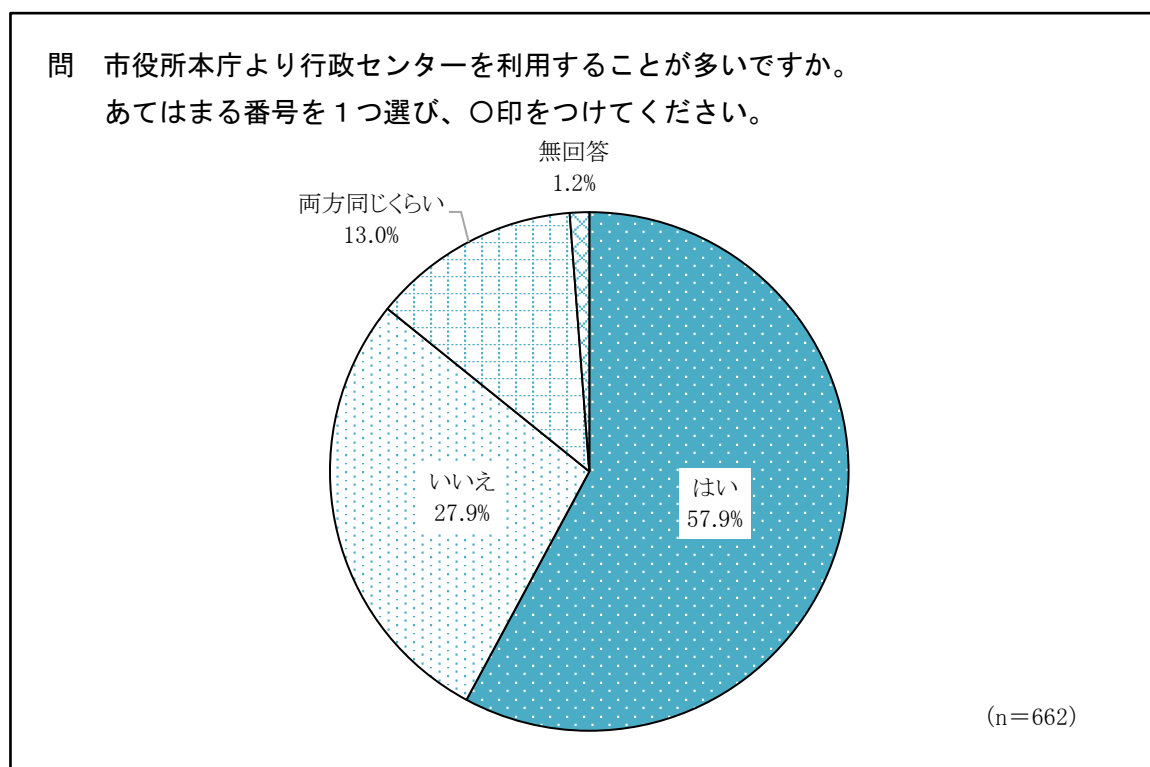
②年代別

他の年代と比べて30代では「過去1ヶ月以内」での利用が5.4%と少なくなっています。

図 4-2 直近の利用状況（地域別／性別／年齢別）



(3) 市役所本庁と行政センターの利用頻度の差



—— 6割弱の市民が行政センターを利用することが多い ——

【全体結果】

市役所本庁より行政センターを利用することが多いと回答した方は、57.9%となっています。

【属性別結果】(図 4-3 参照)

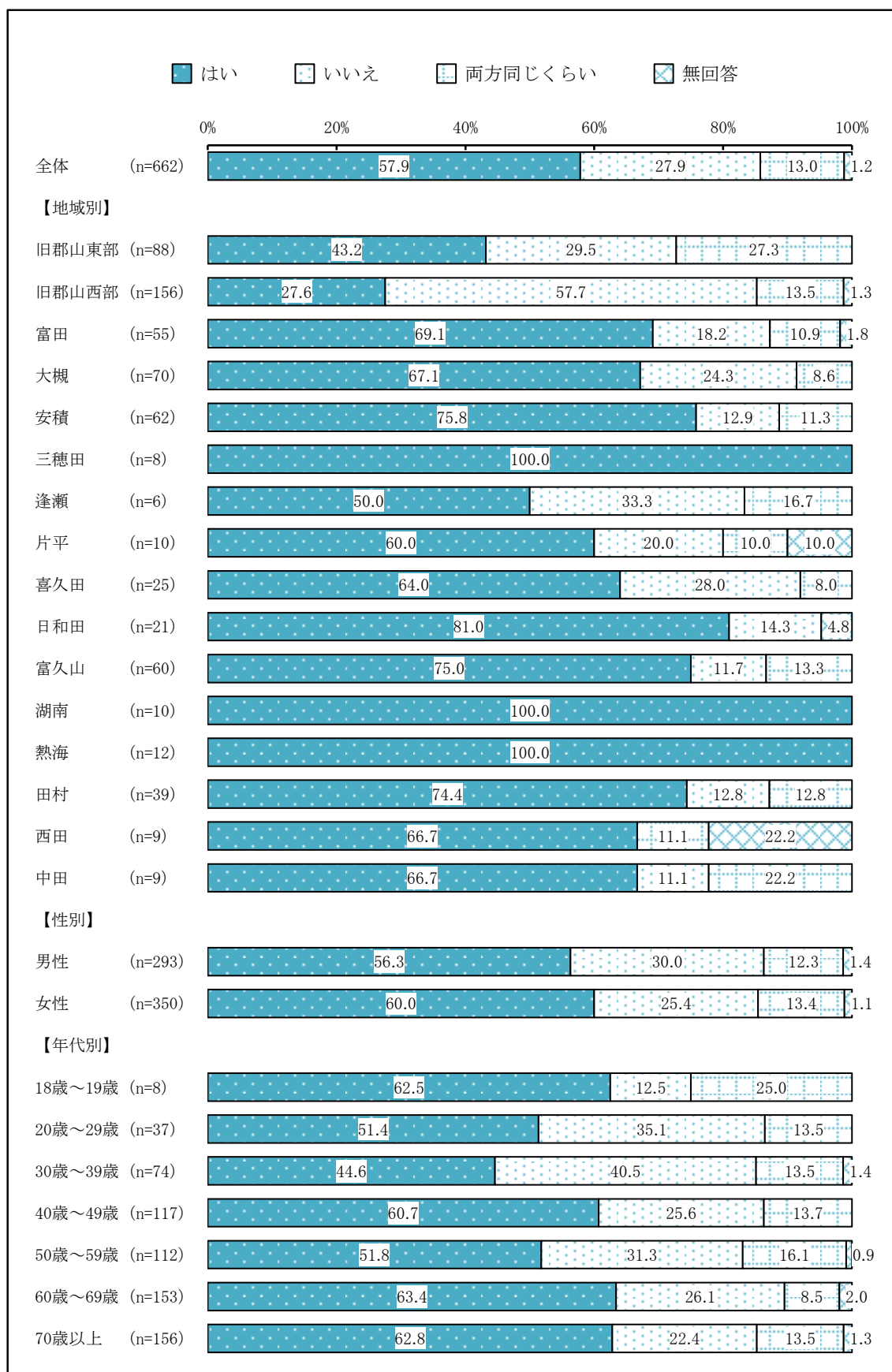
①性別

女性(60.0%)の方が男性(56.3%)よりも市役所本庁より行政センターを利用することが多くなっています。

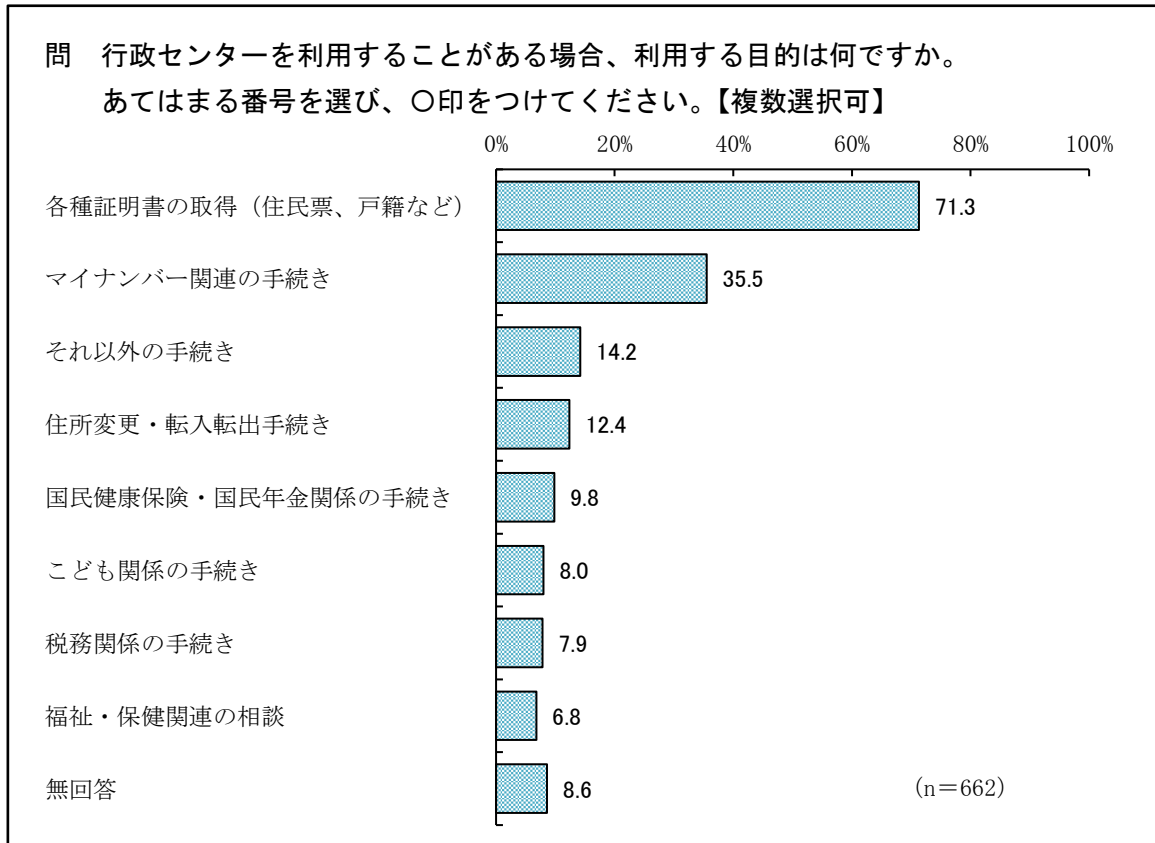
②年代別

市役所本庁より行政センターを利用することが多いと回答した方は、60代で最も多く、20代、30代、50代は他の年代より少なくなっています。

図４－３ 市役所本庁と行政センターの利用頻度の差（地域別／性別／年齢別）



(4) 行政センターを利用する目的



——— 7割以上の市民が「各種証明書の取得」のために利用 ———

【全体結果】

行政センターを利用する目的は、「各種証明書の取得（住民票、戸籍など）」（71.3%）の割合が最も高くなっており、次点の「マイナンバー関連の手続き」（35.5%）を大きく上回っています。

【属性別結果】（図 4-4 参照）

①性別

「マイナンバー関連の手続き」については、女性（39.1%）の方が男性（31.1%）よりも高くなっています。

②年代別

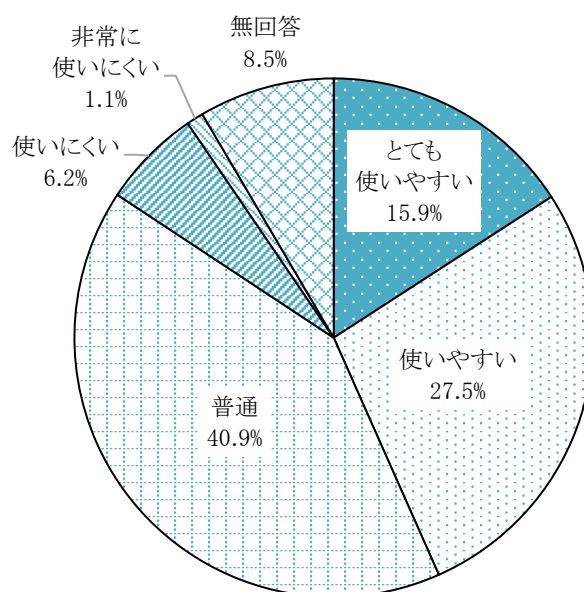
20代では他の年代と比べて「マイナンバー関連の手続き」を目的とした利用が多くなっています。「各種証明書の取得（住民票、戸籍など）」は40～60代で多くなっています。

図４－４ 行政センターを利用する目的（地域別／性別／年齢別）

割合（％）	各種証明書の取得 （住民票、戸籍など） (n=472)	マイナンバー 関連の 手続き (n=235)	住所変更・転入 転出手続き (n=82)	国民健康保険・国民年金 関係 の 手続き (n=65)	こども関係の 手続き (n=53)	税務関係の 手続き (n=52)	福祉・保健 関連の 相談 (n=45)	それ以外の 手続き (n=94)
全体 (n=662)	71.3	35.5	12.4	9.8	8.0	7.9	6.8	14.2
【地域別】								
旧郡山東部 (n=88)	70.5	22.7	21.6	10.2	9.1	6.8	4.5	17.0
旧郡山西部 (n=156)	59.0	21.8	7.1	7.7	5.1	6.4	3.8	12.8
富田 (n=55)	78.2	58.2	20.0	14.5	7.3	9.1	7.3	10.9
大槻 (n=70)	75.7	42.9	12.9	11.4	7.1	8.6	7.1	17.1
安積 (n=62)	77.4	40.3	11.3	6.5	14.5	3.2	11.3	11.3
三穂田 (n=8)	75.0	50.0	12.5	12.5	12.5	12.5	0.0	37.5
逢瀬 (n=6)	83.3	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7
片平 (n=10)	80.0	50.0	0.0	10.0	0.0	10.0	30.0	10.0
喜久田 (n=25)	76.0	36.0	4.0	12.0	12.0	8.0	4.0	16.0
日和田 (n=21)	76.2	38.1	23.8	9.5	4.8	9.5	0.0	4.8
富久山 (n=60)	75.0	40.0	18.3	10.0	20.0	6.7	8.3	10.0
湖南 (n=10)	90.0	50.0	0.0	10.0	0.0	10.0	0.0	10.0
熱海 (n=12)	75.0	41.7	8.3	25.0	16.7	33.3	16.7	33.3
田村 (n=39)	79.5	53.8	12.8	12.8	0.0	10.3	12.8	12.8
西田 (n=9)	77.8	11.1	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	22.2
中田 (n=9)	88.9	33.3	0.0	0.0	0.0	11.1	22.2	11.1
【性別】								
男性 (n=293)	69.6	31.1	10.2	10.9	5.8	7.5	4.8	16.4
女性 (n=350)	73.4	39.1	14.0	8.3	10.0	8.3	8.9	12.6
【年代別】								
18歳～19歳 (n=8)	50.0	62.5	37.5	12.5	0.0	12.5	12.5	0.0
20歳～29歳 (n=37)	56.8	51.4	27.0	13.5	5.4	10.8	2.7	8.1
30歳～39歳 (n=74)	66.2	31.1	20.3	5.4	21.6	4.1	2.7	8.1
40歳～49歳 (n=117)	75.2	40.2	16.2	6.8	21.4	7.7	6.8	15.4
50歳～59歳 (n=112)	77.7	26.8	12.5	4.5	7.1	7.1	8.0	19.6
60歳～69歳 (n=153)	73.2	32.7	5.9	11.8	0.0	7.8	8.5	12.4
70歳以上 (n=156)	67.9	37.8	7.1	14.7	1.3	9.6	7.1	16.7

（５）施設や駐車場の使いやすさ

問 行政センターを利用したことがある場合、施設や駐車場の使いやすさはいかがでしたか。あてはまる番号を１つ選び、○印をつけてください。



(n=662)

————— 4割強の市民が使いやすいと感じています —————

【全体結果】

行政センターを利用した際の施設や駐車場の使いやすさについて、「とても使いやすい」または「使いやすい」と回答した方は43.4%となっています。

【属性別結果】（図 4-5 参照）

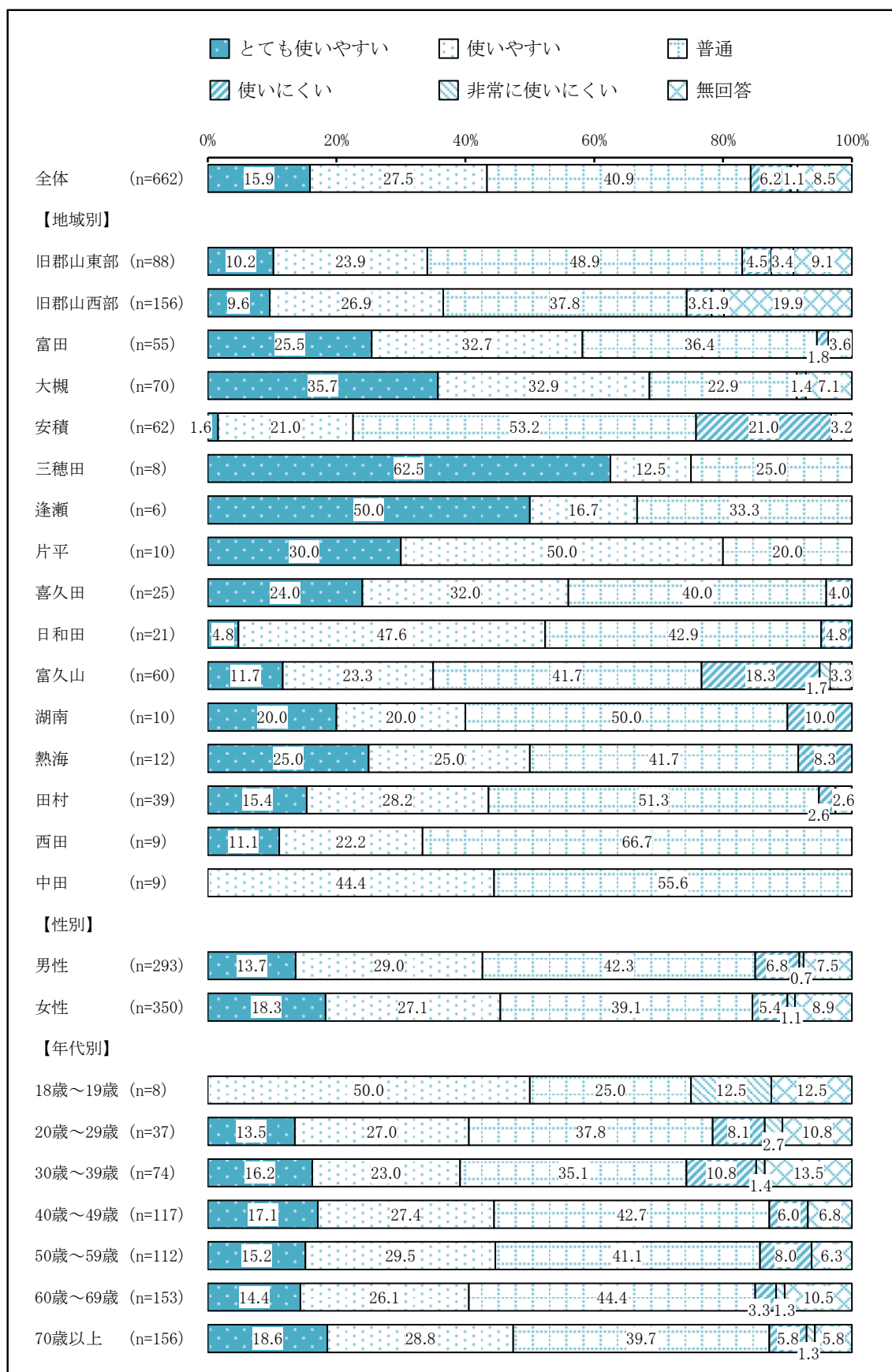
①性別

「とても使いやすい」または「使いやすい」と回答した方は、女性（45.4%）の方が男性（42.7%）よりもやや高くなっています。

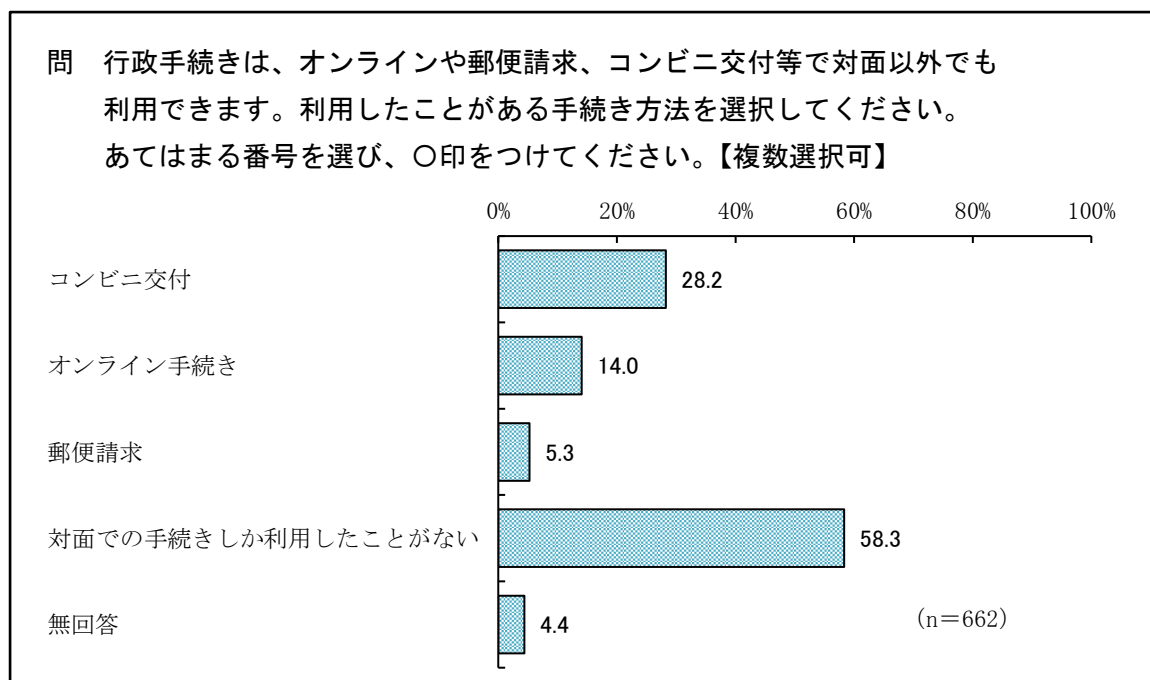
②年代別

他の年代と比べて20代、30代、60代で「とても使いやすい」または「使いやすい」と回答した方の割合がやや低くなっています。

図 4-5 施設や駐車場の使いやすさ（地域別／性別／年齢別）



(6) 利用したことがある対面以外の手続き方法



——— 約6割の市民が「対面での手続きしか利用したことがない」 ———

【全体結果】

利用したことがある対面以外の手続き方法について、「コンビニ交付」と回答した方が28.2%となっており、以下「オンライン手続き」(14.0%)、「郵便請求」(5.3%)の順で続いています。

一方、最も割合が高いのは「対面での手続きしか利用したことがない」(58.3%)で、約6割となっています。

【属性別結果】(図4-6参照)

①性別

性別による大きな差はみられません。

②年代別

若年層ほど「コンビニ交付」や「オンライン手続き」の割合が高く、高齢層ほど「対面での手続きしか利用したことがない」割合が高い傾向にあります。

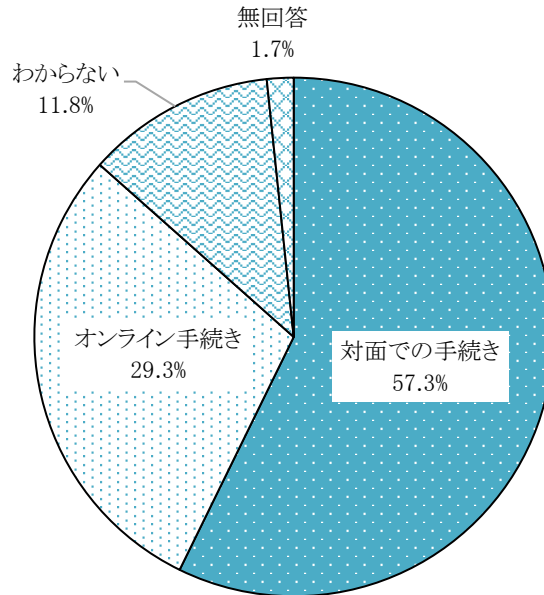
図４－６ 利用したことがある対面以外の手続き方法（地域別／性別／年齢別）

割合（％）	コンビニ 交付 (n=187)	オン ライ ン手 続 き (n=93)	郵 便 請 求 (n=35)	こ と が な い 対 面 で の 手 続 き し か 利 用 し た (n=386)
全体 (n=662)	28.2	14.0	5.3	58.3
【地域別】				
旧郡山東部 (n=88)	28.4	21.6	10.2	47.7
旧郡山西部 (n=156)	32.1	14.1	2.6	55.1
富田 (n=55)	23.6	21.8	1.8	61.8
大槻 (n=70)	30.0	10.0	4.3	57.1
安積 (n=62)	22.6	11.3	8.1	69.4
三穂田 (n=8)	25.0	0.0	0.0	75.0
逢瀬 (n=6)	0.0	0.0	0.0	100.0
片平 (n=10)	30.0	20.0	0.0	60.0
喜久田 (n=25)	28.0	4.0	0.0	72.0
日和田 (n=21)	28.6	9.5	4.8	66.7
富久山 (n=60)	38.3	23.3	5.0	45.0
湖南 (n=10)	30.0	0.0	10.0	60.0
熱海 (n=12)	16.7	0.0	16.7	58.3
田村 (n=39)	15.4	10.3	10.3	74.4
西田 (n=9)	22.2	11.1	11.1	55.6
中田 (n=9)	22.2	0.0	11.1	66.7
【性別】				
男性 (n=293)	27.0	16.4	5.5	60.1
女性 (n=350)	30.0	12.6	5.1	57.1
【年代別】				
18歳～19歳 (n=8)	50.0	12.5	0.0	37.5
20歳～29歳 (n=37)	37.8	29.7	2.7	43.2
30歳～39歳 (n=74)	31.1	21.6	9.5	50.0
40歳～49歳 (n=117)	40.2	21.4	6.8	49.6
50歳～59歳 (n=112)	35.7	15.2	4.5	55.4
60歳～69歳 (n=153)	20.3	7.8	5.9	65.4
70歳以上 (n=156)	16.0	6.4	3.2	70.5

（７）利用したい手続き方法

問 今後、行政手続きをする際、市役所本庁や行政センター等での対面での手続きとオンライン手続きのどちらを利用したいですか。

あてはまる番号を１つ選び、○印をつけてください。



——— 6割弱の市民が「対面での手続き」を希望しています ———

【全体結果】

対面での手続きとオンライン手続きのどちらを利用したいかについて、「対面での手続き」と回答した方が57.3%となっており、「オンライン手続き」（29.3%）を大きく上回っています。

【属性別結果】（図 4-7 参照）

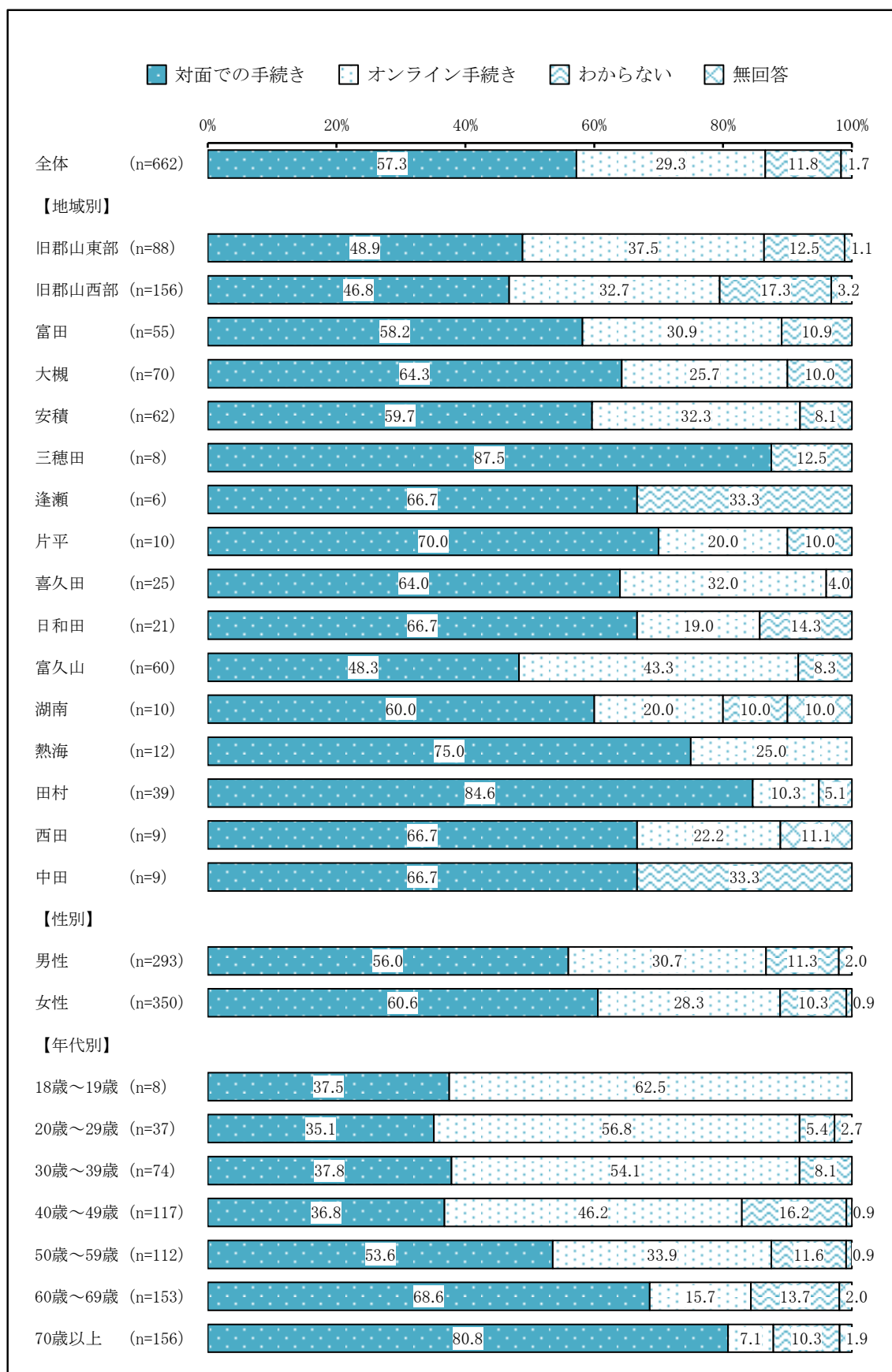
①性別

「対面での手続き」の割合は、女性（60.6%）の方が男性（56.0%）よりも高くなっています。

②年代別

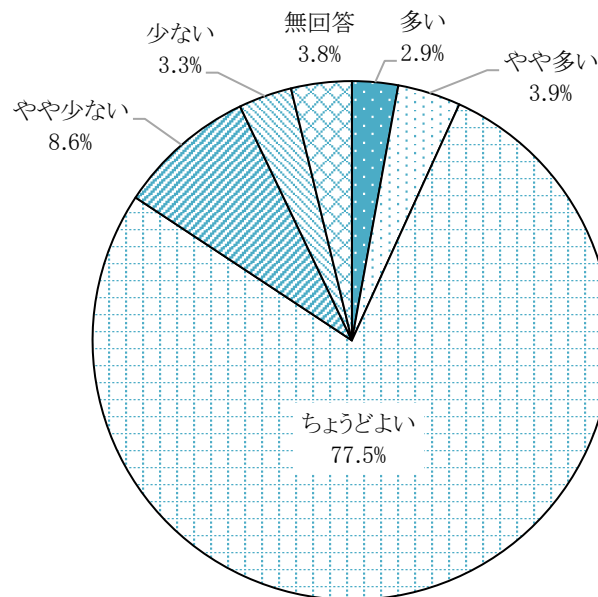
「対面での手続き」の割合は、70歳以上（80.8%）で最も高く、高齢層ほど高い傾向にあります。

図 4-7 利用したい手続き方法（地域別／性別／年齢別）



(8) 行政センターと連絡所の設置数

問 市内に 14 ヶ所の行政センターと 4 ヶ所の連絡所が設置されていますが、設置数はどのように感じますか。あてはまる番号を 1 つ選び、○印をつけてください。



(n=662)

————— 8 割弱の市民が「ちょうどよい」と感じています —————

【全体結果】

行政センターと連絡所の設置数について、「ちょうどよい」と回答した方が 77.5%となっています。

【属性別結果】(図 4-8 参照)

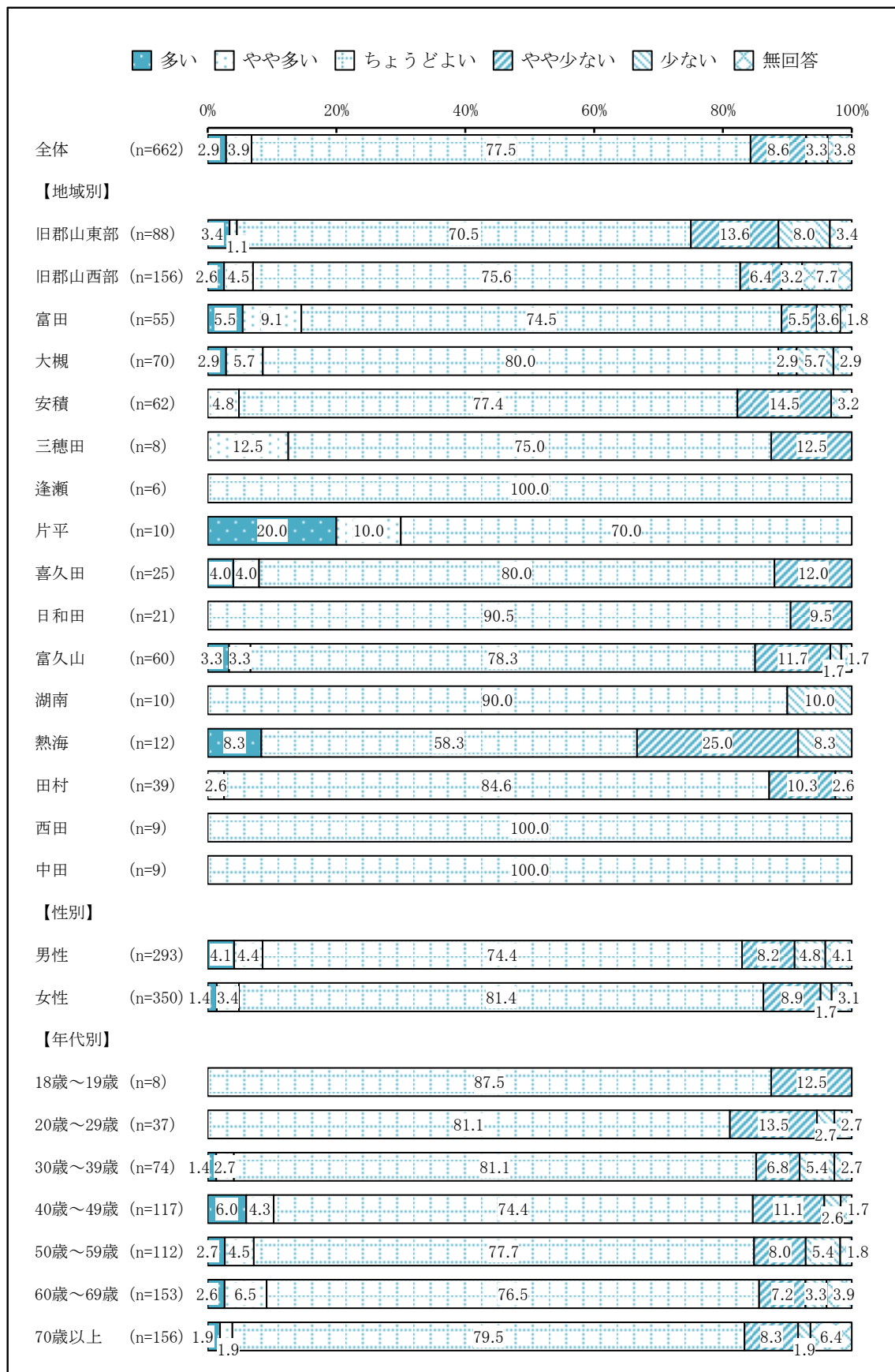
①性別

「ちょうどよい」の割合は、女性 (81.4%) の方が男性 (74.4%) よりも高くなっています。

②年代別

すべて年齢層で「ちょうどよい」と回答した方が 7 割以上と最も多くなっていますが、「やや少ない」または「少ない」と回答した方も一定数存在しています。

図 4-8 行政センターと連絡所の設置数（地域別／性別／年齢別）



(9) 行政センターについての意見等

問 行政センターについて、その他ご意見がありましたら自由に記入してください。
(自由記載)

行政センターについてたくさんのご意見が寄せられました。主な意見は以下のとおりとなります。

【場所について】

- ・ 行政センターでできる一部の手続きを、ショッピングセンター内や各郵便局でも取り扱えるようにすればどうか。今はオンラインやコンビニでも行政手続きができるようになっている。いずれにせよ、公費の削減につながる取り組みが進めばいい。(男性・20代)
- ・ 身近にあって利用しやすい。(女性・30代)
- ・ 過疎地や高齢者が多い地域には行政センターは必須だと思う。逆に中心部は不要だと思う。(男性・40代)
- ・ 人口にあわせて行政センターを増やしてほしい。東部地区、高瀬があるのに、緑が丘がないのが不思議です。(男性・60代)

【開所時間について】

- ・ 営業時間の延長希望(17:15はきびしい…。)(女性・40代)
- ・ 土日も開所してほしいです。(女性・40代)
- ・ 土日の利用を月に2回程度可能としてほしい。(男性・50代)

【職員の対応について】

- ・ 職員の方の対応の差が大きい。(男性・40代)
- ・ いつも対面でとても丁寧に接してくださるので、対面で続けてほしいです。(女性・50代)
- ・ 本庁より待ち時間が少なく良いと思う。親切な対応がありがたい。年配者にはゆっくりと話しかけてくれて、親しみを感じる。(女性・70代以上)
- ・ 職員は丁寧に対応していると思う。(男性・70代以上)

【その他】

- ・ 現在のまま、行政センターが利用できるよう維持してほしい。人口減少で縮小の方向ではあると思うが、市役所本所まで行くには時間がかかる。(男性・40代)
- ・ 高齢の方々の交通の便を良くしたらいいのでは。手続きの困難な方がいるため。(男性・50代)

5. 市への意見や要望など

問 市に対するご意見等がありましたら、ご自由にお書きください。
(自由記載)

現在、郡山市が進めているまちづくり（取組み）についてたくさんのご意見が寄せられました。その中から、主な意見を分野ごとに抜粋し、掲載しました。

寄せられましたご意見につきましては、ここに掲載していないものも含め、今後の市政運営に活用させていただきます。

【分野Ⅰ】産業・仕事の未来（商業・工業・雇用・農林業分野）

【商業・工業】

- ・ 市内の企業に魅力を感じられない。市内の企業の魅力を知る場を増やしてほしい。市内の企業に魅力を感じられないから、若者が市外へ流出する一つの要因になっているのではないか。（男性・20代）
- ・ 他の大規模都市のような形になってほしい。例えば有名ブランドの誘致や大手メーカーがある大きな工業団地等。（男性・40代）

【雇用】

- ・ 就労先の選択肢が少ないので若い人が地元で就職したくても、希望職種が見つからない。公務員を希望する人しか地元に残らない。市内に誘致されている大企業で本社採用は難しい。（女性・50代）
- ・ 高齢者でも働ける環境があればよい（シルバー人材センター以外で、高齢者の能力に合った仕事、職場があればよい）。（女性・70代以上）

【農林業】

- ・ 農業の重要性。福島、郡山は工業の力もあるので、農×工で他に比して伸びて、豊かな町にもっとなれる。（女性・30代）
- ・ 農業に関して出来れば日本の若い方（補助金が出るや35歳以下が新たに農業を始める場合、土地を安く購入出来るなど）がもっと参入しやすい環境づくりが欲しいです。（男性・30代）

【分野Ⅱ】交流・観光の未来（交流・文化・観光・シティプロモーション分野）

【交流】

- ・ 職場でも海外の従業員は見かけるが、特に交流まではしていないと思う。（女性・20代）
- ・ 交流について、地域の活力を高め、地盤を固めることを優先とすべき。（男性・40代）

【文化】

- ・ 音楽都市と言う割に子どもが気軽に音楽に触れる機会が無い、または保護者が知り得る機会が見えてこない。(男性・40代)
- ・ 音楽の溢れる都市にもっとなって欲しい。(女性・50代)

【観光】

- ・ 郡山市に観光する場所がありますか？会津やいわきの方に連れていくことが多い。おすすめ聞かれても答えられない。(男性・30代)

【シティプロモーション】

- ・ 「郡山の観光といえばどこ」というところがパッと思い浮かばず、友人に聞かれた時に困った経験がよくあります(代わりに、「住みやすいところだよ」と言うようにしています)。郡山の魅力的なスポットの紹介に特化したパンフレットや公式サイトなどがあれば助かるなと思います。(女性・20代)

【分野Ⅲ】学び育む子どもたちの未来（子育て・教育・地域学習分野）

【子育て】

- ・ 子供を育てる世代も金銭的に大変なのにサポートがほとんどない。(女性・30代)
- ・ 子育ては単に費用だけの問題ではなく、病児保育など時間外保育も重要。(男性・70代以上)

【教育】

- ・ 良きものは残し、子供たちの学びの幅を広げられる教育環境が必要。教職員の働き方改革は理解できるが、それ以上に子供たちがのびのび学校生活が過ごせる、地域と協力できる学校の仕組みであってほしい。(男性・40代)
- ・ 学校教育について、子供達より先生方の質を高めてほしい。(男性・40代)

【地域学習】

- ・ 未来の郡山を担う子供たちの愛郷心を高めるため、郡山市の歴史について公立小学校で特別授業を行った方がいいと思う。(男性・30代)

【分野Ⅳ】誰もが地域で輝く未来（市民協働・生涯学習・保健福祉・男女共同参画分野）

【市民協働】

- ・ 最近地域に誰が住んでいるかとか、名前まで知らない人が多い。いかに同じ地域に住んでいても、関わり合いがないかということ。地域のお祭りなども消えていつている。(女性・60代)
- ・ 町内会の活動は大切なのはわかるが、高齢化が進み、組長等ができない家庭が多い。すると、若い家庭への負担が増え、仕事も忙しく退会する方も増えている。今後の町内会の在り方を考えていかないといけないと強く感じる。(女性・50代)

【生涯学習】

- ・ サッカー場も無い、武道館もない、音楽堂もない、すべて他の市に比べ劣っており、いちいち足を運ばなくては行けない（大きな運動場など）。(男性・20代)
- ・ 市立美術館、文学の森資料館、歴史情報博物館の3館共通で使える年間パスポートや割引制度のようなものがあると利用率が増えるのではないかと思います。(女性・40代)

【保健福祉】

- ・ 高齢者福祉に対して、障害者福祉の整備が不足しているように感じる。(女性・60代)

【男女共同参画】

- ・ 男女共同参画は地域にある中小企業や団体などの経営者の意識変革がないとムリなのでは？と思います。数値目標を設定して「お飾りの女性管理職」が多発しても無意味。経営者が男性女性関係なく「その人を適正に評価できる目」を持たないと「お題目」で終わるのでは？と思います。(女性・50代)

【分野Ⅴ】暮らしやすいまちの未来（環境・防災・市民安全・生活インフラ分野）

【環境】

- ・ 指定のごみ袋が無いのはいい点だと思う。一方でかなり大雑把に分別して捨てているため、環境に配慮しているのかが分からない。市内の道路は混雑する場所が多く整備されているとは言い難い。(男性・20代)
- ・ 山間部の太陽光パネルは、どこかの企業が行っているか分からないが反対です。景観も良くないし、使用済みになったら再利用されるか不明。水害で土砂災害になりそうだし、メリットよりデメリットの方が多いと思う。(女性・40代)

【防災】

- ・ 人口に対し避難所施設が不足していると思う。(男性・60代)

【市民安全】

- ・ 交通ルールを守ってない人が多い。自転車の取り締まりを強化した方がいい。(女性・30代)
- ・ 街灯が少ないので、夜歩行者に気付かないことがある。道路のデコボコを整備してほしい。(男性・40代)

【生活インフラ】

- ・ 生活インフラはとても不便です。車がないと何も出来ない為、休日の過ごし方が限られます。また、郡山広域圏の玄関口という言葉が中心街のことしか考えてないと感じてます。もっと市全体を活性化させて欲しいです。(男性・20代)
- ・ 道路工事が何年も進んでいないところが多く、早く開通してほしい。(男性・40代)

**【分野Ⅵ】基盤的取組（行政経営・セーフコミュニティ・連携中枢都市圏・SDGs・DX
推進・復興、創生の更なる推進）**

【行政経営】

- ・ どのようなことを行っているか、情報収集していないので分からない。市民が注目するような取り組みをしてほしい。やっているなら大々的な発信をしてもらわないと困る。（男性・40代）
- ・ いろいろと実践、推進していると思うが、実感していない。（男性・60代）

【セーフコミュニティ】

- ・ 何事も予算だと思うのですが、車いすの方や目の見えない方など、障害のある方々が安心して外に出かけられるような工夫、思いやりがいっぱいの街にしたいですね。（女性・60代）
- ・ 郡山駅周辺の治安向上を望む。（女性・70代以上）

【DX推進】

- ・ スマホアプリを用いた行政への申請（介護や支援認定手続き）を利用したことがあります。しかし、システムの連携がうまく機能していないようで、オンライン申請自体されていませんでした。IT技術を用いた行政サービスの拡充はたいへん重要ですが、しっかりとシステムの運営をしていただきたいと感じました。（男性・40代）
- ・ 行政手続きのオンライン化、キャッシュレス化は進んでいると思います。ただ市民がこれについていけないのではないかと危惧します。特に高齢者。なのでオンラインで手続きをする方法を知らせる勉強会など、必要と思います。（男性・70代以上）

【復興、創生の更なる推進】

- ・ 風評の払しょく、難しい問題だと思います。「風評の払しょく」と言えば言うほど、風評被害のもととなることが掘り起こされることになるように感じる部分もあります。何も考えずに「住みたい!」とか「食べてみたい!」と思えるような、広報活動のようなことが重要だと思います。（男性・30代）
- ・ 復興創生をいつまで続けるのか。復興事業と言い続けるためのエビデンスが不透明。ルーティンで財源があるから事業を行うのではなく、真に必要とされているのか検討いただきたい。その上で、復興事業を一般事業に移行することや廃止することも世論が許容する時期にあると思う。（男性・40代）

(付) 調 査 票 様 式

あなたの意見をお聞かせください ～2025年度郡山市民意見レーダー～

回答方法①

①本調査票を記入する



②同封の返信用封筒
(切手不要)に入れる



③ポストに投函する



令和7年6月13日(金)までにポストに投函してください

回答方法②

スマートフォン や タブレット または パソコン により回答いただけます

◆ 下記の二次元コードを
読み取ってください



または

郡山市 市民意見レーダー

検索

◆ 「郡山市 市民意見レーダー」で検索

➡ 「市民意見調査(市民意見レーダー) - 郡山市公式ホームページ」をクリック

➡ 「2025年度郡山市民意見レーダー 回答フォーム」からご回答ください

回答については、重複を避けるため

「回答方法①」「回答方法②」の いずれか1つの方法 でお答えください。

◆◆◆ 回答に当たってのお願い ◆◆◆

調査票は、原則として「あて名のご本人様」が記入してください。やむを得ず、ご本人様以外の方が記入される場合は、必ずご本人様の意思をご確認の上、記入してください。

◆ ご不明な点がありましたら、下記までお問い合わせください。

郡山市政策開発部広聴広報課(市役所本庁舎2階)

電話 024-924-2061 メール kocho@city.koriyama.lg.jp

アンケートの内容は、以下の項目により構成しています。

1 幸福度の現状について	2頁
2 郡山市の住みやすさについて	2～3頁
3 郡山市のまちづくりについて	3～7頁
4 郡山市のこれからの取組について	8頁
5 行政センターの利用状況について	9～10頁
6 あなたご自身について	11～12頁

1 幸福度の現状について

あなたが普段感じている気持ちについてお伺いします。

- (1) あなたは普段どの程度幸福だと感じていますか？
あてはまる番号を1つ選び、○印をつけてください。

- | | |
|-----------------------------------|--------------------|
| 1. 幸福を感じる（とても幸せ） | 4. どちらかという和幸福を感じない |
| 2. どちらかという和幸福を感じる
（どちらかという和幸福） | （どちらかという和幸福） |
| 3. どちらでもない（普通） | 5. 幸福を感じない（不幸せ） |

- (2) あなたが幸福かどうか判断する際に重視した事項は何ですか？
1～17のうちあてはまるものの番号を3つまで選び、○印をつけてください。

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1. 健康状況 | 10. 治安・防災関係 |
| 2. 家族関係 | 11. 子育て環境 |
| 3. 居住環境 | 12. 就業状況 |
| 4. 自由な時間、充実した余暇 | 13. 地域コミュニティとの関係 |
| 5. 家計の状況 | 14. 教育環境 |
| 6. 友人関係 | 15. 社会貢献 |
| 7. 自然環境 | 16. 地域の歴史・文化 |
| 8. 仕事のやりがい | 17. その他 |
| 9. 職場の人間関係 | |

【「その他」を選択した方は重視している項目を別紙お書きください。】

- (3) あなたはウェルビーイング※について知っていますか？
あてはまる番号を1つ選び、○印をつけてください。

- | | | |
|----------|---------------------|---------|
| 1. 知っている | 2. 聞いたことはあるがよくわからない | 3. 知らない |
|----------|---------------------|---------|

※ウェルビーイングとは？ … 身体的、精神的、社会的に良好な状態にあること。

2 郡山市の住みやすさについて

まちの住み心地や郡山市への愛着等について、どのように感じているか、あてはまる番号を1つ選び、○印をつけてください。

- (1) あなたにとって、郡山市は住みやすいまちですか？

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 住みやすい | 4. どちらかといえば住みにくい |
| 2. どちらかといえば住みやすい | 5. 住みにくい |
| 3. どちらともいえない | |

【「どちらかといえば住みにくい」または「住みにくい」とお感じになる理由をご自由にお書きください。】

(2) あなたは、今後も郡山市に住みたいと思いますか？

1. 現在の住所にずっと住み続けたい	4. いずれは市外に住みたい
2. 市内の別の地域に住みたい	5. 住みたくない
3. どちらともいえない	

↓

【「いずれは市外に住みたい」または「住みたくない」とお考えになる理由を、ご自由にお書きください。】

3 郡山市のまちづくりについて

現在、本市が進めているまちづくり（取り組み）について、どのように感じているか、それぞれにあてはまる番号を1つ選び、○印をつけてください。

【1. 産業・仕事の未来】 （商業・工業・雇用・農林業分野）	よい	どちらかといえばよい	どちらかといえば不満	不満	わからない
1. 地域産業 地域の中小企業の事業承継※1やM&A※2をはじめ、産業の新陳代謝や持続的発展など活性化が図られているか ※1 会社等の経営を後継者に引き継ぐこと ※2 合併・買収	5	4	3	2	1
2. 創業・起業支援 創業・起業がしやすい環境が整っているか	5	4	3	2	1
3. 産業創出・企業誘致 研究開発機関や大学等との連携により、再生可能エネルギー※3や医療機器関連産業など本市の強みを活かし、新しい分野の産業や企業の育成、誘致・集積等、産業の振興が図られているか ※3 石油・石炭などの限りがある化石燃料に対し、太陽光や太陽熱、水力、風力、バイオマス、地熱など一度利用しても比較的短期間に再生するエネルギーのこと	5	4	3	2	1
4. 雇用・就労 市内企業の安定的な雇用があり、多様な働き方ができる労働環境が整っているか	5	4	3	2	1
5. 農林業 農林業の生産性向上、担い手の確保等により活性化が図られているか	5	4	3	2	1
6. 特産品ブランド化 食や農を生かした特産品がブランド化され、注目されているか	5	4	3	2	1
7. 輸出・販路拡大 農商工（福）が連携し、地域の商品、サービス、農産物等の販路拡大、輸出促進が図られているか	5	4	3	2	1
【1. 産業・仕事の未来】について、ご意見やご提案がありましたら、ご自由にお書きください。					

【Ⅱ. 交流・観光の未来】 (交流・文化・観光・シティプロモーション分野)	よい	いさよはよい	いさよはよい	不満	わからない
8. 都市間交流・国際交流 様々な地域や国の人々との交流・活動を通じ、友好や相互理解を深める等、国内外に開かれたまちとなっているか	5	4	3	2	1
9. 歴史・文化遺産 日本遺産など豊かな歴史に根ざした地域資源が適切に保存されるとともに観光資源やまちづくりに活かされているか。また、歴史・文化に触れる機会や学ぶ環境が整っているか	5	4	3	2	1
10. 音楽のまちづくり 音楽に触れる機会や環境が整い、音楽がまちづくりに活かされているか	5	4	3	2	1
11. 観光 観光誘客や観光資源の活用及びコンベンション※1の誘致により国内、インバウンド※2の観光客等が増加しているか ※1 企業の展示会や学会等の学術会議、国内外の研究者が集う国際会議等 ※2 入ってくるものという意味から転じて、外国（区域外）から訪れる旅行を指す 対義語：アウトバウンド	5	4	3	2	1
12. シティプロモーション※3・関係人口※4 本市の魅力が広く内外に発信され、知名度が向上し、関係人口の拡大や移住・定住の促進が図られているか ※3 地域のイメージを高め、知名度の向上や地域への愛着を醸成する手法 ※4 移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる者	5	4	3	2	1
【Ⅱ. 交流・観光の未来】について、ご意見やご提案がありましたら、ご自由にお書きください。					

【Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来】 (子育て・教育・地域学習分野)	よい	いさよはよい	いさよはよい	不満	わからない
13. 子育て 安心して生み育てられる環境が整っているか	5	4	3	2	1
14. 乳幼児教育・家庭教育 家庭、地域、企業そして子育て・教育機関が連携して、子育てや教育を学びあう環境が整っているか	5	4	3	2	1
15. 青少年健全育成 子どもたちの安全な居場所や地域での見守りなど、健全に育つ環境が整っているか	5	4	3	2	1
16. 学校教育 子どもたちの「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の資質・能力を育成するために、どの子も思う存分学ぶ教育環境の整備・充実が図られているか	5	4	3	2	1
17. 地域学習 子どもたちの地域への愛着を育む、地域活動への参加機会や地域の産業、生活、文化、歴史などを学ぶ環境が充実しているか	5	4	3	2	1
【Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来】について、ご意見やご提案がありましたら、ご自由にお書きください。					

【IV. 誰もが地域で輝く未来】 (市民協働・生涯学習・保健福祉・男女共同参画分野)	よ い	い さ は よ い	い さ は な か り	不 満	わ か ら な い
18. 市民協働※1 市民誰もが、知識や経験、個性を生かし、様々な社会参加ができる機会や場があるか ※1 市民・市民活動団体・企業・行政等が、お互いの長所を生かし役割を分担した上で対等の立場で協力し合うこと	5	4	3	2	1
19. 地域コミュニティ 町内会活動など地域コミュニティの活性化が図られているか	5	4	3	2	1
20. 広聴広報 広報こおりやまなどによる市政に関する情報の発信や、市民から意見・提案ができる環境など、市政への市民参画が図られているか	5	4	3	2	1
21. スポーツ・文化・芸術 多様なスポーツ、文化・芸術に触れる機会や活動する場などの環境が整っているか	5	4	3	2	1
22. 生涯学習 生涯を通じて、好きなこと、得意なことを学習でき、それらを地域社会で生かせる機会や場などの環境が整っているか	5	4	3	2	1
23. 地域福祉 地域や隣近所で互いに支えあい、助け合う体制が整っているか	5	4	3	2	1
24. 高齢者福祉 介護予防対策や介護サービスの充実、質の確保・向上など高齢者が住み慣れた地域で、安心して暮らせる環境が整っているか	5	4	3	2	1
25. 障がい者福祉 障がい者差別の解消や就労等社会参加の促進など障がい者の生活を支える環境が整っているか	5	4	3	2	1
26. 健康づくり 生活習慣病予防対策、健診体制や健康相談等、健康に暮らすための支援体制が充実しているか	5	4	3	2	1
27. 医療 必要なときに安心かつ適切な医療を受けられる体制が充実しているか	5	4	3	2	1
28. 男女共同参画 家庭や地域、職場において、男女が共に個性と能力を発揮できているか	5	4	3	2	1
29. 多文化共生 在住外国人への生活情報の提供や相談体制等、在住外国人が地域に溶け込む環境が整っているか	5	4	3	2	1
【IV. 誰もが地域で輝く未来】について、ご意見やご提案がありましたら、ご自由にお書きください。					

【V.暮らしやすいまちの未来】 (環境・防災・市民安全・生活インフラ分野)	よ い	い や い な い	い や い な い	い や い な い	不 満	わ ら な い
30. 環境活動 温室効果ガス排出量の削減に向けた普及啓発等、環境負荷が少ないまちづくりへの取り組みが進んでいるか	5	4	3	2	1	
31. 5 R※1(資源の有効利用) ごみ減量、リサイクルの推進等、ごみの発生を抑え、資源を有効に循環させる取り組みが進んでいるか ※1 「Reduce (発生抑制)」「Reuse (再使用)」「Recycle (再生利用)」「Refuse (断る)」「Repair (修理)」の頭文字をとった言葉	5	4	3	2	1	
32. エネルギー 省エネルギーの推進や環境にやさしい再生可能エネルギー※2の普及に向けた取り組みが進んでいるか ※2 石油・石炭などの限りがある化石燃料に対し、太陽光や太陽熱、水力、風力、バイオマス、地熱など一度利用しても比較的短期間に再生するエネルギー源のこと	5	4	3	2	1	
33. 自然環境 豊かな自然が適正に保全され、それらと身近にふれあえる環境が整っているか	5	4	3	2	1	
34. 防災 ライフラインの確保や情報の共有化、消防、救急体制の整備、自然災害対策等、防災に対する備えができているか	5	4	3	2	1	
35. 防犯・交通安全・消費者対策 犯罪の未然防止、通学路や生活道路等の交通安全対策、消費者対策により、安心して生活することができているか	5	4	3	2	1	
36. ユニバーサルデザイン※3 障がいの有無や年齢等に関わらず、誰もが快適に暮らすことができる取り組みが進んでいるか ※3 障がいの有無や年齢、言語、性別などの違いに関わらず、はじめからできるだけ多くの人使いやすい製品や建物、都市環境、サービス等の提供を目指そうという考え方のこと	5	4	3	2	1	
37. 交通・道路 生活に必要な拠点や施設へのアクセスが容易であるなど、利便性の高い交通体系が整っているか	5	4	3	2	1	
38. 計画的な都市づくり 「こおりやま広域圏」の玄関口として、中心市街地の活性化や地域特性を活かした魅力的なまちとなっているか	5	4	3	2	1	
39. 住環境 公園や生活道路、上下水道等が整備されているとともに、景観への配慮等、住環境が整っているか	5	4	3	2	1	
【V.暮らしやすいまちの未来】について、ご意見やご提案がありましたら、ご自由にお書きください。						

【基盤的取組】 (行政経営・セーフコミュニティ・連携中枢都市圏・SDGs・DX推進・復興、創生の更なる推進)	よい	よい ではないが 改善の余地 あり	どちら か	不 満	わ か ら な い
40. 行政経営 ICT※1の積極的な活用、官民連携による様々な手法やノウハウの柔軟な導入など先進的で効率的な行政経営の改善が図られているか ※1 情報通信技術	5	4	3	2	1
41. セーフコミュニティ※2 安全・安心なまちづくりのため、地域全体でセーフコミュニティ活動を推進しているか ※2 WHO（世界保健機関）が推奨する国際認証制度で「けがや事故」をデータから客観的に分析し、地域住民や団体、行政等による連携・協働により「けがや事故」の予防に取り組んでいる地域のこと	5	4	3	2	1
42. 連携中枢都市圏構想※3 「連携中枢都市圏」の推進により、圏域全体の経済活性化や広域的な課題解決が図られているか ※3 一定要件を満たす連携中枢都市と近隣市町村との連携協約により圏域の活性化を図る構想	5	4	3	2	1
43. SDGs※4 2015年に国連で採択された、2016年から2030年までの国際的な「持続可能な開発目標」であるSDGsの取り組みが進んでいるか ※4 SDGsとは、「Sustainable Development Goals」の頭文字を集めた言葉で、日本語では「持続可能な開発目標」と呼ばれています	5	4	3	2	1
44. DX※5推進 行政手続きのオンライン化、キャッシュレス化などをはじめとした行政のDXが推進されているか ※5 デジタル・トランスフォーメーションの略語で、デジタル技術を活用してサービスの提供方法や業務プロセスを改善し、効率化を図る取り組みのこと	5	4	3	2	1
45. 復興、創生の更なる推進 本市産品等の販路拡大、風評の払しょくに継続して取り組むとともに、誰もが本市の将来に希望と誇りを持てるシビックプライドの醸成や地方創生の更なる推進が図られているか	5	4	3	2	1
【基盤的取組】について、ご意見やご提案がありましたら、ご自由にお書きください。					

4 郡山市のこれからの取組について

現在、本市が進めているまちづくり（取組み）について、以下の1～45の項目の中から特に重要と思われるものを5つ選び、その番号に○印をつけてください。

【Ⅰ. 産業・仕事の未来】 (商業・工業・雇用・農林業分野) 1. 地域産業 2. 創業・起業支援 3. 産業創出・企業誘致 4. 雇用・就労 5. 農林業 6. 特産品ブランド化 7. 輸出・販路拡大 【Ⅱ. 交流・観光の未来】 (交流・文化・観光・シティプロモーション分野) 8. 都市間交流・国際交流 9. 歴史・文化遺産 10. 音楽のまちづくり 11. 観光 12. シティプロモーション・関係人口 【Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来】 (子育て・教育・地域学習分野) 13. 子育て 14. 乳幼児教育・家庭教育 15. 青少年健全育成 16. 学校教育 17. 地域学習 【Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来】 (市民協働・生涯学習・保健福祉・男女共同参画分野) 18. 市民協働 19. 地域コミュニティ 20. 広聴広報 21. スポーツ・文化・芸術 22. 生涯学習 23. 地域福祉 24. 高齢者福祉 25. 障がい者福祉 26. 健康づくり 27. 医療 28. 男女共同参画 29. 多文化共生	【Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来】 (環境・防災・市民安全・生活インフラ分野) 30. 環境活動 31. 5R(資源の有効利用) 32. エネルギー 33. 自然環境 34. 防災 35. 防犯・交通安全・消費者対策 36. ユニバーサルデザイン 37. 交通・道路 38. 計画的な都市づくり 39. 住環境 【基盤的取組】 (行政経営・セーフコミュニティ・連携中枢都市圏・SDGs・DX推進・復興・創生の更なる推進) 40. 行政経営 41. セーフコミュニティ 42. 連携中枢都市圏構想 43. SDGs 44. DX推進 45. 復興・創生の更なる推進
---	--

5 行政センターの利用状況について

郡山市は、大正 13 年 9 月 1 日の市制施行に始まり、昭和 40 年の大合併を経て、現在の形ができました。合併前の旧町村ごとに 14 カ所の行政センターと 4 カ所の連絡所が設置されております。

市役所本庁の支所である行政センターは所管区域毎の独自の歴史や文化を尊重しつつ、本庁まで行かなくても各種手続きができるため、本庁の業務を行政センターが補完しながら、「市民と行政をつなぐ機能」を効率よく確保しています。

行政センターについて今後の施策の参考とするため、以下の質問にお答えください。

- (1) あなたは行政センターを利用することがありますか。
あてはまる番号を 1 つ選び、○印をつけてください。

1. よくある
2. たまにある
3. あまりない
4. ない
5. わからない

- (2) 最後に行政センターを利用したのはいつですか。
あてはまる番号を 1 つ選び、○印をつけてください。

1. 過去 1 ヶ月以内
2. 半年以内
3. 1 年以上前
4. 利用したことがない

- (3) 市役所本庁より行政センターを利用することが多いですか。
あてはまる番号を 1 つ選び、○印をつけてください。

1. はい
2. いいえ
3. 両方同じくらい

- (4) 行政センターを利用することがある場合、利用する目的は何ですか。
あてはまる番号を選び、○印をつけてください。【複数選択可】

1. 各種証明書の取得(住民票、戸籍など)
2. 住所変更・転入転出手続き
3. 税務関係の手続き
4. マイナンバー関連の手続き
5. 国民健康保険・国民年金関係の手続き
6. 福祉・保健関連の相談
7. こども関係の手続き
8. それ以外の手続き

- (5) 行政センターを利用したことがある場合、施設や駐車場の使いやすさはいかがでしたか。
あてはまる番号を1つ選び、○印をつけてください。

1. とても使いやすい
2. 使いやすい
3. 普通
4. 使いにくい
5. 非常に使いにくい

- (6) 行政手続きは、オンラインや郵便請求、コンビニ交付等で対面以外でも利用できます。
利用したことがある手続き方法を選択してください。
あてはまる番号を選び、○印をつけてください。【複数選択可】

1. オンライン手続き
2. 郵便請求
3. コンビニ交付
4. 対面での手続きしか利用していない

- (7) 今後、行政手続きをする際、市役所本庁や行政センター等での対面での手続きと
オンライン手続きのどちらを利用したいですか。
あてはまる番号を1つ選び、○印をつけてください。

1. 対面での手続き
2. オンライン手続き
3. わからない

- (8) 市内に14ヶ所の行政センターと4ヶ所の連絡所が設置されていますが、設置数はどのように
感じますか。
あてはまる番号を1つ選び、○印をつけてください。

1. 多い
2. やや多い
3. ちょうどよい
4. やや少ない
5. 少ない

- (9) 行政センターについて、その他ご意見がありましたら自由に記入してください。

6 あなたご自身について

あなたご自身のことについてお伺いします。

(1)～(8)のそれぞれについて、あてはまる番号に○印をつけてください。

(1) 性別＜性自認は？＞

(あてはまる番号1つに○)

- | | | | |
|-------|-------|--------|----------|
| 1. 男性 | 2. 女性 | 3. その他 | 4. 回答しない |
|-------|-------|--------|----------|

(2) 年齢

(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|------------|------------|------------|
| 1. 18歳～19歳 | 2. 20歳～29歳 | 3. 30歳～39歳 |
| 4. 40歳～49歳 | 5. 50歳～59歳 | 6. 60歳～69歳 |
| 7. 70歳以上 | | |

(3) 職業

(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|----------------|----------|---------|
| 1. 農業 | 2. 給与所得者 | 3. 自営業者 |
| 4. パート・アルバイトなど | 5. 主婦・主夫 | 6. 学生 |
| 7. 無職 | 8. その他 | |

(4) 郡山市での居住年数

(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|-----------|-------------|----------|
| 1. 1年未満 | 2. 1年以上3年未満 | 3. 3～9年 |
| 4. 10～19年 | 5. 20～29年 | 6. 30年以上 |

(5) 居住形態

(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|------------|---------------|---------|
| 1. 持ち家 | 2. 民間の借家・アパート | 3. 公営住宅 |
| 4. 社宅、公舎など | 5. 間借、同居、寮など | |

(6) 現住所の直前に住んでいたところ

(あてはまる番号1つに○)

- | | |
|-----------------------|------------------|
| 1. 生まれてからずっと現住所に住んでいる | 2. 郡山市内の別の地域 |
| 3. 郡山市外で福島県内 | 4. 東京圏※1 |
| 5. その他※2 () | |
| ※1 東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県 | ※2 福島県、東京圏以外の居住地 |

(7) 上の質問(6)で、「2.～5.」に○を付けた方にお聞きます。

移転先として現住所を選んだ理由は何ですか？(あてはまる番号全てに○)

- | | |
|--------------------------|----------------------|
| 1. 生まれ育った場所だから | 11. 病院・医院が近くにあるから |
| 2. 自分や家族の持ち家だから | 12. 住まいの周辺が静かだから |
| 3. 寮や社宅に住むから | 13. 自然環境が身近にあるから |
| 4. 親や子、親族、友人などがいるから | 14. まちなみや景観がよいから |
| 5. 家賃や住宅の価格が手ごろだから | 15. 賑わいや活気があるから |
| 6. 交通(通勤・通学・買い物等)の便がよいから | 16. 犯罪が少ないと感じているから |
| 7. 日ごろの買い物などが便利だから | 17. 街のイメージがよいから |
| 8. 保育所・公園等の子育て環境がよいから | 18. 郡山が好きだから |
| 9. 学校などの教育環境がよいから | 19. 市民の気質や感性が自分と合うから |
| 10. 文化・スポーツ施設などが近くにあるから | 20. その他 () |

(8) お住まいの地域

(あてはまる番号1つに○)

- | | | | | |
|---|--------|---------|---------|--------|
| 1. 旧郡山東部（芳賀・小原田・緑ヶ丘・東部地区など） | | | | |
| 2. 旧郡山西部（駅前・大島・久留米・菜根・開成・小山田地区など上記地区以外） | | | | |
| 3. 富田 | 4. 大槻 | 5. 安積 | 6. 三穂田 | 7. 逢瀬 |
| 8. 片平 | 9. 喜久田 | 10. 日和田 | 11. 富久山 | 12. 湖南 |
| 13. 熱海 | 14. 田村 | 15. 西田 | 16. 中田 | |

◆◆◆ 市に対するご意見等がありましたら、ご自由にお書きください ◆◆◆

以上で、質問は終わりです。

皆さま方からいただきました貴重なご回答・ご意見等は、
郡山市の今後の市政運営に反映させていきたいと考えております。

お忙しいところご協力をいただきありがとうございました。

※ お手数ですが、ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒（切手不要）をお使いの
うえ、切手を貼らずに令和7年6月13日（金）までに、郵便ポストに投函してください。
調査票や返信用封筒へは、お名前、具体的な住所の記入は不要です。

2025 年度 市民意見リーダー
調査結果報告書

令和 7 年 9 月 発行

郡山市政策開発部広聴広報課

〒963-8601 郡山市朝日一丁目 23 番 7 号

電話番号 024(924)2061

E-Mail : kocho@city.koriyama.lg.jp